

静岡県立中央図書館

久能文庫目録

増補改訂版

静岡県立中央図書館

用

静岡県立中央図書館

久能文庫目録

増補改訂版

静岡県立中央図書館

序

『久能文庫』は、初代静岡県知事関口隆吉氏が、将来欧米風の公開図書館を久能山東照宮境内に設立する目的で収集した資料を中核とするコレクションで、氏の没後、大正13年（静岡県立葵文庫開館の前年）から昭和59年までの間に、計4回にわたり関口家から当館に寄贈されたものである。

このうち、大正13年と昭和4年の寄贈分については、現、『静岡県立中央図書館葵文庫久能文庫目録』（昭和44・3・25）に収録されているが、昭和56・59年寄贈分は未収録であり、利用者の便に供するまでに至っていなかった。

本年、関口隆吉氏没後100年を記念して、『関口隆吉関係資料展』を開催し、氏の功績を顕彰するに当たり、これまでの未収録分を整理して追加収録するとともに、現行の目録についても再調査を行い、その結果発見された誤りについても併せて訂正を加え、ここに『静岡県立中央図書館久能文庫目録 増補改訂版』を刊行することにした。ここにははじめて、当館が所蔵する関口隆吉関係資料はすべてこの目録に網羅・収録されることになった。

貴重な資料を、前後4回にわたってご寄贈下さった関口家の方々に改めて感謝申し上げますとともに、これらの資料が多くの方々によって今まで以上に利用されることを切に期待するものである。

平成元年10月1日

静岡県立中央図書館

館長 石田 徳行

— 目 次 —

序

目 次	
凡 例	
Q 0 総 記	5
Q 1 哲 学	11
(哲学, 心理学, 倫理学, 宗教)	
Q 2 歴 史	20
(歴史, 伝記, 地誌, 紀行)	
Q 3 社 会 科 学	63
(政治, 法律, 経済, 統計, 社会, 教育, 民俗, 軍事)	
Q 4 自 然 科 学	83
(数学, 自然科学, 医学)	
Q 5 工 学	85
(工学, 工業, 技術, 家事)	
Q 6 産 業	86
(農林, 水産, 商業, 交通)	
Q 7 芸 術	101
(美術, 音楽, 演劇, 運動, 遊芸, 娯楽)	
Q 8 語 学	104
Q 9 文 学	104

書 名 索 引

付 録

緒 言

久能文庫設立趣意書

關口隆吉氏略年譜

故静岡縣知事從三位關口君碑銘

關口隆正氏略年譜

關口隆正氏著述目錄

「關口家文書追贈の記」序文

凡 例

〔一〕 記載について

- 1 この目録の記載については、原則として「日本目録規則 1965年版」によったが、一部変更したのものもある。
- 2 書名には、ゴシック活字を使用し、冠称、副書名には明朝活字を使用して、書名と、冠称、副書名との区別をした。
- 3 この目録には、旧目録の解題を引用して、参考とした。
- 4 印記については、この集書の全部に「關口氏寄贈久能文庫」「久能山社務所」の印記があるが記載を省略した。
このほか、多数の印記のうち、読解できるものだけを記載し、読解不明のものは省略した。
- 5 字体は、「書名」と「著者名」については、できるだけ原本に忠実に記載するように努力した。

〔二〕 資料番号について

- 1 資料の第一行の頭に、ゴシック体で記した一連番号は「資料番号」である。
- 2 資料番号は、この冊子目録に記載されている資料に限って、「書名索引」とのつながりを持たせるための番号で、その他には関係のないものである。

〔三〕 請求記号について

- 1 それぞれの資料の、第一行後尾に記したものが「請求番号」である。
- 2 請求記号の首字「Q」は、特別蒐書「久能文庫」の首字である。

〔四〕 排列について

- 1 この目録の排列は、「分類受入順」とした。

Q000 総記

Q010 図書館

- 1 関口 隆吉 Q010-1

久能文庫設立趣意書

〔静岡〕 貞松修蔵写 大正14

4丁 27cm 和

内容：久能文庫建設ノ広告

寄附書籍ノ要則

久能文庫建設目論見現況

明治19年関口隆吉氏の久能文庫建設の広告、寄附書籍の要則及び明治22年の久能文庫建設目論見現況を収録してある。

巻末に「京都帝國大学図書館長ニシテ故関口隆吉次子、新村博士ノ所蔵セル原本ヲ写セルモノナリ 大正14年7月 貞松記」とある。

Q016 一般図書館

- 2 近藤 守重（正齋） Q016-1

右文故事附録 2巻

写

2冊 24cm 和

金沢文庫、金沢文庫本および金沢家に関する記録である。巻末に、無改居士関口瓊季璠氏（関口隆正氏）の後記がある。

印記：関口耕堂珍藏之記

Q020 図書・書誌学

- 3 近藤 守重（正齋） Q020-1

御本日記附註 3巻

写

3冊 26cm 和

江戸城蔵本の目録で、形態、来歴などを詳記してある。巻末に「文化十二年乙亥四月十七日 近藤守重識」とある。

印記：瀬邊茂信

- 4 近藤 守重（正齋） Q020-2

御本日記續録 3巻

写

3冊 26cm 和

上巻には、駿府御文庫のこと、中巻には、慶長御版本のこと、下巻には、元禄享保御版のことを記してある。巻末に「文化十三年丙子四月二十日 近藤重蔵守重謹識」とある。

印記：瀬邊茂信

- 5 近藤 守重 Q020-3

御代代文事表 5巻

写

2冊 26cm 和

内容：1 文禄2年～慶安3年

2 慶安4年～寛延3年

文禄二年より寛延三年に至る徳川氏の文事関係の年表で、全五巻を二冊にまとめたものである。巻末に「明治十二年九月十二日以家君之命購于芝字田川街一書肆直金老門無改生関口瑛記」とある。

印記：関口耕堂珍藏之記

6 近藤 守重 (正齋) Q020-4

御代代文事表 5巻

写

5冊 26cm 和

内容：1 文禄2年～慶長19年

2 慶長20年～慶安3年

3 慶安4年～宝永5年

4 宝永6年～正徳3年

5 享保元年～寛延3年

印記：瀬邊茂信 関口

Q022 写本 刊本 製本

7 近藤 守重 (正齋) Q022-1

御寫本譜 2巻

写

2冊 26cm 和

徳川幕府の写本の由来、伝歴等を記したものである。

印記：瀬邊茂信

8 近藤 守重 (正齋) Q022-2

慶長勅版考

写

16丁 26cm 和

後陽成天皇の勅命によって刊行した慶長版についての著者の考証を記したものである。

印記：瀬邊茂信

Q025 一般書目 解題書目

9 書籍目録作者寄 Q025-1

写

60丁 24cm 和

一條兼良外百二十六名の著述目録である。

印記：養間齋蔵書記

10 埽葉山房書目 Q025-2

上海 埽葉山房 光緒8 (明治15)

77丁 17cm 和

上海の書籍店、埽葉山房の目録である。表紙には「埽葉山房書籍發兌」とある。

Q029 蔵書目録

11 正齋先生蔵書目録 Q029-1

写 [天保10]

37丁 24cm 和

近藤守重通称を重蔵、文化年中幕府の書物奉行となる。巻末に「近藤守重字重蔵号正齋蔵書目録一巻、天保十己亥正月從兄青雲堂英文蔵贈之守重所著金銀函録及正齋書籍考右文故事等有数種也 朝倉靖共識」とある。

12 多紀家蔵書目録 Q029-2

江戸 朝倉靖共写 文政9

73丁 23cm 和

江戸官医多紀家の蔵書目録で、各種別に分類し、著者名、出版年紀等を記してある。

13 京極 高富 編 Q029-3

日光山東照宮文庫儲書調

写 [明治10年代]

3丁 27cm 和

日光東照宮の蔵書目録で、明治12年調。
巻末に「明治十二年十月東照宮々司 京極
高富」とある。

14 林家祖先手澤本目録 Q029-4

写

28丁 23cm 和

書名および冊数だけを記してある。表に
「林家祖先手沢本之分 覚」とある。

15 楓山文庫書目 Q029-5

写

28丁 29cm 和

楓山文庫中駿府御文庫本、駿府御讓本等の
箱数および学問所蔵本の目録である。表に
「楓山文庫書目附林家祖先手沢本書目 覚」
とある。

16 林崎文庫蔵書目録 Q029-6

写

3冊 27cm 和

伊勢皇大神宮に属する林崎文庫の蔵書目録
である。現在は神宮文庫に収蔵されている。
印記：新宮城書蔵

17 静岡縣立葵文庫 Q029-7

静岡縣立葵文庫和漢圖書目録

久能文庫之部

静岡 編所 昭和3

44 P 27cm

Q031 百科辞書(日本語)

18 藤原 實熙 Q031-1

拾芥抄 3卷 (中巻第6以下を除く)

京都 村上勘兵衛 明暦2

3冊 28cm 和

歳時、史系、文学、風俗、諸芸、官位、儀
式、国郡、神仏、衣食、吉凶等に関する雑
録である。一名「略要抄」ともいう。

Q049 雑書

19 關口 隆吉 編 Q049-1

黙齋雜記

写 [明治10年代]

61丁 24cm 和

武家の心得、其他を雜記してある。黙齋は
關口隆吉氏の号である。

20 漫 筆 2卷 Q049-2

写

2冊 26cm 和

支那阿片戦争のこと、山岡俊明の「紫のゆ
かり」、其他を記してある。

21 室 鳩巢 Q049-3

駿臺雜話拔書

写

35丁 24cm 和

22 倭漢三才圖會拔(書) Q049-4

源重久写 万延1

7丁 26cm 和

「和漢三才圖會」の天之都よりの抜書で
ある。

23 関口 隆正編 Q049-5

夢界叢書

台北 著者 大正2
200 P 20 cm

内容：ありやなしや（清水正巡）
談兵知要（清水正巡）
銃陣詳説（清水正巡）
和戦失得弁（狂愚陳人）
時幣論
淡蒼漫録（清水正美）
日間寐語（清水正春）
清系略紀（関口隆正）
夢界記（関口隆正）

24 江村 専齋（宗貞） Q049-6

老人雑話

写 [寛政12]
75丁 23cm 和
合綴：関の秋風

倚松庵江村宗貞の雑談を、其の孫宗恕の書き留めたもの。「関の秋風」は松平定信の著で白河の珍しいことなど書き綴って、姉におくったものである。巻末に、「此ハ松平越中守定信後隠居シテ楽翁トイヒシ人ノ作ナリ関ノ秋風トテ人ノ知ル所ナリ 宇都野正武誌」と朱書がある。

25 翁物語 Q049-7

写
71丁 24cm 和

26 篠崎 維章（東海） Q049-8

不問談 2巻

写
45丁 23cm 和

題簽には「とわずかたり」とある。

著者の随筆である。

27 古今雑纂 4巻 Q049-9

写
4冊 23cm 和

諸書を集録および抄録したものである。
印記：関口耕堂珍藏之記

28 反隅筆記 Q049-10

写
40丁 23cm 和
表紙に「責成子」とある。

初めは医術に関する雑記、次は詩文等を記してある。

29 渋川 時英 Q049-11

薰風雑話

写
49丁 24cm 和

甲冑製作のこと、ほか八十八項の随筆である。
印記：報本堂松岡氏蔵書記

30 渋川 時英 Q049-12

薰風雑話

関口隆吉写 慶応2
50丁 24cm 和

関口隆吉氏の自筆写本、表紙に「関口隆吉手写」とある。

31 新井 白石（君美） Q049-13

五事略 2巻

東京 白石社 明治16
2冊 23cm 和

内容：1 殊号事略
2 外国通信事略
3 琉球事略
4 本朝宝貨通用事略
5 高野山事略

- 32 空々叢書 Q049-14
写
128丁 24cm 和
菅沼伝記其他を集録してある。鍋田氏（鍋田三善）の罫紙を使用してある。編者の自筆本か。
印記：關口耕堂珍藏之記
- 33 山東 京傳 Q049-15
近世奇蹟考 5卷
大阪 河内屋茂兵衛 文化2
2冊 27cm 和
俗間に伝わる近古の故実を考証したもので
間々図説するところがある。
- 34 北野大茶湯之事 Q049-16
写
76丁 23cm 和
大閣記其他の抄録である。
- 35 近世雜話物語 7卷 Q049-17
山口忠移写 嘉永4
38丁 23cm 和
元禄前後より、享保改元の頃までに起った
江戸市中の雜話を集めたものである。
印記：外齋
- 36 三浦 梅園（安貞） Q049-18
梅園叢書
写
49丁 23cm 和
梅園叢書よりの抜抄である。
- 37 雜抄 2卷 Q049-19
写
2冊 23cm 和
諸書の抄録および雜記である。
印記：湯岱文庫
- 38 たまつばき 3卷 Q049-20
写
3冊 24cm 和
本書は書名を逸す。小口書に「たまつばき」とあるので、しばらくこれにしたがう。雜録である。
印記：湯岱文庫
- 39 きき書 10卷 Q049-21
写
10冊 23cm 和
随聞、随見、雜事を集録し、また諸書よりの抜抄がある。書名を逸す。小口書にききの文字が見えるので、しばらく「きき書」と題する。
印記：湯岱文庫
- 40 恩餘雜記 Q049-22
養室陳介写 [安政年間]
19丁 24cm 和
安政四年より万延元年までの、社会の事象、その他を見聞のまま随録したものである。
- 41 佐久間 象山（啓） Q049-23
省魯録
聚遠楼 明治4
45丁 26cm 和（複本1冊）
嘉永七年獄に下って七箇月間、ろうやの中にあり出獄の後、在獄中の感想を記したものである。
- 42 遊後樂園記 其他 Q049-24
写
26丁 24cm 和
遊後樂園記、講学約束、高館笈中書、北里三浦樓妓鷹尾子手簡等を集録してある。本書は書名を逸す。卷末に「元本田中勝 主乞而写之 萬延二辛酉春三月 中川高寿」とある。

43 群書合冊 Q049-25
写
114 P 23 cm 和

44 嶮谷叢説 雜集 Q049-26
写
69丁 24 cm 和
内容：新野問答
建官考
天明炎暁之記
老女問答

新野問答は、問 新井白石、答 野々宮定基である。

45 [室 鳩巢] 編 Q049-27
國朝舊章録 5卷(欠卷3, 4)
写
118丁 23 cm 和

編者の議論および、新井白石外数人の著述を収録したものである。

46 [室 鳩巢] 編 Q049-28
國朝舊章録 7卷(欠卷1, 2, 5)
写
2冊 24 cm 和

47 [室 鳩巢] 編 Q049-29
國朝舊章録 8卷(欠卷1, 2, 3)
写
59丁 24 cm 和

卷の六、七、八、五、四の順に合綴されている。

印記：關口耕堂珍藏之記

48 群類一覽 Q049-30
写
98丁 24 cm 和

内容：與力同心申渡覽(仮題)
神州度量衡之制意
天保七年備忘
あふむの言葉
春の海貝のはなし

49 千代田問答 Q049-31
写
70丁 23 cm 和

江戸城に於ける将士の談話に擬し、世情を諷したものである。

50 群書集 Q049-32
写
85丁 24 cm 和

卷末に六樹亭と墨書がある。

印記：六樹亭 定賢之印

Q069 博物館

51 アルチェル氏博物館ノ説 Q069-1
澳國博覧会事務局
53丁 21 cm 和
合綴：チスラン氏勸農説
セツト・カスツ氏牧畜論

博物館の設立について意見を述べたものである。題簽に「アルチェル氏博物館ノ説」とある。

Q081 叢書 全集(日本語)

52 伊勢 貞丈(安齋) Q081-1
安齋叢書 9卷

写 [安永年間]

9冊 26 cm 和

内容：1 求身抄
2 扶桑見聞私記辨偽
3 祝詞
4 直垂考附録
5 秋齋閑語評
6 調度懸問答、つれづれ草の大意、答野間大助書
7 烟艸集説、他

- 8 松島日記注
9 勢語臆断別勘, 残儀兵の辨, 他

有職故実, 考証其他を集めたものである。

印記: 遠州月岡關口氏蔵

- 53 塙 保己一 Q081-2

群書類聚書拔

写

36丁 24cm 和

内容: 合戦部(31)の抜書

印記: 遠州月岡關口氏蔵

- 54 塙 保己一 Q081-3

群書類聚

刊

2冊 27cm 和

内容: 1 合戦部(31)

2 武家部(25)

印記: 遠州月岡關口氏蔵 秦氏蔵書

Q082 叢書 全集(中国語)

- 55 毛 煥文 Q082-1

増補 萬寶全書

刊 乾隆4 (元文4)

合本1冊 23cm 和

天文門以下二十項に分けて記してある。百科全書である。

- 56 席 啓圖 Q082-2

官板 畜德録 20卷 (欠卷1, 2)

江戸 安政3

9冊 26cm 和

印記: 明新館 駿府学校

Q100 哲学・倫理・宗教

Q121 日本思想

- 57 大橋 順藏 (訥庵) Q121-1

關邪小言 4卷

江戸 思誠塾 安政4

4冊 26cm 和

儒学に根拠して, 洋学の新奇に心酔してい

るものを駁撃し, 西洋学を非難したものである。

印記: 遠州月岡關口氏蔵

- 58 室 鳩巢 (直清) Q121-2

鳩巢語類

市川小左衛門写

7丁 28cm 和

士説, 為薩州人野崎八藏書, 病中のすさびの三篇を取録してある。

印記: 報本堂松岡氏蔵書記 磨鐵杵

- 59 西塚 思齋 編 Q121-3
 啓發録
 刊 安政2序
 5丁 25cm 和

論孟庸中の数節を摘出して評したものである。

- 60 太宰 純 Q121-4
 朱子詩傳膏育
 写 [刊年不明]
 56丁 25cm 和
 題簽には「詩傳膏育」とある。

朱子の詩経伝の誤謬を弁論したものである。

- 61 徳川 齊昭 Q121-5
 告志篇
 [水戸] 弘道館 文久3
 19丁 26cm 和

世俗の浮華を戒め文武の本旨を説き、士民を訓えたものである。

印記：遠州月岡關口氏蔵

- 62 會澤 正志齋 Q121-6
 豈好辯
 刊 玉巖書堂 文政11跋
 27丁 26cm 和

邪教詭弁を排して正教真理を發揮した論文である。

印記：遠州月岡關口氏蔵

- 63 原 善 Q121-7
 先哲叢談 8卷
 江戸 慶元書堂 文化13
 4冊 25cm 和

江戸時代の儒家72人の性行、履歴を記したものである。

- 64 東條 信耕 (琴臺) Q121-8
 先哲叢談 後編8卷 年表目録1卷
 江戸 慶元書堂 文政10
 5冊 25cm 和

原善の先哲叢談に続いて、さらに72人の性行、履歴等を記したものである。別に藤原惺窩以来の年表一卷を添えている。原義の序文がある。原義は原善の子である。

- 65 東條 信耕 (琴臺) Q121-9
 先哲叢談 續編12卷
 東京 千鍾房 明治17
 6冊 26cm 和

先哲叢談後編の続きでさらに72人について記してある。

Q123 経 書

- 66 七經雕題略 Q123-1
 写
 113丁 23cm 和

詩経の一部である。零本である。

- 67 林 退菴 Q123-2
 新訂 四書補註備旨 杜定基訂
 刊 維経堂
 171丁 26cm 和
 内容：論語20卷の補注
 清版

- 68 陳 選 Q123-3
 小學存是詳註 4卷
 刊
 2冊 24cm 和
 明版

表紙に「学問所改」の黒印がある。

印記：淺草文庫、緑静堂図書章

大草大次郎図書之印 大草家蔵図書

69 論語 10巻 朱熹註 Q123-4
刊
4冊 26cm 和

70 朱熹 Q123-5
易經本義 6巻 林春齋訓点
大阪 浪花書林柳原喜兵衛 延宝2
6冊 26cm 和
内容：1 序例
2 上經
3 上象伝 下象伝
4 上象伝 下象伝
5 上繫辞伝 下繫辞伝
6 文言伝 説卦伝 序卦伝
雜卦伝

71 木下 守約 Q123-6
蒙求啓發 10巻
写 明14
10冊 27cm 和

蒙求の語句を註釈したものである。

Q156 武士道

72 至公訓 4巻 Q156-1
京都 菊水軒 享保17
4冊 22cm 和

毛利公が家臣中沢某に向って語った弓矢の心得、武家政治、人民撫育のことを記してある。

印記：遠州月岡關口氏藏

73 廣瀬 臺山(清風) Q156-2
文武涇渭辨
写
20丁 24cm 和

文武一方に偏せず、文学者は武を、武術者は文を学ぶべきであることを論じたものである。

Q157 報徳教

74 富田 高慶 Q157-1
報徳記 7巻(欠巻3~7)
東京 騰業社写 [明治初期]
2冊 28cm 和

二宮尊徳の事業を記したものである。

75 遠江國報徳遠讓社之條々 Q157-2
[掛川] 福山瀧助写 [明治18]
6丁 24cm 和

二宮尊徳翁の門人豊田某の撰するところの社規である。内表紙に、「二宮隨身豊田先生撰文」とある。

Q158 石門心学、道話

76 藤澤 南岳 Q158-1
脩身新語
大阪 岡島眞七 明治16
13丁 22cm 和

数項の徳目を挙げ、修身の道を説いたものである。

Q159 教訓, 人生訓

- 77 石田 梅巖 Q159-1

女教訓

写

20丁 24cm 和

題簽には「石田先生語録ノ内女教訓」

とある。

婦女の教訓を書き記したものである。

- 78 小子獨言 Q159-2

写

27丁 24cm 和

皇学を主とし、儒学を加味した一家言、修身、齊家、治国の道を述べている。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 79 若江 秋蘭 Q159-3

和解女四書 5巻 安達清風校

大阪 修道館 明治16

5冊 27cm 和

女誠、女論語、女孝経、内訓の註釈書である。

- 80 東照宮御遺訓 3巻附録2巻 Q159-4

写

3冊 27cm 和

徳川家康の遺訓を記したものである。

印記：渡辺文庫

- 81 神君御婦實能宇都志 Q159-5

写

18丁 24cm 和

家康が秀忠の御台所へ、竹千代、国松二児の教育、其他について申送ったものである。

印記：藍園

- 82 帳中教語 Q159-6

榊原氏写

74丁 24cm 和

神君より、秀忠公の御台所へ、竹千代、国松の養育について申し送られた御書、其他十数篇の家訓等を集む。巻末に「于時文化十四丁丑秋写之畢 政重」とある。

- 83 大島 有隣 Q159-7

信徳録

盍簪舎 天保10

40丁 23cm 和

題簽には「心學信徳録」とある。

修身談および、教順歌を記した修養書である。

- 84 水戸黄門光圈公家訓 Q159-8

写

35丁 28cm 和

題簽には「水戸黄門家訓 耕堂叢書之内」

とある。

合綴：名公示論

中納言光圈卿被納于那須國造之

莖中

- 85 婦人鑑 Q159-9

写

37丁 25cm 和

東都自楽軒の柳營故諺記にならって、貞婦の行状を記し、道歌を引いて婦人の道を説く。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 86 松平 定信 Q159-10

婆心録

写

15丁 23cm 和

諸記録中より徳川家康の遺訓、上意等を集録して子孫の警戒に遺したものである。

- 87 近藤 武群 編 Q159-11
夜鶴集 40巻・目録(欠巻29)
写
40冊 27cm 和

保元の頃より徳川中期頃までの人々の美事
善行を記したものである。
印記：新宮城書藏

- 88 木下 公定 Q159-12
桑華蒙求 3巻
写 宝永7
3冊 28cm 和

古よりの和漢事蹟の類似するものを抄出し、
童蒙教訓の参考としたものである。木下公
定は徳川初期の備中足守藩主、肥後守に任
ぜられ、藩学「追琢館」を興した。本書の
ほかに「桑華雜俎」がある。
印記：新宮城書藏 澁州秘藏 栗瑞文庫

- 89 湯浅 明善 Q159-13
備前孝子傳 5巻(欠巻1)
大坂 河内屋八兵衛 寛政1
4冊 23cm
題簽には「備前國孝子傳」とある。

慶長より天明頃に至る備前藩の忠孝節義の
者の伝説である。

- 90 徳川 齊昭 Q159-14
明訓一班抄
写 嘉永4
2冊 27cm 和

人君の注意すべき要件を論述したものであ
る。巻末に「嘉永四辛亥年三月上旬水戸前
黄門源朝臣齊昭御御手許之源本ヲ以檢合之
本同藩靄峯戊申藏書を以写畢」とある。
印記：遠州月岡關口氏藏 培達堂
大窪氏 管譜藏之

- 91 徳川 齊昭 Q159-15
明訓一班抄
写
74丁 24cm 和

Q170 神 道

- 92 林 羅山 Q170-1
神道秘傳集 2巻
写
1冊 26cm 和

和文で記した神体神道に関する説明である。

Q175 神 社

- 93 三河國六所明神造營奉加軸寫 Q175-1
杉浦勝雅写 明治21
4丁 26cm 和

道閔の自筆で、宮口村旧神宮酒井氏藏のも
のを杉浦勝雅が影写したものである。

- 94 清宮 秀堅 Q175-2
香取新誌
東京 須原鉄二 明治12
32丁 22cm 和

香取神宮の事蹟を記したもので、巻末に
「明治辛巳己秋北総清宮廉堂所贈 耕堂主
人正識」とある
印記：耕堂

Q178 各教派

- 95 磯稻 綺求 兆 Q178-1
一即五成十化更始一
東京 扶桑教會丸山講社 明治13
9丁 23cm 和

丸山講伊藤六郎兵衛の説を書き著したもので、万物生々変化の理を説いたものである。

Q181 仏教教理

- 96 日蓮 Q181-1
立正安國論
江戸 華陽堂 他 嘉永7
30丁 23cm 和

立正安國論を仮名交りに書き改めたものである。

- 97 張 商英 Q181-2
鰲頭 護法論
東京 森江佐七等 [明治初期]
86丁 26cm 和

- 98 櫻木谷 慈 熏 Q181-3
護法論國字疏
東京 圓頓学会 明治21
245P 22cm

張商英の護法論の注釈書である。

Q183 仏典

- 99 御註法華品釋 花園法皇注 Q183-1
京都 出雲寺文次郎
18丁 26cm 和
洛西天球院蔵板

Q184 法話、説教集

- 100 徳本上人言葉能素衛 Q184-1
信西居士写 文政2
26丁 24cm 和

仏教に関する狂歌を集めたものである。
跋文には「言葉の末」とある。

- 101 抜隊得勝 Q184-2
鹽山和混合水集 3卷
刊 文台屋治郎兵衛
3冊 26cm 和

仏教に関する問答を集録したものである。

- 102 夢窓疎石(西山) Q184-3
西山夜話
京都 尚古堂
12丁 24cm 和

京都南禅寺西山和尚の禅話を記したものである。

- 103 一休 Q184-4
佛鬼軍 筠庭節信編
江戸 万笈堂 文政6
28丁 26cm 和

一休和尚の仏鬼合戦状を模本により覆刻したものである。

104 一休 Q184-5
水鏡目無草
刊
29丁 26cm 和

一休和尚の法語水鏡の註釈書である。

105 一休 Q184-6
水鏡註目無草
写
24丁 26cm 和

106 白隠 Q184-7
延命十句観音經靈驗記 3卷
〔江戸〕 植村藤三郎 宝暦9
3冊 28cm 和

白隠禅師の法語である。「八重葎」巻2の付。
印記：永井氏蔵書

Q185 寺院, 僧職

107 駿河國華陽院由緒書 Q185-1
写 安政4
6丁 26cm 和

静岡市譽田町（現在日吉町）にある。

108 華陽院殿一照院殿御由緒書 Q185-2
静岡 堀田感卓写 明治21
14丁 26cm 和
付録：於久之方事跡
華陽院末寺豆州山中村宗閑寺由緒書

静岡市譽田町（現在日吉町）華陽院の由緒書である。

109 華陽院末寺豆州山中村宗閑寺由緒書 Q185-3
堀田感卓写 明治21
4丁 26cm 和

静岡市華陽院の末寺で、田方郡錦田村（現在三島市）にある。

110 寶臺院殿御由緒書 Q185-4
静岡 星野熏成写 明治21
8丁 27cm 和

静岡市下魚町（現在常磐町2丁目）宝台院の由緒書である。

111 三河國法藏寺開運靈驗記 Q185-5
写
31丁 26cm 和

開基由来のことより、松平氏代々帰依のことなどを記してある。

112 三河國二村山法藏寺御由緒書 Q185-6
写
35丁 26cm 和

113 三河國法藏寺御廟御靈牌等之記録 Q185-7
写
24丁 26cm 和

法藏寺にある徳川氏関係の廟、靈牌等を書上げ由緒を記したものである。

114 三河國法藏寺御寶物之記 Q185-8
写
12丁 26cm 和

115 三河國大樹寺草創略記 Q185-9
大樹寺写
5丁 26cm 和

文明七年松平親忠建立のこと、登警戦功のこと、石塔、位牌等のことを記したものである。

- 116 三河國大樹寺開山行状略記 Q185-10
写
7丁 26cm 和
勢譽の行状記である。
- 117 三河國大樹寺御由緒書 Q185-11
大樹寺写 明和4
26丁 26cm 和
明和四年八月寺社奉行久世出雲守へ差出したものの写しである。
- 118 三河國大樹寺御寺領之事 Q185-12
写
3丁 27cm 和
天正十七年小栗氏免状寺領の総高および、内訳を記したものである。
- 119 三河國大樹寺御廟所取調覺 Q185-13
写
17丁 27cm 和
文久三年大樹寺および其末寺等にある徳川氏関係の廟所を取調べ報告したものの写しである。
- 120 大樹寺御陣並御貫木御由緒拔書 Q185-14
写 [江戸中期]
3丁 27cm 和
徳川家康永禄三年五月大樹寺御陣のこと、僧祖同の忠勇、貫木の由緒等を記したものである。
- 121 登譽行状略記 Q185-15
写
4丁 27cm 和
登譽は三河國大樹寺の十三世である。徳川家康大樹寺に陣したとき、忠勤を励んだ。
- 122 浄土宗諸法度 Q185-16
写 [江戸初期]
7丁 27cm 和
元和元年七月の三十五箇条の法度の写である。
- 123 清康様御葬式等之譯書 Q185-17
大樹寺写
3丁 26cm 和
松平清康および久姫葬式のこと、並に善徳院随念寺山緒のことを記したものである。
- 124 三河國信光明寺御修復願由緒書 Q185-18
写
18丁 27cm 和
安永五年に当寺二十三世寂譽上人が修復の願出をしたものである。
- 125 三河國信光明寺棟札寫 Q185-19
写
7丁 28cm 和
題簽には「三河國神光明寺棟札寫」とある。
- 126 三河國信光明寺傳記 Q185-20
写
2丁 27cm 和
- 127 三河國額田郡諸寺明細帳 Q185-21
写
20丁 26cm 和
内容：大樹寺 信光明寺 圓福寺 随念寺
松応寺 大林寺 法藏寺 廣忠寺
諸寺の本尊、山緒、伽藍等を調査し記したものである。

128 三河國額田郡諸寺寶物帳 Q185-22
写
22丁 26cm 和
内容：圓福寺 法藏寺 大樹寺 随念寺
松応寺 信光明寺

129 三河國随念寺善徳院舊記 Q185-23
写
5丁 27cm 和

徳川家康の祖父清康および伯母久姫の菩提のために創立した寺である。

130 三州桑ヶ谷村廣忠寺御由緒 Q185-24
(廣忠寺写)
4丁 27cm 和
題簽には「三河國桑ヶ谷村廣忠寺御由緒」とある。

131 三州高月院古記録 Q185-25
写 明治21, 22
114丁 27cm 和
内容：松平家御草創来由
松平高月官院記
徳川家御系図
松平御年譜
増上寺書上帳
朱印写(吉宗公 家重公 家治公 家齊公 家慶公 家定公 家茂公)
親氏公御贈官願
御裏判御証文
御三方様御廟所大小寸方後通御
善請願記及一件扣
祈古什物帳
高月院由緒書
高月院世代書
明細帳原本
神君様御手植之御松風損ニ付
伐取願一件
東加茂郡松平村にあり山緒、其他を集録してある。

132 乳母局寺極樂寺御由緒之事 Q185-26
写 [明治20年代]
10丁 27cm 和
付録：曹洞宗北雲山乳母局極樂寺舊記
題簽には「岡崎極樂寺舊記」とある。

岡崎にあって、徳川家康建立の寺である。

133 好古雜記 Q185-27
越智直澄写 弘化3
50丁 24cm 和

江戸諸寺の縁起、山緒、鐘銘等を記してある。巻末に「弘化三丙午年二月十二日越智直澄」とある

134 高野山聞書 Q185-28
青嶋利徳写 文政13
25丁 27cm 和

高野山において、元禄年中学侶と行人との紛争のあったことの始末を記したものである。

巻末に「文政十三年庚寅四月上旬写之青嶋利徳」とある。
印記：青島図書

135 公儀御尋並答書留 Q185-29
写
23丁 27cm 和

増上寺より大樹寺へ宛てて、徳川氏関係の山緒を問い合わせたときの往復文書の写である。

Q188 各宗派

136 虚無僧掟之事 Q188-1
写
6丁 23cm 和

慶長十九年正月、虚無僧本寺へ宛てた掟書である。

Q 190 キリスト教

137 安井 息軒 Q190-1

辯妄

[東京] 中西源八 明治6

27丁 19cm 和

西洋宗教の理について、弁妄論断したものである。

印記：文淵堂（黒印） 清瑣之印

清水正美

Q 200 歴史・地理

Q 202 歴史補助学

Q 210 日 本

138 河内国 古雅録 Q202-1

写

5丁 27cm 和

河内国古墳より出たものなどの図解である。

140 黒川 春村 Q210-1

墨水鈔 7巻 附録1巻

写

8冊 26cm 和

付録：帔垂衣考

内容：1 杉山社神壽歌

2 地頭名義考 上

3 同上 下

4 船橋文書

5 長谷寺古銅塔銘 他

6 神祇雜考 上

7 同上 下

印記：新宮之印 加藤信印

Q 203 辞書 書目 年表 歴史図

141 雑書 Q210-2

139 萬國年鑑 2巻 統計寮訳 Q203-1

東京 国文社 明治9

2冊 19cm

1874年版 Statesman's

Year-book の訳本

印記：隆

写

34丁 24cm 和

天明八年松平越中守が幕府の命を奉じて撰んだ御心得十五ヶ条、老心得十九ヶ条、および西洋砲術を論じた時弊論等を集めたものである。

- 142 青楓雜記 25卷 目録1卷 Q210-3
写
26冊 24cm 和
諸事を雜録してある。青楓舎藏の罫紙を使用している。
印記：伊藤家藏
- 143 四大奇書 Q210-4
写
50丁 28cm 和
内容：天竺徳兵衛物語
開軍記
源頼朝公富士野牧狩之次第
武田憲章録
- 144 古文書写 Q210-5
写
57丁 35cm 和
武藏、甲斐地方の古文書五十六通を影写したものである。
- 145 三島神社古文書 Q210-6
写
183枚 37×27cm
三島大社の古文書を三十三番に分類し影写したものである。
- 146 菱川 秦嶺（資） Q210-7
正名緒言 2卷
刊 天明8
74丁 23cm 和
鎌倉以來武家に用いられた称呼を釈し、諸書に徴して考証したものである。
印記：秦嶺館藏 近藤藏書
- 147 大野 廣城 Q210-8
泰平年表 2卷
写
2冊 23cm 和
題簽には「大平年表」とある。
天文十一年（家康）より天保八年（家齊）に至る約三百年間の、年序を追った記録である。
- 148 竹舎主人 Q210-9
武家必覧續 泰平年表 6卷
写 安政5
3冊 26cm 和
卷末に「安政五春成功 静窓」とある。
印記：渡邊文庫
- 149 竹舎主人 Q210-10
武家必覧續 泰平年表 6卷
写
6冊 27cm 和
題簽には「續年表」とある。
安政五年から嘉永五年に至る記録で、本書には要目、索引をつけてある。
- 150 延文略年表 Q210-11
写
33丁 23cm 和
延享より嘉永頃に至る武江年表の抜書である。
- 151 清宮 秀堅 Q210-12
新撰年表
佐倉町（千葉県） 順天堂 安政2序
57丁 26cm 和
安政年間までの和漢洋の年表である。

152 浅野 高藏 Q210-13

和漢年契

江戸 須原屋茂兵衛 安政2
57丁 26cm 和

神武天皇以来、安政頃までの和漢の年表で
年毎にその大事を記してある。

153 伊勢 貞丈(安齋) Q210-14

押字考

写
14丁 27cm 和

古人の花押を考証したものである。
印記：遠州月岡關口氏藏

154 伊勢 貞丈(安齋) Q210-15

五武器談 2巻

写
4冊 26cm 和

保元物語、平治物語、平家物語、源平盛衰
記、太平記に記した武器の考証である。
印記：遠州月岡關口氏藏

155 吉田 松陰(矩方) Q210-16

外蕃通略

写
38丁 27cm 和

合綴：國王稱號論(雨森芳洲)
與新井白石書(雨森芳洲)

徳川幕府の外交政策を批評し、その僭躰、
卑屈を痛論したものである。

156 圖書 拾集雜記 Q210-17

写
79丁 24cm 和

五郎正宗像、正成卿武器等、二十八項精密
な図に説明を添えている。
印記：關口

Q213 日本(古代)

157 廣田 彬 Q213-1

北總匝送郡野手邑内裏塚建碑私祭之記

佐倉町(千葉県) 著者 明治16
20丁 22cm 和

弘文天皇皇妃で藤原鎌足の子、耳面刀白の
碑を、下総匝送郡野手村に建てたときの記録で
ある。

158 野中 準 Q213-2

秀郷事實考

東京 北品茂兵衛 明治17
27丁 25cm 和

諸書に現れた藤原秀郷の事績を考証したも
のである。

Q214 日本(前期封建時代)

159 福鎌堂叢書 Q214-1

写 [嘉永1]

67丁 24cm 和

内容：元人米寇考(新井白石)

高野山事略(新井白石)

古老雜話

寛政御鹿狩記(栗山彦邦)

小金(中江藤樹)

鑑草

卷末に「嘉永元戊申年十一月以佐久間安次
郎所藏之書写置之」とある。

印記：大谷木書庫

160 嘉陵 子重 Q214-2

嘉陵腹議

写

50丁 26cm 和

末尾に「弘化五年二月嘉陵子正靖識」とある。漫録である。

印記：遠州月岡關口氏藏

161 湯淺 常山(元禎)編 Q214-3

常山紀談 10卷

写

10冊 23cm 和

上杉、織田、徳川其他の大小侯およびその仕人に関する雑録である。

印記：六樹亭圖書記 渡邊文庫

162 熊澤 正興 Q214-4

近代正説碎玉話 10卷

写 万延1

10冊 24cm 和

表紙には「武將感状記」とある。

武將の得失、優劣、興亡、勝敗等の事蹟を各項に分けて記したものである。末尾に「万延元庚申歲晩夏写之 鈴木姓」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

163 熊澤 正興(淡庵) Q214-5

近代正説續碎玉話 10卷

写

5冊 27cm 和

表紙には「正説續碎玉話」とある。

卷一信玄深沢発向拾旗事より、卷十蘭奢待のことに至る。二百余条に分けて記してある。

164 松平 家忠 Q214-6

家忠日記増補 25卷 松平忠冬補

写

25冊 27cm 和

題簽には「増補家忠日記」とある。

内容：1 永正8年～弘治3年

2 永禄1年～同6年

3 永禄7年～同11年

4 永禄12年～元龜3年

5 天正1年～同5年

6 天正6年～同9年

7 天正10年～同年8月

8 天正10年9月～同11年

9 天正12年

10 天正13年～同17年

11 天正18年～同年6月

12 天正18年7月～同19年

13 文禄1年～慶長4年

14 慶長5年～同年7月

15 慶長5年8月

16 慶長5年9月～11月

17 慶長5年7月大8～11日大。諸国文乱記。

18 慶長6年～同10年

19 慶長11年～同14年

20 慶長15年～同16年

21 慶長17年～同18年

22 慶長19年～同年10月

23 慶長19年11月～12月

24 元和1年～同年6月

25 元和1年7月～12月

忠冬の祖父、松平家忠の兄開日曆である家忠日記を、増補追加したもので、永正より元和に至る。

165 小川 弘(北海) Q214-7

鎌倉史 50卷

東京 吉川半七他 明治15

10冊 23cm

166 三河國大樹寺古文書 Q214-8

写

9丁 28cm 和

今川義元の文書を影写したものである。内表紙には「今川義元判形」とある。

167 徳川氏前記 Q214-9
写
51丁 27cm 和
親氏君事略, 信忠君事略, 清泰君事略
の各部分に落丁がある。

親氏より徳川家康までの事を記してある。
書名不明のため, 便宜上「徳川氏前記」と
題しておく。

168 大久保 彦左衛門 (忠教) Q214-10
三河物語
写
47丁 25cm 和
表紙には「参河物語」とある。

徳川氏の軍事を記したもので, 第一巻は始
祖世系より広忠の卒去に至る。
印記: 遠州月岡關口氏藏

169 徳川記 18巻 Q214-11
写
6冊 27cm 和

祖先のことより大阪冬之陣に至る徳川氏の
記録である。
印記: 不羈齋圖書記 染井文庫圖書記

170 徳川記 30巻 (欠巻1~21) Q214-12
写
3冊 24cm 和
表紙には「世初要覧」とある。

徳川氏祖先のことより家康薨去までのことを
記した三十巻本である。「徳川記」の一部か。
印記: 遠州月岡關口氏藏

171 松平崇宗開運録 3巻 Q214-13
写
62丁 27cm 和

松平氏の始祖より徳川家康までの事蹟を詳
述したものである。

172 野村 武經 Q214-14
三河軍記 15巻
写
3冊 27cm 和

永正より天正頃に至る, 吉良氏を中心とし
た三河の軍事を記してある。15巻の末尾を欠く。
嘉永六年成る。

173 國枝 清軒 Q214-15
武邊咄聞書
写
76丁 25cm 和

織田, 豊臣, 徳川等の軍戦のことを記して
あるが抜書である。巻末に「文政十二巳丑
歳卯乃花月大吉日 直雅」とある。

174 秀吉公御檢地帳 Q214-16
写
22丁 27cm 和
合綴: 朝鮮御進發之人數帳

諸国の石高を記してある。合綴の「朝鮮御
進發之人數帳」は, 各武将ごとにその引率
の人数を記してある。

175 浪速戦記大全 30巻 Q214-17
写
7冊 29cm 和
題簽には「平定難波草」とある。

豊臣, 徳川, 大阪接戦の始末を記してある。

Q215 日本 (後期封建時代)

176 歴年雑誌 14巻 附録2巻 Q215-1
藤原直庸補
写 安政6
18冊 24cm 和

- 内容：1 慶長1年～承応2年
 2 承応3年～元禄10年
 3 元禄11年～元文4年
 4 元文5年～寛政8年
 5 寛政9年～天保6年
 6 天保7年～天保14年
 7 天保15年～嘉永3年
 8 嘉永4年～同6年
 9 嘉永7年～安政2年
 10 安政2年～同4年
 11 安政5年
 12 安政6年
 13^上安政7年1月～7月
 13^下安政7年8月～12月
 14^上万延2年1月～8月
 14^下文久1年8月～12月

慶長元年より文久元年に至る日記である。
 天保七年以降は筆者藤原直庸の補録したものである。

印記：浅香文庫

- 177 岡田 正利纂補 志貴 昌澄訂修 Q215-2
 慶長日記 増補 5巻(存疑)
 [駿府] 新宮高平写 元治1
 5冊 26cm 和

慶長年間における徳川氏の記録で新宮高平の旧蔵本である。巻末に「慶長日記五巻者借得之八幡神主藏写之但十五十六二年欠元治元年甲子六月 新宮高平」とある。

印記：新宮之印

- 178 慶長覺書 2巻 Q215-3
 [駿府] 新宮高平写 文久2
 2冊 26cm 和

慶長三年より元和三年に至る徳川氏の記録で、新宮高平の旧蔵本である。巻末に「倭学館藏古写本を以て写 文久二年六月 新宮高平」とある。

印記：新宮之印

- 179 元延日記書抜 2巻 Q215-4
 写 文政3
 150丁 25cm 和

題簽には「元延日記抜鈔」とある。
 元和元年より寛永十年頃までの、徳川家の大小事を記したものである。

- 180 寛明日記抄書 Q215-5
 写
 40丁 24cm 和

寛永九年より正保の頃に至る。巻末に「寛保三癸亥八月二日 城明喬写之終ト言以元書 万延元庚申秋七月写之 中川高寿藏」とある。

- 181 巳丑漫録 上巻 Q215-6
 写
 40丁 23cm 和

文政十二丑年三月二十一日神田佐久間町出火の火災に関する町觸、その他の記録である。

印記：癸岡 巻末に亀傳の黒印

- 182 吉田 梵舜 Q215-7
 舜舊記 33巻(欠巻15)
 [駿府] 新宮高平写 安政5
 32冊 23cm 和

- 内容：1 天正11,12,13,20年 18 慶長19年
 2 文禄5年 19 慶長20年
 3 慶長2年 20 元和2年
 4 慶長3年 21 元和4年
 5 慶長4年 22 元和5年
 6 慶長5年 23 元和6年
 7 慶長6年 24 元和8年
 8 慶長7年 25 元和9年
 9 慶長8年 26 元和10年
 10 慶長10年 27 寛永3年
 11 慶長11年 28 寛永4年
 12 慶長12年 29 寛永5年
 13 慶長13年 30 寛永6年
 14 慶長15年 31 寛永7年
 16 慶長17年 32 寛永8年
 17 慶長18年 33 寛永9年

神龍院梵舜が記した天正十一年より寛政九年頃までの日記である。和学講談所本により新宮高平が写したものである。巻末に「舜舊記全部は塙氏藏本を乞もとめて原本の儘写さしむ 安政五戊午年八月 新宮高平」とある。

印記：新宮之印

183 天保甲辰録 Q215-8

写
48丁 27cm 和

内容は「天弘記事」と同じで、本書は弘化三年仁孝天皇崩御のことより以降を記したものである。

184 天弘記事 2巻 Q215-9

写
2冊 27cm 和

内容は「天保甲辰録」と同様に、天保十五年正月より弘化四年に至る間の、幕府処務および、江戸市中雑事等を書留めたものである。「天弘録」とも言う。天弘とは天保、弘化の意である。

185 嘉永戊記 2巻 Q215-10

写
2冊 27cm 和

嘉永三戊年における雑事を集録してある。

186 文久壬戌雑記 Q215-11

写
7冊 27cm 和

文久二壬戌年における雑事を集録してある。

187 文久新聞志 10巻 附録1巻 Q215-12

別録3巻
写
17冊 27cm 和

8巻、9巻上中下、10巻、10巻付録は題簽に「癸亥新聞志」とある。

1巻は上下、別録は、別録、別録条約、別録坂下記にわかれている。

文久年間における朝野内外の雑事を集録したものである。第十冊以降は改元により、「癸亥新聞志」となっている。

188 甲子新聞志 8巻 附録1巻 Q215-13

写
9冊 27cm 和

元治元年甲子年間における内外の雑事を集録してある。

189 乙丑新聞志 正2巻 続2巻 Q215-14

写
4冊 27cm 和
続篇の本文には「乙丑新聞誌」とある。

慶応元乙丑年における雑事を集録してある。

190 丙寅新聞志 Q215-15

写
47丁 27cm 和

慶応二丙寅年における朝野の雑事を集録してある。

191 續談海 18巻 Q215-16

写
18冊 27cm 和
題簽は「讀淡海、續淡海」とある。

延宝八年より天明二年に至る諸事を、日を追って集録したものである。巻末に「羅生窓藏」とある。

印記：渡邊文庫

192 澁井 徳章 Q215-17

實而者舛 初編10巻 二編10巻
三編10巻 四編12巻
刊
42冊 19cm 和

將軍家，三家，執政，若年寄，大老，老中，所司代，城代，三奉行，大目付，譜代，旗本，外様等の由来，事蹟等を記したものである。本書は木活字版である。

- 193 眞田 増譽 Q215-18
明良洪範 11卷(欠卷5)
写
10冊 23cm 和

慶長元和より綱吉將軍の初に至る間の，人々の業績を記したものである。平仮名交り文で，序跋年号がなく，記載法にも年号なく，続々書きつけてある。

印記：渡邊文庫

- 194 大導寺 友山(重祐) Q215-19
落穂集 10卷 附録1卷
写 [宝暦年間]
6冊 27cm 和
付録：落穂集追加靈巖夜話大意之辨

著者の随筆である。

印記：山科藏

- 195 藤 禿翁(鶴唳隠士) Q215-20
東遷成基 4卷
[江戸] 天明2序
4冊 22cm 和

天文十一年元和の頃までの事実を記した「落穂集」の漢訳である。

- 196 江戸官鑰秘鑑 10卷 Q215-21
写
5冊 27cm 和

町人脇差帯する訳の事，ほか主として江戸に関する雑事を載せてある。一部の内題に「江都官鑰秘鑑」とある。

- 197 久松 忠次郎 Q215-22
駿府廣益 2卷
写
2冊 14×18cm

駿府町奉行の勤向に関する参考事項を詳細に集録したものである。文久元年土屋利功の奥書がある。

印記：土屋氏處藏

- 198 後藤 光次 Q215-23
駿府政事録 8卷
写
4冊 26cm

慶長十六年八月朔日より元和二年十二月二十九日に至る，駿府の細大事を記したもので，著者は慶長年間駿府に在職し，官暇に編したものである。新宮文庫の罫紙を使用してある。

印記：新宮之印

- 199 本邦續々史記抜書 5卷 Q215-24
写
5冊 23cm 和
題簽には「本邦史記抜書」とある

徳川初世のことを記したものである。巻末に「武州藤姓督義裔 児玉理平藤原督武藏書」とある。

印記：督武之印 香雪 好齋

- 200 魯西亞入貢記 2卷 Q215-25
写
2冊 28cm 和
内容：上 魯西亞船入津一件
下 魯西亞崎陽上陸附出帆記

文化元年九月露使レザノフが，仙台漂流民を送って長崎に來た際の記録である。下巻末に「文化五戊辰年八月七日写 清風軒」とある。

印記：山名氏藏書

- 201 ゴロウニン Q215-26
遭厄日本記事 12巻 附録3巻
写 安政2
9冊 23cm 和
付録の中には「孟児上書」の書名のものがある。

ゴロウニン等が北海道に幽囚された時のことを、みずから記したものの訳本である。巻末に「安政二乙卯歳冬十月成功 渡辺精文庫」とある。

印記：渡邊文庫

- 202 嘉永六癸丑年長崎入港魯西亜江應接 3巻 Q215-27
写
3冊 27cm 和

嘉永六年露使プーチャチンが、長崎に入港して、樺太国境問題その他につき、筒井肥前守政憲と折衝したときの、問答を記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 203 沿海記事 4巻 Q215-28
写
4冊 27cm 和
内容：1 浦賀異船入津雜記
2 同上
3 浦賀斥候日記
4 洋外紀略

- 204 海防之儀論 Q215-29
写
17丁 27cm 和
合綴：宇多々寢の目覺し

前者は海防の建言書、後者は嘉永七年三月の作で、米船の来航について、存意を返翰として書いたものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 205 魯使應接始末 Q215-30
写
34丁 24cm 和

「長崎入港魯西亜江應接」の中巻と同じである。

- 206 薩長戦記 Q215-31
写
80丁 26cm 和

文久元年長州および薩州における、外国船砲撃の記録である。

- 207 鹿兒島戦争記事 Q215-32
写
40丁 26cm 和

文久三年鹿兒島における、英国船砲撃のことを記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 208 吉良上野介様御下向御休御宿割帳 Q215-33
写 元禄8
1丁 13×34cm

白須賀宿御本陣宿割帳で、当時の原本である。

- 209 淺野内匠頭様御泊御宿割帳 Q215-34
写 元禄8
3丁 37×13cm 和

元禄八年九月下向の折の、白須賀宿宿割帳で当時の原本である。

- 210 関ヶ原以前御日記寫 Q215-35
写 嘉永2
45丁 23cm 和
合綴：淺野内匠頭賜死始末

慶長三年秀吉薨去のことより、関ヶ原合戦の頃に至るまでの記録である。巻頭に「此書の名を記せず、外題に関ヶ原御陣前よりの書付と有り、しはらく隨之」とある。

印記：河内文庫 齋飛魚躍

- 211 赤穂實記 3巻 Q215-36
写
3冊 26cm 和
題簽には「赤穂實録」とある。

奥書に「此書ハ浅野中務少輔殿家来句坂弥治兵衛藏書也句坂之祖父十六才の時此実實を書記し且又文通等後年書加誠の正説なれば予請而書写ス 文化十一甲戌年九月上毛野諸根」とあり、ほかに関口隆正の朱書がある。

印記：耕堂 松岡軒藏

- 212 清水 正徳 Q215-37
赤穂義士人の鏡 2巻
刊 文化11序
2冊 25cm 和
付録：義士手簡真跡摸刻
題簽には「一名 涙襟集」とある。

小野寺十内秀和が、その妻に送った消息文書を集録したものである。

印記：関口耕堂珍藏之記

関口隆吉の朱書あり

- 213 赤穂雜記 Q215-38
越智直澄写 文政9
126丁 23cm 和
「赤穂義人纂書」の一部
内容： 廣岳院様天筆記
太宰赤穂四十六士論
松宮俊仍讀四十六士論
也右翁野夫談
大石氏僕
小野寺秀和妻
吉良氏邸内義士手配之圖
天野屋利兵衛傳
浅野内匠頭家来名書之覺
同家来口上
赤穂義臣繪傳記拔萃

鍋田氏藏書の罫紙を使用してある。卷末に「文政九丙戌年四月 越智直澄」とある。

印記：関口耕堂珍藏之記 鍋田氏藏本記

- 214 義士觀跡志 4巻 Q215-39
写 天保12
2冊 24cm 和

赤穂義士事件の、発端より終末までの記録である。卷末に「天保十二辛丑年三月晦日 越智直澄」とある。

印記：関口耕堂珍藏之記 鍋田氏藏本記

- 215 鍋田 三善編 Q215-40
赤穂義人纂書
写
188丁 23cm 和

義士に関する各種の記録、諸家の自筆序跋がある。鍋田氏藏書の罫紙を使用してある。原本であろうか。

印記：関口耕堂珍藏之記

- 216 義士の文 Q215-41
写
42丁 24cm 和

赤穂義士の書簡を集めたものである。

印記：報本堂松岡氏藏書記

遠州月岡關口氏藏

- 217 赤穂義士手簡 Q215-42
刊 千帆一目樓
34丁 21cm 和

義士の手簡十一通を、真蹟により模刻したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 218 精忠義士實説物語 Q215-43
写
37丁 23cm 和

赤穂義士復讐に関する記録である。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 219 水戸景山老公御密書 Q215-44
写
14丁 27cm 和
表紙には「水府老公密書」とある。

齊昭が海防に関し箇条書で差出したものにさらに註をつけて阿部正弘に送ったものである。

- 220 徳川 齊昭 Q215-45
海防明論
写
19丁 27cm 和
合綴：水府老公御密書
題簽には「水府公 海防明論 御密書拾箇條」とある

水戸齊昭の外交に関する意見書である。
印記：遠州月岡關口氏藏

- 221 徳川 齊昭 Q215-46
水府公献策 5巻
写
5冊 27cm 和
巻2～5の題簽には「上書」とある

時事を極論して幕府へ奉ったものである。
印記：遠州月岡關口氏藏 培達堂
管譜藏書 大窪氏

- 222 角田 九華(簡) Q215-47
近世叢語 正8巻 続8巻
〔江戸〕 慶元堂 弘化2序
8冊 25cm 和

慶長元和以来の逸事異聞を集め、劉向の世説にならい諸目に分けて記してある。正編には文化十三年、続編には弘化二年の自序がある。

- 223 城 兵庫 Q215-48
落照露言抄 2巻
写
36丁 24cm 和

合綴：草賊前記(林羅山)
草賊後記(同上)
飛鳥川(新見伝右衛門)
虎之間百首

今川義元、雪齋長老の事略を記した「落照露言抄」の他に、山比正雪の乱を記した「草賊前記」、上州沼田城の乱を記した「草賊後記」、江戸の変遷を記した「飛鳥川」、幕府出仕の心得を記した「虎之間百首」を集録したものである。

- 224 伊賀者烈士由緒之覺 Q215-49
写
12丁 27cm 和

天正十年徳川家康が伊賀路を越えて帰国した時からの伊賀者の忠勤を記したものである。
印記：遠州月岡關口氏藏

- 225 山口久庵話 Q215-50
写 文政12
33丁 24cm 和

慶長元和大阪両度の役の際、大阪城中にあって実見した戦況実記である。一名「大阪御陣山口久庵咄」とも言う。

- 226 御移替並將軍宣下 3巻(欠巻2) Q215-51
写
2冊 24cm 和

天保八年四月徳川家齊職を家慶に譲り、八月將軍宣下があった。本書はその詳細な記録である。

- 227 柳營秘説 Q215-52
写
9丁 30cm 和

徳川吉宗の次男宗武が奢侈に流れ、遊宴にふけてその役を免ぜられたことを記したものである。

- 228 近藤 守重 (正齋) Q215-53
 守重書簡
 写
 18丁 24cm 和
 近藤守重暇夷地よりの消息、京都東町奉行
 松下信濃守の年寄庄屋への仰渡、重威が自
 身甲冑の石像建立につき、社寺奉行松平伯
 耆守へ差出した書付を集録してある。
- 229 御實記 Q215-54
 写 嘉永6
 87丁 24cm 和
 表紙には「白河樂翁年譜」とある
 徳川家齊の徳を称えた御実記、慶長三、四、
 五年の事を記した関ヶ原御陣前よりの書付、
 松平樂翁の上書、略伝、著述目録、いまし、
 め草等を集録してある。
 印記：關口耕堂珍藏之記
- 230 中山東下記 Q215-55
 写
 52丁 24cm 和
 題簽には「中山記」とある。
 尊号事件につき中山大納言愛親卿閑東に下り、
 松平定信と折衝の顛末を記したものである。
 印記：守靜藏書
- 231 御書付類 Q215-56
 写
 92丁 23cm 和
 内容： 御書付類品々
 御門之心得
 山王御宮參
 御代替起請文
 御成所之御道筋
- 232 君 則 5卷 Q215-57
 写 嘉永5
 84丁 24cm 和

備前池田光政の嘉言善行を集録したもので
 ある。卷末に「嘉永五壬子年季春成功 渡
 辺精文庫 原本飯田氏 吉周写」と朱書が
 ある。

印記：渡邊文庫

- 233 藤田 東湖 Q215-58

常陸帯 上卷

写

79丁 24cm 和

徳川齊昭の善政を記したものである。

印記：關口耕堂珍藏之記

- 234 上書三種 Q215-59

写

33丁 23cm 和

海防外交の問題に関する松平越中守、徳川
 齊昭、会沢安の上書を集めたものである。

- 235 時弊論 Q215-60

写

38丁 23cm 和

合綴：擬対編

嘉永二年五月海防之儀奉申上候

西洋砲術について論じた「時弊論」、杞憂
 陳人の外国船渡来について論じた「擬対編」

嘉永二年五月海防に関する上書の三編を集
 めたものである。内表紙に「耕堂教書」

「二郷先生雜著」とある。

印記：關口耕堂珍藏之記

- 236 渡邊 華山 (登) Q215-61

憤機論

写

36丁 23cm 和

合綴：戊戌夢物語

夢々物語

外国の事情および当時の時勢を論じたもの
 である。

印記：關口耕堂珍藏之記

- 237 三つの談 Q215-62
写
89丁 24cm 和
合綴：疱瘡禁誡十六条（池田瑞仙）
内容：近世奇談（馬文耕撰）
古談記
疱瘡養生訣（池田瑞仙）
印記：湯岱文庫
- 238 随聞雑録 2巻 Q215-63
写
2冊 24cm 和
表紙には「随聞録」とある
宝暦より天明の頃に至るまでの、士民の逸事逸話を集録したもので、上編通計四十一話、下編通計四十九話を載せてある。
印記：外齋 隆正
- 239 忠孝一聞録 15巻（欠1～10） Q215-64
中川伊右衛門写 享和3
1冊 24cm 和
浅井喜三郎、関口伝内が、かたき伴右衛門を討ったことを記したものである。
印記：遠州月岡關口氏藏 中
- 240 西殿其外変事記 Q215-65
写
100丁 23cm 和
文政六年松平外記刃傷の一件を詳記し、なおその他、殿中の刃傷について記してある。
印記：湯岱文庫
- 241 天保七年仙石騒動外雜事留 Q215-66
写
91丁 24cm 和
天保五、六、七年の諸事件を記したものである。
印記：渡邊文庫
- 242 高野 長英 Q215-67
戊戌夢物語
写
32丁 27cm 和
合綴：夢物語批評
夢々物語
「戊戌夢物語」は夢に託して開国前の外交を論じたもので、「夢物語批評」「夢々物語」はこれを評論したものである。
- 243 大坂大塩一件 Q215-68
写
139丁 23cm 和
表紙には「大坂大塩一件」とある
天保八年大塩平八郎騒乱に関する各種の記録を集めたものである。
- 244 天保八丁酉年大坂表騒動留 Q215-69
写
56丁 24cm 和
題簽には「六樹亭隨筆 天保八丁酉大坂騒動留」とある。
大塩平八郎の一件を記したものである。
印記：渡邊文庫
- 245 幻夢山人 Q215-70
わずれ篋
写
9丁 27cm 和
高野長英下獄のこと、獄中の状況、同志の心情等を記したものである。
印記：飯塚文庫
- 246 櫻花餘薫 3巻 Q215-71
写
3冊 24cm 和
桜田門事件に関する各方面の記録を集録したものである。

- 247 雪の朝 Q215-72
写
69丁 27cm 和
桜田門事件の始末を詳記してある。
- 248 壯士慨言 Q215-73
写
23丁 23cm 和
万延元年三月桜田門事件に関する数種の記録を集録してある。「關口氏藏」の朱書がある。
- 249 斬奸趣意書辨 Q215-74
写
23丁 27cm 和
文久二年正月豊原邦之助等が、老中安藤信正を坂下門外に襲撃した時の、斬奸趣意書の妄を弁じたものである。
- 250 斬奸趣意書辨 Q215-75
写
12丁 24cm 和
印記：遠州月岡關口氏藏
- 251 宗門御改帳 Q215-76
写 文久3 元治2
2冊 24cm 和
内容：1 文久三年 上州吾妻郡須川村
2 元治二年 上州吾妻郡蟻川村
- 252 古賀 樸（精里） Q215-77
極論時事封事
写
50丁 23cm 和
合綴：泰西録話 古賀煜（侗庵）
清人奏議
題簽および表紙には「極論時事封書」とある。
徳川家齊の時、国防を蔽にし外寇を防ぐべしと時事を極論したものの。
印記：關口耕堂珍藏之記
- 253 野常紀聞 5巻 Q215-78
写
5冊 27cm 和
元治年間、下野、常陸における攘夷党の乱を記したものである。
- 254 小山 朝弘 Q215-79
常野戦争誌略
東京 春山楼 明治21
133P 19cm
元治年間における常陸、下野の騒乱を記したものである。常野は常陸、下野の意である。
- 255 清河 正明（八郎） Q215-80
潜中紀略 3～5巻
刊 明治18
37丁 24cm 和
文久年間著者が江戸潜匿中のことを、漢文で記した漫録である。
- 256 清河 正明（八郎） Q215-81
潜中紀事 6巻
山形 齋藤誠明 明治20
293P 20cm
- 257 新吉原由緒書 Q215-82
写
96丁 24cm 和
合綴：安民壁書（天保7写）
朝鮮人殺害一件
飯倉敵討の事
公家衆岡山山参詣
道慾点
たとへ草
題簽には「吉原根元記并外六ヶ條」とある。
印記：湯岱文庫

- 258 御朱印記 2巻 Q215-83
写
2冊 24cm 和
内容：上 武蔵 安房
下 山城 大和 河内 和泉
攝津 伊勢 尾張 三河

武蔵ほか九ヶ国の朱印領の石高、宗旨等を記してある。
印記：清音館多氏藏
- 259 恐惶神論 2巻 Q215-84
写
2冊 26cm 和

夢中に神の使が現われ、二荒の神殿に伴い神託にことよせて幕政の非を論じたものである。
印記：東京師範学校圖書印 不羈齋圖書記
- 260 牛込 重恭 Q215-85
時楽軒物語
写
38丁 23cm 和

幕政もしくは幕臣の言行に関する、著者の雑話を筆記したものである。牛込重恭は「時楽軒」あるいは「自楽軒」と号した。
印記：不息書堂之記
- 261 石井 友將 Q215-86
石井復讐記
写
102丁 24cm 和

石井源藏、半藏の兄弟が苦節二十余年にして、父兄の讐、赤城源五右衛門を伊勢亀山に討った終始を、兄源藏が記したものである。巻末に「鉄海 酒井景光印」とある。
印記：援桂 藤原景光
- 262 湯浅 常山（元禎） Q215-87
雨夜燈
写
54丁 24cm 和

古名士の逸話を集め、またこれを批評して池田宗政へ奉ったものである。
- 263 昇平夜話 9巻 Q215-88
写
9冊 28cm 和

徳川幕府昇平時における、諸侯諸士に関する雑話を上、下二篇に分ち記したものである。付録に「足軽以下農工商大意」がある。
- 264 寛永舊儀 Q215-89
写
47丁 26cm 和

寛永三年九月後水尾帝の二條城に行幸のあった際の記録である。
- 265 公事雑書 Q215-90
写
125丁 24cm 和

寛政三年より天保九年頃までの人殺し、水帳焼失、高札焼失、行倒死人、変死等に関する伺、指令、処分等を書き留めたものである。
- 266 天保嘉永書留 Q215-91
写
62丁 23cm 和

天保、弘化、嘉永年間における觸、申渡等を記してある。
- 267 嘉永撰要類集 卷29 Q215-92
写
297丁 27cm 和

芝居および吉原町之部で、願、達等の書類を集録したものである。

- 268 本多 正信 Q215-93
 本佐録
 写
 56丁 21cm 和
 徳川家康の家老だった著者が、秀忠將軍の
 間に答えて奉った建議書である。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 269 新井 白石(君美) Q215-94
 白石奏議
 写
 34丁 24cm 和
 国家の政事、財政に関して幕府の諮問に答
 えたものである。
 印記：左文右武
- 270 田禄出納常平議 Q215-95
 写
 48丁 23cm 和
 吉宗將軍の下問に対して室新助が答申した
 要件を記したものである。
 印記：数原家藏
- 271 上書評論 Q215-96
 写
 65丁 24cm 和
 付録：物價論(松平定信)
 山下幸内の上書を寛政年間の執政白川侯定
 信等が廻覧して論評したものである。
 印記：雪居書記
- 272 松平越中守諭告 Q215-97
 写
 38丁 23cm 和
 松平定信の勤儉に関する諭告および、植崎
 九八郎の幕政に関する意見書を合綴してあ
 る。
 印記：湯岱文庫
- 273 三輪・信善編 Q215-98
 みかけあふぎ
 織田完之写 明治14
 21丁 24cm 和
 水戸齊昭が郡中へ示した諭告、訓言等を集
 録したものである。
- 274 要筐辨志年中行事 5巻 Q215-99
 写
 5冊 27cm 和
 題簽には「要筐辨志」とある。
 徳川幕府の年中の儀式その他を雑記したも
 のである。
 印記：耕堂 駿河ノ國庵原郡由比驛山比
 郷右衛門藏書ノ記
- 275 殿中年中行事 Q215-100
 柳田重利写 明和2
 25丁 24cm 和
 徳川家殿中の年中行事を記したもので、武
 家諸法度を添えてある。巻末に「明和二丙
 年五月 柳田重利写之」とある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 276 會所取調方二付會所役人共 Q215-101
 差出候書付
 写
 73丁 26cm 和
 長崎会所の外国貿易に関する書付である。
- 277 大石 久敬 Q215-102
 地方凡例録 11巻(欠巻2, 3)
 写
 5冊 23cm 和
 地方の総論を記し、国郡里のことから徳川
 時代の地方制度、その他地方に関するもの
 を詳細に記してある。
 印記：遠州月岡關口氏藏

- 278 鉄砲改帳 Q215-103
写
19丁 24cm 和
天保十年下野国地方における、久世伊勢守所領の鉄砲持主を調べ、神尾山城守へ差し出したものである。
- 279 鉄砲持主名前書上帳 Q215-104
写
13丁 26cm 和
天保十五年調べ、上野下野地方のものである。
- 280 舊諸藩貸上金凡調 Q215-105
東京 山片重明写
7丁 27cm 和
京橋区木挽町山片重明が、旧諸藩への貸上金を書き上げたものである。
- 281 度竿六尺一分之考 Q215-106
写 文久1
20丁 26cm 和
合綴：税則三ツ五分之答
六尺一分および三ツ五分の制について、古来の沿革を述べ、考証したものである。
- 282 遠江國表面録 明治8年改正 Q215-107
写
11丁 26cm 和
遠江国の田畑、宅地、塩田、荒地等の段別および地価を記してある。静岡県浜松支庁の罫紙を使用してある。
- 283 遠江國市街地表面録 明治8年改正 Q215-108
写
6丁 27cm 和
遠江国市街地の調査で、新旧調査の増減を記したものである。浜松縣管下の罫紙を使用してある。
- 284 琉球國郷帳 3巻 天保五年 Q215-109
写
1冊 26cm 和
天保五年十二月明樂飛弾守等の調査した、琉球諸島の石高で、元禄年間の調査も付記してある。
- 285 年貢米金皆濟期月 Q215-110
写
3丁 27cm 和
享保二年の定で、諸国の納期を記したものである。元老院罫紙を使用してある。
- 286 寒風澤湊積立御用留 Q215-111
写
21丁 18cm 和
題簽には「奥州伊達信夫郡村々江戸御廻米寒風澤湊積立御川留」とある。
奥州伊達信夫郡村々の年貢を、寒風沢より江戸へ積出した記録で、文政年中のものである。松井藤五郎手控。
- 287 榛原郡千頭村年貢割付 Q215-112
写 正徳1
1枚 32×120cm
正徳元年静岡縣榛原郡上川根村千頭のものである。
- 288 榛原郡千頭村年貢割付 Q215-113
写
1枚 32×150cm
享和三亥年静岡縣榛原郡上川根村千頭のものである。

- 289 榛原郡水川村年貢割付 Q215-114
写 承応2
1枚 30×40cm

承応二巳年静岡県榛原郡中川根村水川のものである。

- 290 榛原郡上長尾村年貢割付 Q215-115
写 享保7
1枚 30×150cm

享保七寅年静岡県榛原郡中川根村上長尾のものである。

Q216 日本(近代)

- 291 金井 之恭 Q216-1
使清辨理始末
〔東京〕 編者 明治8
466P 24cm (複本1)

台湾事件解決のため、明治七年全権大使として、大久保利通が清国政府と交渉した顛末を記してある。

印記：隆

- 292 外務省 Q216-2
秘魯國マリヤルヅ船一件
東京 横濱日就社
21丁 26cm 和

明治五年秘露(ペルー)船 マリヤルヅ号が、清国民を強置し、帰途横浜に立寄ったことによって起った。ペルー国との交渉を記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q218 日本(地方史)

- 293 伊加倉 俊貞 Q218-1
校正 鹿兒島外史 5巻
東京 清弘堂 明治18
5冊 23cm 和

印記：隆正 外齋

- 294 御普請所堰橋其外御尋二付書上帳 Q218-2
写 慶応3
6丁 25cm 和

慶応三年十月神奈川久良岐郡金井村より、その地頭に差出したものである。

- 295 古老曼辭 Q218-3
52丁 24cm 和

安永年間の駿府代官、柴村藤三郎旧藏「地方の覚」の題名を改めたものである。

印記：山縣藏印

- 296 岐阜縣笠松郡代所演説書 Q218-4
笠松郡 笠松郡代所 〔慶応3〕
250丁 26cm 和

慶応三年新旧郡代交替の際の引継書である。岐阜県の罫紙を使用してある。

Q219 有職故実 儀式典例

297 伊勢 貞丈 (安齋) Q219-1

貞丈雜記 16卷

江戸 文溪堂 天保15

32冊 26cm 和

- 内容：1 礼法 祝儀
2 人品 人物 人名
3 小袖 烏帽子
4 役名 官位
5 装束
6 飲食
7 膳部 酒盃 輿
8 調度
9 書札 進物
10 弓矢
11 武具
12 刀劔
13 馬 馬具
14 家作 座鋪飾 紙類
皮類
15 鳥目 鷹 物数 言語
16 神仏 諸結 凶事
雜事 書籍

有職故実に関する随筆である。

印記：遠州月岡關口氏藏

298 伊勢 貞丈 (安齋) Q219-2

武門故實百箇條細註

写

3冊 28cm 和

題簽には「武門故實百箇條」とある。

多田義俊の武門故実百箇条を評論考証したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

299 伊勢 貞丈 (安齋) Q219-3

四季草 7卷

佐々木万彦写 寛政3

2冊 27cm 和

射芸その他武家に関する故実を詳記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

300 伊勢 貞丈 (安齋) Q219-4

舳鱸訓 5卷

写

5冊 26cm 和

故実その他に関する雑録である。

印記：遠州月岡關口氏藏

301 伊勢 貞丈 (安齋) Q219-5

安齋漫筆 6卷

三宮貞次写

6冊 28cm 和

故実、有職その他に関する漫録である。

印記：遠州月岡關口氏藏 講取館藏

窪田文庫

302 皇朝恒例行事略 Q219-6

晁好写 文化7

32丁 26cm 和

禁中における年中行事を記したものである。

卷末に「此書福嶋分兵衛ナル者ヨリ乞求テ

写畢時ニ文化七庚午年十一月 晁好」とある。

303 義輝公御元服記抄 Q219-7

写

17丁 29cm 和

付録：元服書拔書

天文十五年十二月十九日今川義輝元服の次第を記入したもので、元服書拔書を添えてある。

印記：關口耕堂珍藏之記

Q222 中国 (シナ)

304 俞 大猷 Q222-1

正気堂集 16巻 餘集4巻 続集7巻

写

10冊 27cm 和

印記：遠州月岡關口氏藏

305 夷匪犯境聞見録 6巻 Q222-2

明倫堂 安政4

6冊 26cm 和

支那と諸外国との交渉を記してある。岡村
斐谷の校訂手録である。関口隆正の後記が
ある。

印記：關口耕堂珍藏之記

306 春秋外傳 国語定本 21巻 Q222-3

呉, 韋昭解 宋氏補音 秦鼎校

大阪他 河内屋茂兵衛他 文化7

6冊 25cm 和

内容：1 周語 上・中
2 周語 下 魯語 上・下
3 齊語 全 晉語 1・2
4 晉語 3～6
5 晉語 7～9 鄭語 全
6 楚語 上・下 吳語 全
越語 上・下

印記：耕堂

307 范 祖禹 Q222-4

東萊先生音註 唐鑑 24巻 呂祖謙註

刊 嘉永6

5冊 26cm 和

祖禹が編集官となり、唐史を分掌したとき、
得る所をもって撰んだ唐の歴史である。

印記：縣氏主静堂藏弁記

308 唐國聞合覺書 2巻 Q222-5

写

60丁 27cm 和

清の初世における政治、風俗、宗教等のこ
とを記してある。

309 潘 光祖 Q222-6

明清翻記 10巻

江戸 須原屋茂兵衛等

10冊 25cm 和

明の太祖より十六世思宗までの歴史で、清
の興起と、明の滅亡を記したものである。
和文に書き改めてある。

310 長孫無忌 Q222-7

故唐律疏議 卷4, 5 卷20～22

写

2冊 24cm 和

唐の律令を記し、これを解義したものであ
る。操神堂藏の罫紙にするす。

印記：柳城書庫之印 遠州月岡關口氏藏

311 朱 健 Q222-8

古今治平略 卷5, 6

刊

99丁 24cm 和

内容：卷5 屯田篇

卷6 水利篇

印記：柳川藩邸図書府印

遠州月岡關口氏藏

312 皆川 文休 Q222-9

戰略

写

18丁 24cm 和

後漢書の抄録である。

印記：遠州月岡關口氏藏

臨川亭図書

313 薛 傳源 Q222-10
防海備覽 10卷
望山堂 嘉慶16 (文化8)
271丁 23cm 和

印記：隆正 外齋

314 苻 唐 Q222-11
防海紀略 2卷
上洋文芸齋 光緒6 (明治13)
2冊 25cm 和

印記：隆正 外齋

Q223 東南アジア

315 大越史記全書 24卷 Q223-1
引田利章校訂
東京 引田利章 明治18
10冊 26cm

- 内容：1 総論 大越史記全書紀年目録
越鑑通考總論
2 大越史記 外紀全書
卷1～5 鴻臚紀 蜀紀 趙紀
屬西漢紀 徵紀 屬東漢紀 士
紀 屬吳晉宋齊梁紀 前李紀
趙越紀 後李紀 屬隋唐紀 南
北分争紀 吳紀
3 大越史記本紀全書 卷1～卷4
丁紀 黎紀 李紀之一 李紀之
二 李紀之三
4 大越史記本紀全書 卷5～卷6
陳紀之一、二
5 大越史記本紀全書 卷7～卷9
陳紀之三、四 後陳紀 屬明紀
6 大越史記本紀実録 卷1～卷2
黎紀之一、二
7 大越史記本紀実録 卷3～卷4
黎紀之三、四
8 大越史本紀実録 卷5～卷6
黎紀之五、六
9 大越史記本紀続編 卷1～卷3

黎紀之七、八、九

10 大越史記本紀続編追加 黎紀
之十

安南の太古より、黎氏二十世嘉宗 (延宝、
天和の頃) に至る変遷を編年体に記したも
のである。

Q234 ドイツ

316 カーケルン Q234-1
獨逸國開化戦記 3篇
東條一郎訳
刊 [明治10年代]
73丁 21cm 和
題簽には「獨逸國開化戦」とある。

1870年代における、ドイツ国の政府と、
教会との争論を記したものである。

Q281 伝記 (日本)

317 雪操覺書 Q281-1
写
23丁 24cm 和

武將の逸話を、諸書より抜書して集めたも
のである。

印記：遠州月岡關口氏藏

318 近松 茂矩 Q281-2
三忠傳附考 5卷
写
73丁 25cm 和

安東守約の著した、平重盛、藤原藤房、楠
正成の三忠伝の附考である。また附考追加
上下2巻には石田三成、森蘭丸、浅野長矩
らに言い及ぶ。

印記：久野家藏

- 319 清原良業ほか Q281-3
倭論語 10巻
写
10冊 23cm 和
神部、人王並親王部、公卿部、武家部、貴女部、釈氏部に分け、善行美事を記したものである。
巻末に「天保十四癸卯年吉松姓所持を講模写ス 巻中誤字最多一見ノ君子補助希而已正張」とある。
- 320 本阿彌 長識 Q281-4
空中齋草鈔
東京 吉川半七 明治17
17丁 23cm 和

本阿彌光悦と母妙秀との逸話を集めたものである。
空中齋とは、光悦の孫光甫の屋号である。
- 321 清水 正則 Q281-5
寶藏院世譜略
写
24丁 折込1枚 24cm 和
合綴：兵法武藏傳記（立花峰均）
題簽には「鎌寶藏院世譜略、宮本無三四伝記」とある。

印記：隆正 外齋
- 322 藝王姓氏録 (前) Q281-6
刊
練武堂 安政6 序
32丁 12×18cm 和

天保年間における、槍術家の姓名録である。
- 323 御進發御用掛御供奉御役人附 Q281-7
京都 出雲寺萬次郎 慶應1
62丁 6×16cm 和

慶應元年徳川家茂旗下および、親藩の兵をひきいて、長州を討った時の人名録である。
- 324 大名衆国分武鑑 Q281-8
写
20丁 14×20cm 和

諸大名を国別に記し、石高および、江戸よりその城下までの里程等を記したものである。
- 325 新板改正 享和武鑑 Q281-9
刊
152丁 16×11cm 和
御大名衆巻之1
- 326 武鑑 Q281-10
刊
112丁 15×22cm 和

年代不明、慶應二年頃までの記事がある。
- 327 新板改正 文政武鑑 Q281-11
刊
2冊 16cm 和
内容： 御大名衆巻2
西御丸附巻4
- 328 武鑑 Q281-12
刊
179丁 16cm 和

年代不明、安政五年頃までの記事がある。
御大名衆巻之2
- 329 都のそら Q281-13
京都 村上勘兵衛等 元治1
29丁 8×16cm 和

文久三年徳川家茂將軍上洛の際の御供役人、ならびに宿所を記し、はじめに行列の図がある。

330 駿藩各所分配姓名録 Q281-14

駿府 本屋市藏 [明治2]
55丁 8×17cm 和

駿府藩の人名録、府中奉行中台信太郎、中泉添奉行淵辺徳藏等とあるのを見れば、明治二年の三月より八月頃までのものである。
「学問所製本所 駿府江川町 本屋市藏」とある。

331 京都御役鑑 Q281-15

[京都] 石田治兵衛 慶応4
37丁 8×11cm 和

王政復古後、最初の官員録である。

332 公武有司集覽 Q281-16

東京 出雲寺萬次郎 [明治初期]
46丁 16cm 和 (複本1冊)

明治元年最初の職員録である。

333 職員録 Q281-17

東京 和泉屋市兵衛 須原屋茂兵衛
[明治初年]
97丁 13×24cm 和

明治初年(二年頃?)の官員録である。

334 正司 孝祺(南缺) Q281-18

武家七徳 前編10巻
西肥 碩溪堂 嘉永5 序
10冊 26cm 和
原本には、正司南缺とある。

部類別とし、賢君明臣の言行を記してある。
印記：遠州月岡關口氏藏

335 新井 白石(君美) Q281-19

藩翰譜 92巻・首巻
写
32冊 23cm 和

慶長五年より延宝八年に至る80年間の万石以上337家の伝記沿革等を集録したものである。
印記：樸寿園図書記 石坂氏藏□之印

336 近松 茂矩 Q281-20

昔咄 前編7巻 後編6巻
写
6冊 26cm 和

前編七巻は尾張藩主の逸話等を記し、後編六巻は、「新著聞集抜書」その他を記したものである。
印記：新宮城書藏

337 寛永小説 2巻 Q281-21

林信篤写 享保3
41丁 26cm 和

寛永年間における幕府名臣の言行を略記したものである。

338 室 鳩巢 Q281-22

鳩巢小説 3巻
写
3冊 27cm 和

將士の逸事美談を書き綴ったものである。

339 鳥居家中興譜 Q281-23

写
51丁 24cm 和

伊賀守忠吉、彦右衛門元忠、左京亮忠政、伊賀守忠恒、主膳正忠定等の勲功を記したものである。
巻末に「天保十三壬寅年二月廿二日 越智直澄」「甲申二月購於浅草隆正記」とある。

340 菊池 彌門 Q281-24

柳營秘鑑 35卷

写

35冊 26cm 和

内容：1～5 寛保1～10
6～9 寛保新正1～12
10～12 拾遺1～5
13～16 脱漏1～12
17～19 殘集1～10
20～22 新益1～10
23～26 温知1～12
27～30 儲孫君事録1～11
附録上，下
31～35 婦女伝1～18

秘鑑は、徳川幕府年中礼式、殿中尊卑の格例、諸侯伯上下、諸士、諸吏の勤法等の事実を記する。

脱漏は徳川氏に関する雑事を筆録し、正徳・享保の事が多い。

婦女伝は徳川氏代々の婦人列伝である。

菊池彌門は江がの人、幕府の士である。

341 菊池 彌門 Q281-25

柳營婦女傳系 17卷

写

5冊 26cm 和

題簽には「柳營婦女傳」とある。

徳川氏代々の婦人列伝である。

342 東曜婦徳辨 Q281-26

写

73丁 24cm 和

題簽には「東曜婦徳傳」とある。

徳川吉宗の命により、徳川家婦女の事蹟を集録したものである。

343 御代々御裏方並御連枝方御法号附 Q281-27

鈴木敦英写 文政8

50丁 18×4cm 和

徳川家の法号を忌目の順に記したものである。

344 馬場 文耕 Q281-28

武野俗談 2卷

写

2冊 27cm 和

名術之部、靈釈之部、愚夫之部、名剛夫之部に分け逸事俗話を記したものである。

345 盧 驥（千里） Q281-29

先民傳 2卷

江戸 慶元堂 文政2

2冊 27cm 和

長崎に関係ある人の伝記で、十之部に類別して記してある。

盧千里（盧驥）は長崎の人で、千里という。范陽盧氏の子孫の帰化したものであるという。

346 池永 豹 Q281-30

日本 諸家人物誌 2卷

大阪 伊丹屋善兵衛板 寛政4

105丁 16cm 和

著者池永豹は、南山道人といい、儒家、医家、歌学、国学、書画等の諸家の小伝と著述目録を記載したものである。

印記：耕堂

347 青柳 文蔵 Q281-31

續 諸家人物誌 2卷

江戸 須原屋茂兵衛他 天保3

3冊 16cm 和

各家に分けて、略伝と著書を記してある。

印記：耕堂

348 悟免庵主人 Q281-32

當世名家 評判記 前編 2巻

刊 天保5

2冊 19cm 和

経学、詩文、書、医、本草その他に分け、当世（天保五年頃）の名家を批評したものである。

印記：耕堂

- 349 森田 金吾 Q281-33
御祭系譜
写 [万延元]
折本1冊 32cm

法号をもって記した、徳川家の略系ならびに、略伝である。

- 350 崇廟祭名録 Q281-34
写
33丁 27cm 和

徳川家の法号を忌日の順に記したものである。

印記：中通外直

- 351 目賀田 守蔭 Q281-35
静岡眞誌
写 明治2
91丁 27cm 和

徳川家の法号を菩提所別に記したもので、巻末に「東叡山法嗣歴代」を付けてある。

Q288 系譜 家伝 紋章

- 352 松平御年譜 Q288-1
信光明寺写
12丁 27cm 和
題簽には「松平御年譜」とある。

松平氏の祖先より、徳川綱吉まで、および傍系の葬地法号等を記したものである。

- 353 三河松平御系圖参考書 Q288-2
写
34丁 27cm 和

内容：參河松平諸家御系図大全第1（佐野成編）

松榮記事 卷之1

成功記 卷之1

徳川記

御年譜序

參河松平諸家御系図大全外数種の参考記録を抄録したものである。

- 354 御系圖 Q288-3
写
8丁 28cm 和

徳川氏の祖先より四代將軍家綱までの系図である。

- 355 御系譜 新井筑後守校考 Q288-4
写
55丁 27cm 和

徳川家綱までの系図、徳川よりの賜姓、松平五人衆七人衆のこと、三河の旧儀、関東譜代旗本の石高等を集録したものである。

印記：月堂蔵書

- 356 諸家圓系圖 2巻 Q288-5
刊
2冊 27cm（折たたみ）

徳川家綱の代まで円形に書いた系図である。

- 357 補正御系略 Q288-6
写
40丁 13×18cm 和

徳川家康より家慶に至るまでの系図である。

印記：養間齋蔵書記

- 358 御當家系圖 1巻 Q288-7
写
1巻 32cm
清和天皇より、徳川家康に至る間の系図である。
- 359 竹尾 次春 Q288-8
幕府祚胤傳 総巻数不明
写
8冊 27cm 和
内容：祚胤傳 2~4 (第1冊欠)
祚胤傳條流 [田安殿]
祚胤傳御條流一橋殿 2~4 (第1冊欠)
徳川家、ならびにその一族の系図および略伝を記したものである。
- 360 柳營以貴小傳 2巻 Q288-9
写
33丁 20cm 和
内容：徳川將軍家
東照宮御遷座之記 (烏丸光廣)
乾巻には、家康より吉宗までの略伝、および「徳川御親族記」を載せ、坤巻には、「東照宮御遷座之記」(烏丸光廣著)その他を載せてある。
- 361 源姓淺野氏系譜 Q288-10
写
83丁 24cm 和
改選諸家系譜よりの抜書である。
巻末に「文政十一戊子年八月廿五日 越智直澄」とある。
印記：鍋田氏蔵本記 關口耕堂珍藏之記
- 362 井伊氏系圖 Q288-11
54丁 27cm 和
題簽には「井伊家系圖」とある。
直弼の時代嘉永四年頃までの系図である。
- 363 井伊家略御年譜 Q288-12
写
72丁 24cm 和
祖先より直弼(弘化三年頃)までの系譜である。
見返しに「木原蔵本」と墨書がある。
- 364 井伊家傳記 2巻 Q288-13
写
2冊 27cm 和
井伊家の祖先のことを記してある。
- 365 井伊家覺書 Q288-14
写
65丁 24cm 和
合綴：中野圓心書付
井伊家の功績を記したものである。
巻末に「天保十三壬寅年二月廿二日 越智直澄」とある。
- 366 渡邊氏系譜 3巻 Q288-15
写
126丁 23cm 和
源姓渡邊氏の系図、および系譜参考事項文書等を集録してある。
巻末に「弘化丁未年四月成功 渡邊精蔵本印」とある。
印記：渡邊文庫
- 367 蒲生 君平(秀實) Q288-16
山陵志 2巻
刊 文政5序
37丁 27cm 和
歴代御陵のことを考証記述したものである。
- 368 後陽成院八ノ宮様御由緒 Q288-17
相川村(山梨県) 鷹林香流
写 明治16
9丁 27cm 和
二品良純親王の甲斐配流より、御赦免御帰洛および薨去のことを記したものである。

369 御園 憲澄 Q288-18

懷玉 雲上示正鑑 2卷

東京 須原屋茂兵衛 明治1

2冊 16cm 和

題簽には「慶応新刻雲上示正鑑」とある。

維新新政の組織、皇室、公華等の世系紋所を記したものである。

370 御軍令御印並御旗本惣印 Q288-19

写

24丁 15×21cm 和

371 福澤 重香 Q288-20

帝室財産意見

東京 著者 明治15

16P 19cm

全国有志の献資をもって、我が帝室の財産を起すことを述べ、且、宮内卿に宛てての建議書を載せてある。

371a 関口家資料 (1-245) 56巻 Q288-21

245点

(山岡鉄太郎関係)

1 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年12月23日、〔〕年11月12日、〔〕年3月1日

2 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛〔〕年11月22日、〔明治〕年7月10日、〔〕年6月6日

3 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年4月11日、〔〕年〔〕月16日、〔明治〕年2月8日

4 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年4月9日、〔〕年7月22日、〔〕年10月2日

5 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年〔〕月16日、〔〕年4月3日、〔〕年10月28日

6 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年11月12日、〔〕年2月8日、〔〕年8月20日

7 出岡鉄太郎書簡 4通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年1月7日、〔〕年1月21日、〔〕年3月25日、〔〕年12月19日

8 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年1月4日、〔〕年5月11日、〔〕年9月22日

9 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年5月7日、〔〕年10月19日、〔〕年8月2日

10 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛〔〕年4月小画(断簡)、〔〕年12月4日、〔〕年11月14日

11 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年4月8日、〔〕年11月18日、〔〕年7月26日

12 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年5月16日、〔〕年4月17日、〔〕年10月1日

13 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年7月7日、〔〕年3月15日、〔〕年6月14日

14 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年10月2日、〔〕年12月20日、〔〕年8月21日

15 山岡鉄太郎書簡 3通(1軸)

関口隆吉宛〔〕年6月22日
関口隆吉宛〔〕年2月7日、〔明治〕年10月21日

16 山岡鉄太郎書簡 4通(1軸)

関口隆吉宛(明治)年6月19日、〔〕年10月11日、〔〕年5月8日
関口隆吉宛(明治)年2月23日

17 山岡鉄太郎書簡 4通(1軸)

臥竜先生宛(明治)年5月晦日
北島宛(明治)年6月9日
袖山正志宛(明治)年9月4日
香川敬三宛(明治)年1月27日

18 関口隆吉書簡(年月不明) 1通(1軸)

19 書簡 伊藤宛(年月不明) 1枚

20 山岡鉄太郎書簡 関口隆吉宛〔〕年3月17日 7枚(断簡)

21 書簡 1枚(断簡)

22 書簡 1枚(断簡)

- 23 封筒 3点
 24 受取証 小南易知より山岡鉄太郎宛1枚
 25 証文(写し) 1枚
 26 山岡鉄太郎遺墨 1枚
 27 鉄舟大般若経写経・絶筆 1枚
 28 揮毫 陽気発処云々 1軸
 29 揮毫 君間帰期云々(李義山詩) 1軸
 30 揮毫 丈夫莫守困云々(寒山詩) 1枚
 31 揮毫 莫々竹林寺云々 1軸
 32 揮毫 二豎何用欲云々(木版印刷の扇面)
 1枚

〔諸家〕

- 33 徳川慶喜筆 勉而一 1軸
 34 中村敬字筆 平生不会恼怒云々 2軸
 35 佐久間象山筆(署名のみの切ぬき等) 1軸
 36 高橋泥舟筆 閑有云々 1枚
 37 有栖川宮熾仁親王書簡 明治10年2月28日
 1通(1軸)
 38 大草高重等書簡 4通(1軸)
 大草高重より関口隆吉宛(明治)年6
 月7日
 土方久元より関口隆吉宛(明治)年8
 月15日
 俊彦より関口隆吉宛(明治)年7月22日
 加藤良より(某)宛〔〕年11月8日
 39 伊藤博文等書簡 12通(1軸)
 伊藤博文より関口隆吉宛(明治)年6
 月1日
 山岡鉄太郎より関口隆吉宛(明治)年
 8月14日,〔〕年5月14日,〔〕年4
 月23日,〔慶応〕年10月26日
 勝海舟より関口隆吉宛〔〕年6月4日
 清浦奎吾より関口隆吉宛〔〕年11月7
 日
 東久世通禧より関口隆吉宛(明治)年
 8月23日
 榎本武揚より関口隆吉宛〔〕年7月28
 日
 黒田清綱より関口隆吉宛(明治)年8
 月13日
 関口隆吉より松方正義宛〔〕年9月
 関口隆吉より顕性法標師・元光導標師宛
 (明治)年3月19日

- 40 高橋泥舟書簡 松岡万宛(明治)年8月
 21日 1通(1軸)
 41 徳川亀之助家来平岡丹波・浅野次郎八・河
 野左門署名の書簡 1通(1枚)
 42 越中守書簡 織部正宛〔〕年10月9日
 2枚(断簡)
 43 関口頼藻元 1枚
 44 大目付・御目付宛(明治)年6月17日 1
 枚
 45 徳川家よりの品拾六むさし 紙磐1枚,紙
 駒17枚

〔関口隆吉関係〕

- 46 関口家系図(コピー) たたみもの1枚
 47 神道無念流目録 斎藤弥九郎より関口正
 三郎宛 文久元酉年12月 1軸
 48 神道無念流目録 斎藤弥九郎より関口仙
 三郎宛 文久元酉年12月 1軸
 49 神道無念流目録 斎藤弥九郎より関口正
 太郎宛嘉永4辛亥年12月 1軸
 50 吉区分量 1巻
 51 明治16年甲部巡察使復命摘要 1冊
 52 地方巡察復命書ニ添へタル上申書案 1軸
 53 通知状 3通(1軸)
 (明治)年10月30日,壬申11月20日,
 明治13年2月7日
 (うち辞令類)
 54 任三瀨県権参事 明治5年正月4日 1枚
 55 任三瀨県権参事 壬申正月5日 1枚
 56 任置賜県参事 明治5年11月2日 1枚
 57 叙六位 明治5年11月10日 1枚
 58 任山形県参事 明治5年11月23日 1枚
 59 任山形県権令 明治6年12月27日 1枚
 60 叙正六位 明治7年2月18日 1枚
 61 任山口県令 明治8年12月27日,関口隆吉
 より三条実美宛書簡 明治8年12月27日
 2枚
 62 叙従五位 明治9年1月25日 1枚
 63 学校資トシテ金五拾円差出候段…… 明
 治10年6月14日 1枚
 64 静岡県下学校修繕費トシテ金拾七円……
 明治12年2月4日,木盃一個 2枚
 65 県庁台所并土塀文庫等建築ノ儀……
 明治12年2月26日 1枚

- 66 多年奉職勉勵候ニ付…… 明治13年2月9日 1枚
 67 任議官 明治14年2月12日 1枚
 68 年俸三千五百円…… 明治14年2月12日 1枚
 69 山口県奉職中之事務…… 明治14年2月15日,別紙辞令及御達候也 明治14年2月15日 2枚
 70 叙従四位 明治14年3月25日 1枚
 71 山形県権令奉職中…… 明治14年8月6日 1枚
 72 山口県下小楯小学校資トシテ金拾円…… 明治14年12月28日 1枚
 73 地方巡察被仰付候事 明治16年4月12日 1枚
 74 高等法院陪席裁判官被付…… 明治17年2月13日 1枚
 75 任静岡県令 明治17年9月27日 1枚
 76 月俸三百五拾円…… 明治17年9月27日 1枚
 77 任静岡県知事 明治19年7月19日 1枚
 78 叙勅任官二等賜上級俸 明治19年7月19日 1枚
 79 叙正四位 明治19年11月16日 1枚
 80 武蔵国南葛飾郡小梅村牛島小学校建築費トシテ…… 明治20年12月12日 1枚
 81 別格官幣社東照宮…… 明治21年5月15日 1枚
 82 今般憲法発布并皇室典範御治定ニ付…… 明治22年2月4日 1枚
 83 叙従三位 明治22年4月18日 1枚
 84 特旨ヲ以テ位階被進 明治22年4月18日 1枚
 85 証 金千円也但防海費トシテ献納金…… 明治20年5月26日 1枚
 86 爰ニ従五位勲四等関口隆吉氏…… 明治13年2月29日 1枚
 (うち遺墨・書簡類ほか)
 87 よの中は…… 1枚
 88 世の中をしらぬ…… 1枚
 89 船橋先生の説大意 1枚
 90 戊辰巳来大久保…… (勝海舟) 1枚
 91 小松原栄太郎等書簡 4通(1軸)
 関口隆吉宛
 小松原英太郎(明治)年3月27日
 石黒務(明治)年12月19日,〔〕年9月21日
 〔某〕〔〕年11月6日
 92 関口隆吉書簡 3通(1軸)
 勝海舟宛(明治)年4月28日
 〔某〕宛(明治)年12月7日
 伊志田・村田両書記官宛(明治)年2月21日
 93 関口隆吉書簡 3通(1軸)
 中条景昭宛(明治)年4月2日
 野村賢台宛(明治)年5月4日
 石黒務宛(明治)年1月10日
 94 関口隆吉書簡 3通(1軸)
 高須瑣太郎宛〔〕年9月15日
 関口周蔵宛〔〕年8月8日
 江老台宛〔〕年5月15日
 95 関口隆吉書簡 6通(1軸)
 大塚しづ宛(明治)年2月3日
 しづ宛(明治)年7月29日
 静宛(明治)年2月7日
 しづ宛(明治)年2月26日,〔年月不明〕
 静宛〔年月不明〕
 96 関口隆吉書簡 6通(1軸)
 関口隆吉宅宛(年月不明)
 しづ宛 年月不明のもの3通,(明治)年7月14日
 丸尾大人宛〔〕年3月9日
 97 関口隆吉書簡
 しづ宛〔年月不明〕2通(1軸)
 98 石坂周造・関口隆吉書簡 4通(1軸)
 石坂周造より関口隆吉宛〔〕年5月11日
 関口隆吉より〔某〕宛(年月不明)3通
 99 関口隆吉・坂上宗証・菊川重昶書簡 5通(1軸)
 関口隆吉より〔某〕宛〔〕年7月6日
 関口隆吉よりおあや宛〔年月不明〕
 阪上宗証より関口壮吉・隆正宛(明治)年6月3日
 菊川重昶より関口隆吉・河野通倫宛(明治)年3月3日
 関口隆吉より〔某〕宛(年月不明)
 100 河野通倫等書簡 3通(1軸)

- 河野通倫より関口隆吉宛(明治)年2月25日
 関口隆吉より勝海舟宛〔)年4月22日
 済三より関口隆吉宛(明治)年3月6日
- 101 関口隆吉書簡 3通(1軸)
 差出人宛名不明(明治)年9月13日
 関口隆吉より〔某〕宛〔年月不明〕
 関口隆吉より〔某〕宛(慶応)年10月10日
- 102 奥平謙輔・関口隆吉書簡 2通(1軸)
 奥平謙輔より関口隆吉宛〔明治〕年7月22日
 関口隆吉より〔某〕宛(明治)年8月29日
- 103 関口隆吉書簡 松岡万宛(明治)年3月22日 1通(1枚)
- 104 関口隆吉書簡 中村知常宛 明治18年2月10日 1通(1枚)
- 105 関口壮吉書簡 関口隆正宛(明治)年4月26日 1通(4枚)
- 106 しづ書簡 御隠居宛〔)年8月11日 1通(3枚)
- 107 しづ書簡 御隠居宛〔)年8月22日 1通(1枚)
- 108 書簡 1枚(断簡)
- 109 書簡 3枚(断簡)
- 110 封筒 3点
- 111 封筒 6点
- 112 封筒 1点
- 113 封筒 7点
- 114 墓参之儀ニ付願,認可通知 2枚
- 115 管外旅行之儀ニ付願,認可通知 2枚
- 116 指令書 明治6年6月 1枚
- 117 送金通知書 明治19年7月12日 1枚
- 118 受取証 明治20年2月5日 1枚
- 119 目録 1枚
- 120 午餐献立 明治13年2月27日 4枚
- (関口壮吉辞令類)
- 121 遠江学生奨励会ハ…… 明治28年11月24日 1枚
- 122 熊本県立熊本中学校…… 明治35年6月23日 1枚

- 123 教員免許状 明治35年12月3日 1枚
- 124 熊本県立熊本中学校教諭ニ任ス 明治36年1月21日 1枚
- 125 願ニ依リ本職ヲ免ス 明治36年9月28日 1枚
- 126 左記ノ図書本学へ御寄贈…… 明治43年9月1日 1枚
- 127 京都帝国大学学術奨励…… 明治44年6月1日 1枚
- 128 任米沢高等工業学校教授叙高等官五等,七級俸下賜 大正5年4月20日 2枚
- 129 叙従六位 大正5年5月20日 1枚
- 130 応用化学科長ヲ命ス,頭書ノ好科ノ主任ヲ命ス,応用化学科ニ属スル物品監守ヲ命ス 大正5年6月17日 3枚
- 131 陸叙高等官四等 大正7年4月30日 1枚
- 132 叙正六位 大正7年5月30日 1枚
- 133 五級俸下賜 大正7年7月3日 1枚
- 134 任文部省督学官叙高等官四等,四級俸下賜 大正8年7月14日 2枚
- 135 工業教育調査委員ヲ命ス 大正8年7月28日 1枚
- 136 第十高等工業学校創立委員ヲ囑託ス 大正8年11月10日
- 137 在職中職務格別…… 大正8年12月27日 1枚
- 138 陸叙高等官三等 大正9年6月7日 1枚
- 139 大正九年度東京市…… 大正9年7月1日 1枚
- 140 来る十日午前十時叙位…… 大正9年7月7日 1枚
- 141 叙従五位 大正9年7月10日 1枚
- 142 工業教育調査委員ノ手当…… 大正9年12月15日 1枚
- 143 三級俸下賜 大正10年3月31日 1枚
- 144 公立私立実業学校…… 大正10年6月14日 1枚
- 145 職務勉勵ニ付為… 大正10年12月17日 1枚
- 146 三級俸下賜 大正11年3月31日 1枚
- 147 除服出仕 大正11年10月4日 2枚
- 148 第十四高等工業学校創立…… 大正11年

- 10月12日 1枚
- 149 任浜松高等工業学校長…… 大正11年11月27日 1枚
- 150 叙正五位 大正11年12月20日 1枚
- 151 兼任文部省督学官…… 大正12年1月11日 1枚
- 152 免兼官 大正12年11月24日 1枚
- 153 都市計画静岡地方…… 大正13年3月6日 1枚
- [拓本・揮毫ほか]
- 154 清河正明碑 明治19年山岡鉄太郎撰并書 1枚
- 155 関口隆吉墓誌 1枚
- 156 大久保一翁墓誌 1枚
- 157 山岡鉄舟墓誌 1枚
- 158 関口潜墓誌 1枚
- 159 菅沼琉山之碑 1枚
- 160 実寿梅之記 海舟撰文并書 1枚
- 161 稻川先生山梨君墓銘 松崎慊堂撰文 1枚
- 162 浜名橋之碑 1枚
- 163 石経尚書 第8 1枚
- 164 石経尚書 第9・10 1枚
- 165 寒山寺碑 兪樾 1枚
- 166 我行二千里云々 朱熹 4枚
- 167 釀成四海云々 柳山 1枚
- 168 月夜に宇売の花云々 1枚
- 169 加藤肥後矣旧里碑 2枚
- 170 三杯清酒云々 鴻堂 2枚
- 171 世の中は云々 1枚
- 172 玄妙 頭山満 1枚
- 173 霜気侵衣袂云々 1枚
- 175 惟精惟一云々 重遠 1枚
- 175 力云々 1枚
- 176 一池云々 1枚
- 177 桜花云々 1枚
- 178 義云々 1枚
- 179 勿嗜酒云々 兼雄 1枚
- 180 一年云々 1枚
- 181 山是山云々(竜雲) 1枚
- 182 至誠 1枚
- 183 扇面 狩野慊之画 1枚
- 184 水墨画讀 讀 鑿川云々 橋の図 1枚

- 185 水墨画讀 菊花図 七十翁鴻堂 1枚
- 186 水墨画讀 竹の図 1枚
- 187 水墨画讀 讀 眼蓋乾坤云々 自得居子 1枚
- 188 水墨画讀 竹の図 鴻堂 1枚
- 189 水墨画 滝の図 1枚
- 190 水墨画 竹の図 1枚
- 191 水墨彩色画 花木の図 1枚
- 192 木版画 不折戯画 1枚
- 193 漢詩 久能峯麓云々 無求軒主潜 1枚
- 194 漢詩 惜春 1枚
- 195 漢詩・和歌下書 2枚
- 196 漢詩下書 3枚
- 197 漢詩下書 2枚
- 198 漢詩 2枚
- 199 漢詩 奥平謙輔絶筆 1枚
- 200 歌詩 華下交友 1枚
- 201 書 寿 寿橋 1枚
- 202 遺墨 みな人の云々 義閑 1枚
- 203 遺墨 油断して云々 1枚
- 204 関口潜書簡 田村福逸・徳増愛治宛明治41年9月6日 1通(1軸)
- 205 関口壮吉宛書簡 2枚(断簡)
- 206 奥平謙輔書簡写 2枚
- 207 奥平謙輔より木戸宛書簡写 5枚(1綴)
- 208 石川惣大夫依平書簡 水野内膳宛〔 〕年正月15日 1通(1枚)
- 209 書簡 3枚(断簡)
- 210 書簡 2枚(断簡)
- 211 書簡 母より潜宛 1枚(断簡)
- 212 書簡 2枚(断簡)
- 213 書簡 2枚(断簡)
- 214 信家鏝紙折紙 天明3年2月 増田明珍 長門守 1枚
- 215 掛川附近地区 筆写 1枚
- 216 御寄付地所受領之証 2枚(1綴)
- 217 包紙 1枚
- 218 書籍目録 1枚
- 219 宣旨位記包紙 1枚
- 220 和讀 1枚
- 221 加藤良より関口壮吉宛口上 1枚
- 222 頼山陽印譜 3枚
- 223 十月二日在坂之布衣以云々 3枚(1綴)
- 224 徳川家康差領刀他目録 1枚

- 225 近世奇跡考 (文化2年 山東軒醒々老人著) 書拔 4枚 (1綴)
- 226 関口氏由緒書 明治17年6月 光鏡院住職 中川良雄筆 3枚 (1綴)
- 227 覚 東京府華族云々 1枚
- 228 覚 山岡鉄舟の死を知りて感慨を記す 2枚
- 229 受取証 内国通運会社 3枚
- 230 漢籍書抜き 2枚
- 231 雑紙片 8枚
- 232 経文 くわんくわん云々 1枚
- 233 目録 関口頼藻江 1枚
- 234 御沙汰状 1枚
- 235 石碑代請求書ほか 9枚
- 236 石碑代受取書 1枚
- 237 口上 御神像の件 1枚
- 238 雑 2枚
- 249 不老円法書 4枚 (1綴)
- 240 四季の旅寝 1冊
- 241 七夕の歌発句 1冊
- 242 古今和歌集聞書 1冊
- 243 衣服着用覚 1冊
- 244 婦人式衣服 2冊
- 245 現今英名百首 全 沼尻桂一郎編 明治13年宝文閣刊 50丁

昭和56年関口家寄贈資料

371 b 関口家資料 その2 (1-91) Q288-22
91点

(関口隆吉関係)

- 1 大淵院殿(関口隆吉)画像 1軸
- 2 関口隆吉遺言状 1軸
- 3 大淵院和歌 1軸
- 4 関口黙齋書 1軸
- 5 関口黙齋書 1軸
- 6 勝海舟詩稿 1軸
- 7 関口隆吉書簡 3通 (1軸)
しづ宛(年月不明)
潜宛()年8月8日
おあや宛(明治)年12月21日
- 8 山岡鉄太郎書簡 ホヲル宛()年2月7日 1通 (1軸)
- 9 山岡鉄太郎書簡 関口隆吉宛(明治)年

- 1月19日 1通 (1軸)
- 10 関口君母子の文 2通 (1軸)
東京隠居よりそで宛(年月不明)
関口隆吉よりそで宛(年月不明)
- 11 萩関係記録 1 1通 (1軸)
関口隆吉より梅顔宛(明治)年12月26日
- 12 萩関係記録 2 2通 (1軸)
関口隆吉より(某)宛(年月不明)
関口隆吉覚書
- 13 岩村通俊書簡 関口隆吉宛(明治)年2月19日 1通 (1軸)
- 14 奥平謙輔書簡 関口隆吉宛(明治)年6月19日 1通 (1軸)
- 15 杉孫七郎書簡 木梨信一宛(明治)年10月28日 1通 (1軸)
- 16 関口隆吉書簡 小林宛(明治)年12月18日 1通 (1軸)
- 17 関口隆吉書簡 下山宛(明治)年12月30日 1通 (1軸)
- 18 宮内省達 明治10年7月 1枚 (1軸)
- 19 内務卿へ御届案, 西南戦争戦況報告覚書 2通 (1軸)
- 20 関口隆吉碑文原稿 1冊
- 21 山岡鉄舟手記 1冊
- 22 嘆願書 1冊
- 23 明治九年萩変動概略 1冊
- 24 伊勢物語(写本) 1冊
- 25 源姓関口氏(家譜) 1枚
- 26 覚 3枚 (1綴)
- 27 関口隆吉君墓誌 6枚
- 28 墓表(関口隆吉・潜・菊) 4枚
- 29 菊花紋入文箱 1箱
- 30 葵紋入文箱 1箱

(関口家関係)

- 31 平井内書簡 関口旦那宛()年11月6日 1通
- 32 町野書簡 関口潜宛 明治23年7月24日はがき1枚
- 33 井上好雄書簡 関口潜宛 明治23年10月2日はがき1枚
- 34 差出人宛名人不明(年月不明) 1通
- 35 木校三行書簡 関口潜宛 明治30年12月

- 13日 1通
- 36 田村善一郎書簡 関口潜宛 明治31年
1月10日 1通
- 37 しづ書簡 関口潜宛〔年月不明〕 1通
- 38 鈴木孝年書簡 関口潜宛〔明治〕年7
月23日 1通
- 39 木村三行書簡 関口潜宛〔明治〕年12月
18日 1通
- 40 江村千外史書簡 関口潜宛〔明治〕年
〔〕月25日 1通
- 41 関口精一書簡 関口潜宛〔年月不明〕 1通
- 42 関口精一書簡 関口潜宛 明治31年1月
元旦 1通
- 43 朝岡経子書簡 関口潜宛〔明治〕年2月
13日 1通
- 44 井上好雄書簡 関口潜宛明治23年10月1
日 1通
- 45 関口鯉吉書簡 関口潜宛明治22年12月12
日 はがき1枚
- 46 関口潜書簡 1通、2枚〔断簡〕
関口隆正宛〔〕年12月30日、〔年月不明〕
〔某〕宛〔年月不明〕
- 47 黒川通軌等書簡 6通〔6枚〕
黒川通軌より関口潜宛〔明治〕年11月
1日
水野梅暁より関口潜宛〔明治〕年6月
5日
渡辺汀より関口潜宛〔明治〕年2月17
日
原保太郎より関口潜宛〔明治〕年1月
10日、〔〕年8月10日、〔年月不明〕
- 48 関口鉦次郎書簡ほか 5点
関口鉦次郎より関口御兄宛〔〕17年1
月2日
差出人宛名不明〔年月不明〕
領収証、子育正観世音菩薩、偕楽講書類
- 49 関口潜より関口精一宛電報 明治23年1
月26日 1枚
- 50 アイハラヤスジロウより関口潜宛電報 明
治23年6月16日 1枚
- 51 コンドウヒロシより関口潜宛電報 明治23
年6月18日 1枚
- 52 関口潜より関口精一宛電報 明治23年5
月12日 1枚
- 53 封筒 4点
- 54 森町銀行之件ニ付出張…… 4枚〔1綴〕
- 55 日々新聞配布一件 9枚〔3綴〕
- 56 狩猟免許御下附願 1枚
- 57 法律草案府県会計検査法 2枚
- 58 勅令草案府県会計規則 1枚
- 59 記 金九円五拾五銭…… 1枚
- 60 久能山社務所より関口潜宛辞令、召状 2
枚
- 61 歳入収入金五月一日より同八日迄ノ分
1枚
- 62 第三十五国立銀行東京支店仮領収書 1
枚
- 63 東海道三島宿真誠講世古六太夫領収書
1枚
- 64 荷物引受証 1枚
- 65 書画展覧会事務所領収書 1枚
- 66 静岡四戸長連名領収書 1枚
- 67 支出明細証 3枚〔1綴〕
- 68 地方税其他御預り全調書 1枚
- 69 領収書 1枚
- 70 川崎銀行領収書 1枚
- 71 包紙 1枚
- 72 地図目録 1枚
- 73 覚 1枚
- 74 達磨師真性頌 1枚
- 75 明治二十年第三軍管徴集人員配当表ほか
11点
- 76 関口壮吉宛観菊会召状 1通
- 77 文稿 1枚
- 78 三葉葵文様入印肉入 1個
- 〔関口隆正関係〕
- 79 清末文人寄書 1軸
- 80 勅語 1軸
- 81 大石内蔵助書簡断簡 1軸
- 82 洞山僧密問答 大塚洞外筆 1軸
- 83 北野禅師之書 1軸
- 84 宮島詠士書 1軸
- 〔関口隆克関係〕
- 85 京大総長荒木博士書 1軸
- 86 松堂禅師書 1軸
- 87 中村恵風書 1軸

- 88 頼山陽肖像並自讃（複製） 1軸
 89 頼山陽書（複製） 1軸
 90 雪舟筆破墨山水図（複製） 1軸
 91 元寇史料集 1, 2 昭和10（1935）年
 国民精神文化研究所刊 2軸 付：解説
 （25P 23cm）

昭和59年関口家寄贈資料

- 371C 山田家資料〔1-8〕 Q288-23
 8点
 1 元伯宗且居士遺具…… 1軸
 2 釜発万歳声 七十叟竜溪 1軸
 3 不蔵庵 今日無事 1軸
 4 定喜僧正 定家卿筆 秋の野 1軸
 5 宗知翁伝 1軸
 6 吉田リウ書簡 山田宛〔年月不明〕 1通
 7 吉田リウ書簡 母宛〔年月不明〕 1通
 8 茶道教範 昭和32（1957）年（序）玉木宗
 高（六夢庵）刊 82P 17cm

昭和59年関口家寄贈資料

Q289 一個人の伝記

- 372 岳飛本傳 Q289-カ1
 東京 尚友堂 嘉永4
 28丁 24cm 和

宋史より抄出，訓点を施したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵

- 373 伊勢 貞丈（安齋） Q289-ス1
 菅像辨
 写
 23丁 24cm 和

菅公の自画像であるとして伝わるものを，
 故実の上より考証して，自画でない論じ
 たものである。

- 374 關口隆吉氏履歷書 Q289-セ1
 写 昭和3
 3丁 27cm 和

久能文庫の企画ならびに収集者。各地に地
 方官として令名があり，從三位に叙せられ
 た。静岡県知事在職中に薨去。

- 375 〔關口 泰〕 Q289-セ2
 關口隆正氏履歷並著述目録
 刊 〔著者〕
 7枚 26cm 和

清水礪洲の四男，赤城の孫 大橋訥庵はそ
 の叔父である。関口姓をつぎ，隆吉の長女
 操子を妻とする。岳父隆吉と共に久能文庫
 の図書収集者である。

- 376 高山 彦九郎 Q289-タ1
 高山仲繩遺墨 3卷
 刊 明治4
 3冊 26cm 和

高山彦九郎の「江戸日記」「京日記」を真
 蹟により模刻したものである。
 江戸日記は寛政元年己酉冬十月三日より，
 同十一月二十二日に終る，五十日間の日記
 である。

- 377 細川 潤次郎編 Q289-タ2
 秋帆高島先生年譜 2卷
 東京 編者 明治16
 2冊 18cm
 付録：建白書 遺稿第2編

高島秋帆の年譜および，建白書を載せて
 ある。

- 378 徳川 義直 Q289-ト1
 御年譜 5卷
 写
 5冊 24cm 和
 別書名「家康公御年譜」「神君御年譜」

天文十一年徳川家康の誕生より，元和三年
 日光山遷葬に至るまで一代の年譜である。
 印記：清音館多氏蔵

- 379 家康公御幼少物語 Q289-ト1
写
21丁 27cm 和
高天神御陣までを記してある。
- 380 岡崎物語 Q289-ト1
写
107丁 27cm 和
徳川家康の一生を記したものである。和学講談所本によって写させ、新宮高平の旧蔵したものである。
印記：新宮之印
- 381 日光山御文庫 東照公譜 Q289-ト1
写
9丁 27cm 和
家康の年譜である。
静岡県の算紙を使用してある。
- 382 松氏啓運記 Q289-ト1
写
31丁 28cm 和
徳川家康の誕生より薨去まで、特に仏道信仰のことを記してある。
- 383 大君言行録 2巻 Q289-ト2
石野廣保写 宝暦13
2冊 24cm 和
表紙には「紀陽大君言行録」とある。
紀伊頼宣卿の言行を集録したものである。
印記：遠州月岡關口氏蔵
- 384 (三木 之幹他) Q289-ト3
西山遺事
写
180丁 24cm 和
水戸徳川光圀の盛徳事蹟を集録したものである。
- 385 家齊公薨去之事 2巻 Q289-ト4
写
2冊 23cm 和
天保十二年閏正月徳川家齊病氣のことより薨去、葬送、および法事のことに至るまで、詳細に記してある。
- 386 中山 和清 Q289-ナ1
先師澹齋長沼君行狀集成定本
写
19丁 27cm 和
題簽には「先師行狀集成定本」とある
長沼宗敬、字は外記、澹齋と号した。和漢洋を参酌して兵学に一家言を建て、兵要録二十二巻を著した。元禄三年五十六才で没。
- 387 中山 和清 Q289-ナ1
先師澹齋長沼君行狀集成定本
刊 木曾清音楼 嘉永6
18丁 24cm 和
印記：遠州月岡關口氏蔵
- 388 矢口新田神君碑 服部南郭撰 Q289-ニ1
刊
4丁 27cm 和
新田義興の碑文、武蔵国荏原郡六郷領矢口村にある。
「不許鑿刻千里必究」の黒印がある。
- 389 萩原 正平 Q289-フ1
陸奥出羽按察使權中納言藤原光親卿
舊蹟放設
写 明18
8丁 26cm 和
静岡県駿東郡須走村（現在小山町）にある光親卿の旧蹟を考証したものである。

- 390 星野藤兵衛事歴 2巻 Q289-ホ1
写
2冊 27cm 和

明治維新前後官軍のために、忠勤を励んだ新潟県大久保村星野藤兵衛の事歴をその長男星野遂平が記したものである。

- 391 長親公御由緒記 Q289-マ1
写
21丁 27cm 和

三河国大樹寺にある松平長親の墓銘、その他を記したものである。

- 392 信忠公御由緒記 Q289-マ2
写
5丁 27cm 和

三河国大樹寺にある松平信忠の墓銘、その他を記したものである。

- 393 清康公御舊記 Q289-マ3
写
33丁 27cm 和

信忠の長子松平清康に関する記録である。

- 394 亞細亞協會 Q289-ヤ1
會餘録 3集
東京 編所 明治21
24丁 21cm 和
付録：戦艦圖記
内容：山田長政実記

- 395 雜録 Q289-ヤ1
写
45丁 24cm 和

山田仁左衛門長政事蹟および、林子平一件を記したものである。

印記：外齋

- 396 吉田 松陰 Q289-ヨ1
回顧録
大森幹写 明治2
86丁 23cm 和

野山の獄にあって、脱走当時を回顧し、日記体に記したもので、將および私言急務條議急務策一東等を添えてある。この写本は筆意を松陰に模してある。松下村塾の罫紙を使用し、長門大森幹の蔵印がある。
印記：關口耕堂珍藏之記 長門大森圖書

Q290 地誌 紀行

- 397 新井 白石 (君美) Q290-1
采覧異言 5巻
東京 白石社 明治14
2冊 23cm 和

東西各国の地理を明らかにしたもので、我が国最初の万国地理である。

- 398 斌 椿 [清] Q290-2
清本齋刻 乘槎筆記 2巻 重野安繹閱
大槻誠之訓点
東京 袋屋亀次郎 明治4
2冊 23cm 和

西洋各国の紀行である。

印記：正氣堂図書記

- 399 岡 千俣 Q290-3
訂正萬國通鑑 4巻 附録1巻
東京 盛化堂他 明治17
6冊 24cm 和
付録：地図

世界地理書である。

- 400 高橋 景保 Q290-4
 新訂 萬國全圖
 刊 [文化7]
 地図1枚 112 × 194 cm

文化四年十二月幕府の命を受けて、諸国を参考にして作ったものである。

Q291 日本

- 401 内務省地理局 Q291-1
 地誌目録
 東京 編所 明治18
 105丁 24 cm 和

内務省地理局において調査した、全国の地誌関係書目である。

- 402 青木 昆陽(敦書) Q291-2
 郡名考
 写
 74丁 27 cm 和

延喜式民部省に載せてある郡と、当時の官用郡との異同を考え、各郡和名鈔による傍訓を施したものである。

印記：大澤侍従兼下野守蔵書
 桃李書屋

- 403 西川 如見 Q291-3
 日本水土考
 写
 23丁 22 cm 和
 付録：両域人数考

日本国が水土の外国にすぐれた所以を記してある。人数考は本邦と支那との人口を対比測定したものである。

- 404 内務省衛生局 Q291-4
 日本鑛泉誌 3巻
 東京 報行社 明治19
 3冊 22 cm

本邦鑛泉の位置、泉質、景況、浴客、発見の年月等を記したものである。

- 405 東海道中仙道道次早筭用道中記 Q291-5
 江戸 出雲寺萬次郎等 嘉永5
 1枚 38 × 52 cm (複本1)

東海道、中仙道両街道の里程一覧表である。

- 406 司馬 江漢 Q291-6
 西遊旅譚
 写
 22丁 23 cm 和
 合綴：松島図志抄(鼓 岳子)

一名「画図西遊譚」といい、天明八年江戸を出て、東海道より長崎に至った旅行記であるが、本書は完本ではない。

印記：湯岱文庫

- 407 羽太 正養 Q291-7
 休明光記 9巻(欠巻2, 3)
 写
 4冊 24 cm 和

蝦夷の兵事、教育、開墾、牧畜、経済、穀錢等のことを詳細に記し、また自家の意見をつけたものである。

巻末に「安政二乙卯年二月成功 精文庫印 河源書」とある。

印記：渡辺文庫

- 408 新井 白石(君美) Q291-8
 蝦夷志
 刊 文久2序
 15丁 26 cm 和

北海道、樺太、千島の地誌である。

印記：遠州月岡關口氏蔵

409 荒井 太四郎 Q291-9
山形縣地誌提要 2卷(欠卷2)
明治閣 明治11
61丁 22cm 和

410 太田 南畝 Q291-10
武江披砂 正編5卷 外編4卷
写
3冊 24cm 和

正編は江戸、城東、城西、城南、城北の五卷に分けた江戸の地誌。外編は四卷に分け、江戸および附近の社寺、その他旧記を集めてある。

411 旧跡志 6巻 Q291-11
写 嘉永7
6冊 24cm 和

江戸の旧蹟を十二支の方角順に記したもので、所々に図がある。卷中文化八年よりおよそ何年前とあるので、その頃成ったものであろう。

卷五の末尾に「嘉永七甲寅年功成 渡辺精文庫印 原本 鳥居氏 米州書」

卷六の末尾に「嘉永七甲寅年玄冬成功 静窓文庫印」とある。

印記：渡邊文庫

412 田澤 義章 Q291-12
武蔵野地名考
刊 享保20序、享保21跋
22丁 23cm 和

武蔵野およびその附近の地名を考證したものである。

印記：勝野家蔵

413 磯村 貞吉 Q291-13
小笠原嶋要覽
東京 便益舎 明治21
279P 20cm

沿革、地理、気候、風俗、産業等を記してある。

414 日本總國風土記 第七十四 Q291-14
写
74丁 23cm 和
題簽には「日本總國風土記第七十四相模風土記」とある

日本總國風土記第七十四足柄郡に属する殘簡である。後人の偽書であるという。一部小田原藩の野紙を使用してある。

415 新編相模國風土記 68巻 Q291-15
首巻1巻
東京 鳥跡蟹行社 明治17~18
3冊 24cm
内容目次には「新編相模國風土記稿」とある。

大学頭林衡総裁となり、昌平黉地理局で編集したもので、天保十一年成。

416 石野 廣通 Q291-16
佐渡事略 2巻 別録1巻
写
36丁 27cm 和

著者が、安永十年の春、佐渡に渡り、翌年帰るまでの間の、見聞を記したものである。「金銀山間歩稼定日」等を別録としてつけてある。

417 三浦 千春 Q291-17
美濃奇觀 2巻
岐阜 三浦饒三郎 明治13
2冊 23cm 和

鶴飼および、養老滝のことを記してある。

418 川口 希逸 Q291-18
養老泉志
岐阜 岐阜書林 天保13序
17丁 22cm 和

419 駿府風土記 Q291-19

天保7
34丁 27cm 和

駿府および、近郊の地誌で、詳細な絵図がある。巻末に「于時天保七申年 林鐘上旬写之」とあり、ほかに関口隆正の朱書がある。
印記：関口耕堂珍藏之記

420 秋山 章編，萩原正平増訂 Q291-20

増訂 豆州志稿 卷2，上，下
三島 榮樹堂 明治21
2冊 24cm 和

421 荒木田 盛澄 Q291-21

神風小名寄 2巻
写
41丁 24cm 和

題簽には「伊勢名所」の墨書がある。

伊勢度会，多気兩郡の神社，名所等を古誌に徴して説明してある。

422 神路の山鳥 Q291-22

写
15丁 24cm 和

伊勢參宮紀行である。

423 山口縣大小區村名書 2巻 Q291-23

〔山口〕 〔明治6〕
2冊 22cm 和

印記：不息書堂之記

424 長崎縣師範學校 Q291-24

改正長崎縣地理小誌
長崎 編所 明治14
37丁 22cm 和

425 姚 子樸 Q291-25

琉球小志並補遺附説略
刊 光緒9（明治16）
40丁 29cm 清本

題簽には「琉球地理小志」とある。

内容：琉球地理小志
琉球立國始末
琉球形勢大略
琉球島総論
琉球小志補遺
琉球説略

印記：外齋

426 山崎 義故 Q291-26

大日本輿地便覽
刊 天保5序
2折 26×18cm 和

日本各国の詳細図である。天保五年齋藤拙堂の序文がある。

印記：遠州月岡關口氏藏

427 鈴木 驥園 Q291-27

増訂大日本國郡輿地路程全圖
刊 嘉永5
折本12冊帙入 12×8cm
題簽には「日本切画図」とある。

内容：1 凡例 佐渡
2 陸奥 松前
3 下野 陸奥 出羽
4 安房 上総 下総 常陸
5 若狭 越前 加賀 能登 越中
越後 近江 美濃 飛騨 信濃
上野
6 山城 大和 河内 伊賀 伊勢
志摩 尾張 三河 遠江 駿河
甲斐 伊豆 相模 武蔵
7 攝津 丹波 丹後 但馬 因幡
伯耆 出雲 石見 播磨 美作
備前 備中 備後 安藝 周防
長門
8 和泉 紀伊 淡路 阿波 讃岐
伊豫 土佐
9 豊前 豊後 筑前 筑後 肥前
豊後
10 肥後 日向 大隅 薩摩
11 隠岐
12 對馬

水戸長久保玄珠の原図を増訂したもので十二折ある。

428 地理局地誌課 Q291-28
大日本國全圖
東京 編所 明治13序
地図1枚 162 × 150 cm
縮尺1 : 36000

429 酒井 喜熙 Q291-29
關東輿圖
刊 天保4序
地図1枚 135 × 145 cm

關東八州の地名、街道等を詳細に記してある。

印記：遠州月岡關口氏藏

430 河野 守弘、小宅 文藻編 Q291-30
下野國圖
刊 嘉永2
地図1枚 137 × 105 cm

名所、古跡、神社、佛閣、温泉、山川
駅、市場等記入してある。

431 參謀本部 Q291-31
浦和及所澤近傍
東京 編所 明治19
地図8枚 39 × 44 cm
縮尺1 : 20000

内容：1 浦和駅
2 蕨駅
3 大井町
4 大和田町
5 亀久保村
6 所沢村
7 飯能村
8 扇町屋村

432 再刻江戸古繪圖 Q291-32
〔江戸〕
地図1枚 100 × 120 cm

虫入原図〔江戸初期〕より複写したものである。

433 延寶江戸圖 Q291-33
〔江戸〕 延寶5
地図1枚 102 × 132 cm

延寶五年九月刊行したもので、御繪図所林氏吉永とある。

印記：飯田氏藏

434 元禄江戸圖 Q291-34
〔江戸〕 相模屋大兵衛 元禄2
地図1枚 102 × 132 cm
縮尺：1分15間4分1町

印記：飯田氏藏

435 正徳江戸圖 Q291-35
江戸 萬屋清兵衛 正徳5
地図1枚 102 × 132 cm
縮尺：1町15間4分1町

印記：飯田氏藏

436 享保江戸圖 Q291-36
江戸 須原屋茂兵衛 享保6
地図1枚 130 × 175 cm

寛文の頃、遠近道因の図版が、享保元年正月の火災に焼失したので、新しく刊行したものである。

印記：飯田氏藏

437 寶曆江戸圖 Q291-37
江戸 須原屋茂兵衛 宝曆13
地図1枚 145 × 127 cm
縮尺：1分12間5分1町

寛文の遠近道因の図を改正し、一分十二間五分一町として作ったものである。

438 分間江戸大繪圖 Q291-38

江戸 須原屋茂兵衛 文政7
地図1枚 166 × 196 cm

印記：遠州月岡關口氏蔵

439 分間江戸大繪圖 Q291-39

江戸 須原屋茂兵衛 文政7
地図1枚 165 × 195 cm

440 江戸切圖 36枚 Q291-40

江戸 近吾堂 弘化5～嘉永7
折本36 44 × 64 cm

- 内容：1 永田町絵図（弘化5）
 2 外神田 下谷 上野辺絵図
 3 改正駒込 栗鴨辺図（嘉永5）
 4 麻布 廣尾辺図（嘉永2）
 5 改正白山 駒込辺図（嘉永5）
 6 改正内藤新宿，新屋舗 代々木
 辺図（嘉永4）
 7 改正外神田，下谷辺図（嘉永6）
 8 改正小石川辺図（嘉永5）
 9 栗鴨 染井 王子辺図（嘉永5）
 10 駿河台 小川町図（嘉永2）
 11 改正上野 下谷辺図（嘉永6）
 12 本郷 谷中 小石川 駒込絵図
 （嘉永2）
 13 改正渋谷 宮益辺図（嘉永4）
 14 下谷 浅草 箕輪 山谷辺図（嘉永3）
 15 改正青山 長者丸辺図（嘉永4）
 16 改正雑司ヶ谷 音羽辺図（嘉永4）
 17 日本橋 神田絵図（嘉永3）
 18 日本橋 南芝口辺地図（嘉永3）
 19 小日向 小石川 牛込地図（嘉永3）
 20 日本橋北内 神田辺図（嘉永7）
 21 浅草鳥越 堀田原図（嘉永3）
 22 深川之内（嘉永3）
 23 牛込 市ヶ谷御門外地図（嘉永2）
 24 芝 愛宕下 西久保（嘉永2）

- 25 高輪 白金辺図（嘉永2）
 26 本所 猿江 亀戸村辺図（嘉永4）
 27 四ッ谷 千駄ヶ谷辺図（嘉永2）
 28 南本所 豎川辺図（嘉永4）
 29 京橋南辺図（嘉永6）
 30 北本所辺図（嘉永4）
 31 番町絵図（嘉永2）
 32 赤坂 今井辺図（嘉永7）
 33 上水 北小日向 小石川辺図
 （嘉永5）
 34 御大名小路 辰之口辺図（嘉永2）
 35 赤坂 今井絵図（嘉永2）
 36 大久保 外山辺図（嘉永4）

江戸市中の部分地図である。重複したものがある。いづれも、裏表紙に百寿亭の墨書がある。

印記：耕堂

441 政廈謝德鑒 Q291-41

江戸 勸敬堂 嘉永1
折本1冊 16 × 5 cm 和

江戸城東方の道順 諸大名の屋敷を記してある。「今太平庶民至政廈門拜謝君恩故順路為楷梯」とある。

442 參謀本部 Q291-42

品川及横濱近傍
東京 編所 明治17
地図7枚 44 × 55 cm
縮尺1：20000

- 内容：品川駅
 2 羽田村
 3 二子村
 4 川崎駅
 5 横濱區
 6 本牧，本郷村
 7 洲崎村

- 443 東條 信耕 Q291-43
 増訂 伊豆七島全圖
 刊 天保13
 地図1枚 74 × 100 cm
 内容：伊豆七島
 無人島
 相武房総海岸図
 解説
 伊豆全部および、七島の地図で、解説がある。表紙に「可菴齋」と墨書がある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 444 参謀本部 Q291-44
 相模國東南部
 東京 編所 明治17
 地図5枚 39 × 41 cm
 縮尺1：20000
 内容：1 浦賀町
 2 横須賀町
 3 八幡久里浜村
 4 三崎町
 5 小坪村
- 445 改正 駿河國輿地全圖 Q291-45
 刊
 地図1枚 50 × 90 cm
 明治一、二年頃の版であろう。地図には「駿河之國之全圖」とある。
- 446 平澤 貞橘 Q291-46
 遠駿豆輿地精細圖解 平山陳平圖解
 静岡 佐藤俊平 明治11
 地図1枚 102 × 125 cm
 各郡別に彩色がある。銅版
- 447 駿府古繪圖 Q291-47
 写
 地図1枚 150 × 160 cm
 慶長年間市中社寺 諸士役宅を詳しく記し、御城旧記として、寛永十五年造営までの記がある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 448 駿府名勝一覽圖 Q291-48
 〔江戸〕 大和屋喜兵衛
 地図1枚 69 × 90 cm
 駿府町図のほかに、「久能山真景」を添えてある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 449 遠江官林全圖 Q291-49
 刊 明治13
 地図1枚 70 × 75 cm
 第四大林區南天龍中林區全圖である。
- 450 参陽全圖 Q291-50
 写
 地図1枚 160 × 100
 愛知県三河國の地図である。地名を詳細に記してある。
- 451 伊勢國一志郡多氣谷之圖 正・副 Q291-51
 写
 地図2枚 134 × 130 cm
 副図は正本の模写である。鑑定足立楸太郎
- 452 古今都細見之圖 Q291-52
 刊 〔安政年間〕
 地図2枚 70 × 100 45 × 53 cm
 平安京と、江戸時代京都との比較地図で、内裏造営の記事がある。安政頃の刊行であろうか。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 453 参謀本部 Q291-53
 大阪近傍圖
 東京 編所 明治19
 地図6枚 40 × 48 cm
 縮尺1：20000
 内容：1 吹田村 2 大阪
 3 伊丹町 4 尼崎
 5 西宮 6 今津村

- 454 静岡縣教育新誌社 Q291-54
 明治新撰駿河國誌 卷1
 静岡 文林堂 明治30
 92丁 23cm 和

國名の考証、地勢、港灣等を記してある。

- 454a 皇國沿海里程全圖 Q291-55
 写〔元祿期(168-)〕軸1幅 349cm
 都合6帖の地図を軸にしたもの。

Q292 アジア

- 455 朱 長文 Q292-1
 吳郡圖經續記 3卷
 刊 江蘇書局 同治11(明治5)
 65丁 25cm 和

封域より雜録に至る二十八項に分けて記載してある。

- 456 吳地記 陸廣徵(唐)撰 Q292-2
 刊 江蘇書局 同治11(明治5)
 23丁 25cm 和
 付録：後集

吳地の古蹟を記してある。

- 457 陸 應陽 Q292-3
 增訂廣輿記 24卷 蔡 方炳 增輯
 刊 光緒4(明治11)
 合本4冊 24cm 和

廣輿記は、広き輿地記の義で、大明一統志にならって、歴代の史。地方の地誌を参酌して作ったものである。巻首には、別に各省の地図がある。

印記：關口

- 458 劉 美充 Q292-4
 金壇縣志 4卷
 刊 万曆8(天正8)
 104丁 25cm 明版。

印記：日知館圖書

- 459 西 徳次郎 Q292-5
 中亞細亞紀事 2卷
 東京 陸軍文庫 明治19
 2冊 18cm

Q293 ヨーロッパ

- 460 佐和 正 Q293-1
 航西日乗 3卷
 東京 著者 明治17
 3冊 22cm 和

明治十二年川路大警視に従って、欧州へ趣いたときの見聞録である。

- 461 新井 白石(君美) Q293-2
 西洋紀聞 3卷 附録1卷
 刊 白石社 明治15
 2冊 23cm 和

上巻はローマ人糾問のこと、中巻はローマ人の言により、海外諸国の地理歴史を、下巻はローマ人との雑話を記したものである。

- 462 御用留 Q293-3
 写 [慶応2]
 193丁 23cm

慶応三年パリー博覧会開催につき、渡仏した清水昭武一行の渡船準備、手続、往復書信、航海中および滞仏中の日記等を記したものである。一行中の人の筆であろう。

表紙に「秘」と朱書がある。

印記：關口耕堂珍藏之記

463 御書翰 1巻 Q293-4
写
97丁 23cm

慶応三年パリー博覧會について、民部大輔
清水昭武一行が渡仏したとき、我国使臣が
往復した書信の控。

表紙に「外国方」とあり、また「秘」と朱
書がある。

印記：關口耕堂珍藏之記

464 慕惟廉 (米) Q293-5
魯地全書 飛來義躬訳
写
10丁 23cm 和

ロシア地理の書である。

Q 295 北アメリカ

465 裨治文 (ブリジソン) [米] Q295-1

聯邦志略 2巻 ブリジソン著

箕作阮甫訳

江戸 老皂館 文久1

2冊 27cm 和

アメリカ合衆国の地理書である。

Q 300 社会科学

Q 302 政治 經濟 文化 事情

466 中井 積善 Q302-1
草茅危言 5巻
刊 寛政元 序
5冊 27cm 和

經濟治国の要道に関する自家の意見を記し
て、松平定信に献じたものである。木活字
版。

印記：訥菴大橋順收藏圖書記

Q 304 論文 講演集 隨筆 雜記

467 田中 邸愚 Q304-1
民間省要 上編7巻 中編4巻
下編4巻
写
12冊 27cm 和

政治法制、風俗、教育、農工商等、おもに
民政に関する著者の意見を集録したもので
ある。

印記：關口外齋 耕堂

Q310 政治

- 468 荻生 徂徠 (茂卿) Q310-1
 政談 8卷
 写
 4冊 28cm 和
 当時の政治 法律 制度等を論じ、時弊を
 矯正しようとする意見書である。
 印記：田敬之函書印
- 469 新政談 5卷 (欠卷2) Q310-2
 写
 4冊 27cm 和
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 470 新政談 5卷 Q310-3
 写
 5冊 27cm 和
 徳川幕府時代における政治、経済に関する
 意見を述べたものである。巻末に「甲子春
 成功望芙蓉 原本達五」とある。
 印記：渡邊文庫 鬼外
- 471 鬼國 山人 Q310-4
 弊れ家のつくり話
 写 嘉永5
 68丁 24cm 和
 題簽には「弊家補綴」とある。
 経済篇 政事篇 の二篇に分け、時弊を論
 じたものである。
- 472 古賀 樸 Q310-5
 十事解
 写
 34丁 24cm 和
 合綴：盡徹問答 山崎闇齋 (嘉) 著
 十事解は古賀樸の著で、施政治民の要を論
 じたもの「盡徹問答」は山崎闇齋の語を編
 集したもので、租税法について論じている。
- 473 太宰 純 Q310-6
 上書
 写
 10丁 23cm 和
 徳川氏代々の天災事暦を列挙して、非常時
 に、人君の戒慎すべきこと、平時勤儉修徳
 の必要な事を論じ、時の執政に上書したも
 ので、享保十八年成る。
 印記：培堂 培達堂 管譜蔵印
 秋山氏蔵書
- 474 徳川 宗春 Q310-7
 温知政要
 写
 19丁 27cm 和
 尾張藩主宗春が諸臣に示した政治 法規
 道德等に関する訓誡である。
 印記：新聞挺印
- 475 徳川 宗春 Q310-8
 温知政要
 写 享和3
 26丁 23cm 和
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 476 袁 守定 Q310-9
 圖民録 4卷
 刊 同治12 (明治6)
 120丁 24cm 和
 官吏となって民を治めるものの、心術要道
 の誠実公平にあるを説いたものである。
 清版
 印記：關口隆正

Q311 政治学 政治思想

- 477 呂 坤 Q311-1
實政録 7卷
浙江書局 同治11(明治5)
6冊 25cm 和

明職, 民務, 郷甲約, 風憲約, 獄政に分けて, 治民の方法を詳述したものである。清版

Q312 政治史 事情

- 478 蕃地事務局 Q312-1
内閣秘本處蕃趣旨書
東京 編所 明治8
102P 19cm

台湾事件に関する記録である。

- 479 嘉永六寅七月別段風説書 Q312-2
西吉兵衛等訳
写
20丁 27cm 和

和蘭をはじめ欧州諸国における当時の事情を記したもの(かびたんの報告書?)を訳したものである。嘉永六年は癸丑の年。

印記: 遠州月岡關口氏藏

- 480 巡察復命書 9卷 附録1卷 Q312-3
写 [明治16]
10冊 27cm 和
付録: 巡察復命摘要
内容: 1 千葉県
2 茨城県
3 栃木県
4 三重県

- 5 岐阜県
- 6 愛知県
- 7 静岡県
- 8 神奈川県
- 9 東京府

明治十六年元老院議官関口隆吉が, 千葉, 茨城, 栃木, 三重, 岐阜, 愛知, 静岡, 神奈川, 東京の九府県下の状況を視察復命したものの控である。元老院, 太政官, 参事院, 各県の罫紙を使用してある。

- 481 関口議官視察特別書類 9卷 Q312-4
写 [明治16]
9冊 24 27cm 和

- 内容: 1 千葉県
2 茨城県
3 栃木県
4 三重県
5 岐阜県
6 愛知県
7 静岡県
8 神奈川県
9 東京府

明治十六年関口元老院議官地方巡察の際の調査で, 千葉, 茨城, 栃木, 三重, 岐阜, 愛知, 静岡, 神奈川, 東京の九府県下の産業, 教育, 社会, 警察, 災害, 旧蹟等に関する報告書を合綴したものである。元老院, 各県の罫紙を使用してある。

- 482 士族ノ景況 8卷 Q312-5
写 [明治16]
8冊 26cm 和

- 内容: 1 千葉県
2 茨城県
3 栃木県
4 三重県
5 岐阜県
6 愛知県
7 静岡県
8 神奈川県

明治十六年元老院議官関口隆吉が、千葉、茨城、栃木、三重、愛知、静岡、岐阜の各県下を巡察した際、当時の士族の状況を調査したものである。元老院と各県の罫紙を使用してある。

483 西 享 Q312-6

九州地方実況

写

7丁 27cm 和

題簽には「九州地方視察状況」とある。

九州地方視察の復命書で、旧城下住民の生活状態、戸長の人選に対する意見、福岡分県論等を記してある。盤谷堂河島用箋。

484 岡田 良一郎 Q312-7

巡回紀行

刊 明治13

37丁 23cm 和

附録：郡中小孝節録

巻末に「郡書記縣一郎作所贈時壬午六月月岡村居主人」とある。

485 岡田 良一郎 Q312-8

第二回 巡回紀行

掛川 大塚好五郎 明治16

3冊 24cm 和

著者が静岡県佐野、城東両郡長であったとき、管内を巡回視察した際の記録である。

486 関口縣令記念 明治初期名士書簡集 Q312-9

軸33 袋入2種 2冊

70×31cm 桐箱入

内容：1 関口隆吉書簡及び電報案

明治10年2月25日 関口隆吉より木梨様あて書簡

明治10年2月21日 関口県令より神戸伊藤参議あて電報案

2 三條実美 岩倉具視 大久保

利通 山田顯義 伊藤博文書簡

〔明治初期〕12月16日 三條実美より大久保、副島、広沢、佐々木、

吉井殿あて

〔明治初期〕2月朔日 岩倉具視より吉井少弼殿あて

〔明治初期〕9月7日 大久保利通より吉井様あて

〔明治初期〕2月18日 山田顯義より靖老兄あて

明治10年4月5日 伊藤博文より隆吉殿あて

明治9年10月28日 伊藤博文より関口先生あて

3 木戸孝允書簡

明治9年11月10日 木戸孝允より隆吉先生あて

4 木戸孝允書簡

明治9年11月15日 木戸孝允より隆吉先生あて

5 木戸孝允書簡

明治10年1月4日 木戸孝允より隆吉先生あて

6 伊藤博文書簡

〔明治7年〕6月10日 伊藤博文より関口賢台あて

7 山県有朋書簡 大洲鉄然書簡

〔明治20年頃〕6月12日 山県有朋より関口老台あて

明治14年1月3日 大洲鉄然より関口公閣下あて

8 松方正義書簡

明治11年2月 松方正義より関口老台あて

〔欠年〕3月2日 松方正義より関口殿あて

9 山田顯義書簡

明治9年3月14日 山田顯義より関口賢台あて

10 山岡鉄舟書簡 品川彌二郎書簡

明治9年11月15日 山岡鉄舟より関口隆吉殿あて

〔年月欠〕2日 品川彌二郎より関口様あて

11 山岡鉄舟書簡

明治21年2月21日 山岡鉄舟より

- 関口隆吉殿あて
- 12 山岡鉄舟書簡
明治21年3月26日山岡鉄舟より
関口隆吉君あて
- 13 山岡鉄舟書簡
(欠年)4月22日山岡鉄舟より
黙齋老兄あて
- 14 品川彌二郎書簡
明治10年5月22日品川彌二郎
より関口様あて
- 15 六戸璣書簡
明治10年7月28日六戸璣より
関口賢台あて
- 16 六戸璣書簡
明治10年8月3日六戸璣より
関口県令殿あて
明治21年2月26日六戸璣より
関口様あて
- 17 岩村通俊書簡
(欠年)3月25日岩村通俊より
関口殿あて
(年月欠)20日岩村通俊より
関口老兄あて
(年月欠)4日岩村通俊より関口
殿あて
- 18 大迫貞清書簡 前島密書簡
〔静岡県令時代〕10月27日大
迫貞清より関口隆吉殿あて
〔明治初期〕7月5日前島密より
関口令台あて
- 19 大久保一翁書簡
(欠年)7月25日大久保一翁
より関口隆吉殿あて
- 20 大久保一翁書簡
明治17年12月1日大久保一翁
より関口殿あて
- 21 榎本武揚書簡 土方久元書簡
(欠年)2月15日榎本武揚より
関口隆吉殿あて
明治21年7月10日榎本武揚より
関口隆吉殿あて
明治20年6月28日土方久元より
関口賢台あて
- 22 江副晃臣書簡 濱村藏六書簡

- 明治9年5月10日江副晃臣より
関口隆吉様あて
(欠年)陽月念日 濱村藏六より
敗萩先生あて
- 23 清浦奎吾書簡
明治19年9月13日 清浦奎吾
より関口賢台あて
- 24 白根専一 福地源一郎
佐野常民書簡
〔静岡県知事時代〕3月24日
白根専一より関口静岡県令あて
〔明治10年頃〕4月13日 福地
源一郎より関口隆吉殿あて
(欠年)4月7日 佐野常民よ
り関口隆吉殿あて
- 25 大洲鉄然書簡
(年月欠)大洲鉄然より関口県
令公閣下あて
- 26 栗本鋤雲書簡
明治10年1月7日 栗本鋤雲
より權助君あて
- 27 安田善次郎書簡
(年月日欠)安田善次郎より
関口様あて
- 28 寺崎廣業書簡
(欠年)8月31日 寺崎廣業
より関口仁兄あて
- 29 関口隆吉氏宛葉書六通
(欠年)6月29日 杉民治より
関口隆吉殿あて
(欠年)1月10日 香川藤晃より
関口県令あて
(欠年)3月1日 矢ノ倉小西
より関口様あて
(欠年)6月20日 縣信輯より
関口隆吉様あて
明治9年4月11日 三瀨縣より
山田縣あて
明治12年6月29日 小島元勝
より関口隆吉あて
- 30 水戸浪士遺墨
明治2年箱館戦争関係の護送者名
寫石川河内守書簡
壬4月17日 石川河内守より

- 関口良輔あて
- 31 封皮張込
- 32 関口隆吉より田邨武治宛書翰
(欠年) 8月20日
田邨武四より貞松修藏宛書翰
(欠年) 9月11日
- 33 関口隆吉より山田顯義宛書翰
(欠年) 2月29日
山田英夫より貞松修藏宛書翰
昭和4年6月7日
- 34 関口隆正より加藤女師宛書翰
附詩草
- 35 水戸浪士ノ遺墨ニ関スル田中
光顯伯書簡 1通
- 36 関口隆吉等宛明治初期名士書状
類仮目録(新村出編)

関口隆吉が幕末の志士として、県令知事、元老院議員として、活躍した際に収集保存したもので、維新前後の資料として貴重なものが多い。

Q317 行 政

- 487 大蔵省 Q317-1

官禄規則

写 [明治初期]
8丁 23cm 和

官等、官禄および官禄の渡し方を規定したもので、明治二年大蔵省の定。
不息書堂用箋に記してある。

- 488 ヘーン Q317-2

ヘーン氏復命書 4巻
東京 内務省 明治21
4冊 26cm 和

- 内容：1 山口，広島，愛媛，岡山四県巡回復命書
2 栃木，福島，群馬，三重巡回復命書
3 静岡，愛知，岐阜，滋賀，三重五県巡回復命書
4 千葉県巡回復命書

明治二十年前後善国警察大尉で、我政府雇であるヘーン氏が、各府県の警察事務を視察し、内務大臣に差出した復命書である。標題紙に「秘」の朱印がある。

- 489 大蔵省 Q317-3

開拓使事業報告

東京 編所 明治18
5冊 23cm

- 内容：1 沿革 地理 戸籍
2 勸農 土木
3 物産
4 運輸 通信 衛生 教育
5 兵備 外事 恩典 警察
裁判 監獄 租税 会計

北海道開拓使の事業報告書

- 490 関口 隆吉 Q317-4

詞訟代人規則制定ノ儀上申

写 明治16
2丁 27cm 和

太政大臣三條実美宛上申の草案である。
参事院の罫紙を使用してある。

Q318 地方自治

- 491 地方官會議聞書 巻5~8 Q318-1

山形 山形縣活版社 [明治初期]
116丁 20cm 和

明治八年七月一日より同十七日、會議終了までの記録である。

- 492 山形縣大區會々議日誌 7卷 Q318-2
刊 明治8
73丁 20cm 和

明治八年学校費の件につき、県下に大区会を召集して協議したときの記録である。権県令関口隆吉の名で頒布されたもの。

- 493 栃木縣諸調査 Q318-3
写 明治16
23丁 27cm 和

県会議員の氏名、財産、県治の一斑を知るべき統計等を記してある。明治十六年調。栃木県の罫紙を使用してある。

- 494 下総國演説書寫 Q318-4
写
19丁 24cm 和

下総国相馬郡、豊田郡における代官の事務取扱い方を記した新旧代官引継書である。

- 495 岐阜縣高山町ヨリ関口議官へ差出シタル書類 5卷 Q318-5
写
5冊 26cm 和

関口隆吉が元老院議官であったとき、同氏へ差出した町政の一斑を知ることのできる書類である。

- 496 静岡縣掛川警察署管内事情 Q318-6
写 明治16
22丁 27cm 和

明治十六年関口元老院議官巡察の際調査のもので、管内の民情、産業、教育等に関する峻烈な批判がある。元老院の罫紙を使用してある。

- 497 山口縣治一覽表 明治9年 Q318-7
山口 明治9
折本1冊 19×9cm

明治九年一月一日現在により、山口県治の概要を記したものである。

- 498 山口縣郡治一覽概表 Q318-8
山口 [明治9]
折本1冊 19×9cm

明治九年より同十二年頃に至る調査統計表である。
印記：山口縣收藏圖書印

Q322 法制史 外国法

- 499 大野 廣城 Q322-1
青標紙 2卷
写
2冊 27cm 和
題簽には「武家秘冊青標紙」とある。

徳川時代における武家の法制典故等を記したものである。忍廻屋藏版本の写し。

- 500 大野 廣城 Q322-2
武家秘冊 殿居囊 2卷
写
2冊 27cm 和

青表紙の付録で、武家年中行事、諸役班列法度、日光山、紅葉山等の略図、略伝を集録してある。

- 501 御當家御式目 Q322-3
功德院尚志写 享保6
135丁 27cm 和

徳川初期における制令を記したものである。巻末に「享保六丑年功德院尚志写」とある。
印記：守静藏書

- 502 湯浅 元禎 Q322-4
備藩典刑 4卷
写
4冊 28cm 和

備前池田光政の時、慶長より貞享頃までの
觸出し諸法度を、編録したものである。

- 503 律令要略 Q322-5
写
2冊 24cm 和
題簽には「公事裁斷録」とある。

公事訴訟取捌大概より、十五才御仕置に至
る、五十一項について記してある。
印記：小林氏秘笈 不息書堂之記

Q 326 刑 法

- 504 市伊書留 Q326-1
写
93丁 21cm 和

享保より延享の頃に至る間において、制定
された犯罪の処罰を記したものである。
江戸町奉行所撰の他見を許さなかったもの。

- 505 入墨形御構場所附 Q326-2
写
6丁 14×19cm 和

諸国における罪人の入墨場所、および追放
について記してある。吉田某の手控帖。

- 506 雜要律令 Q326-3
写
16丁 13×19cm 和

遊女の大門通行の門鑑、罪人の入墨等を記
したものである。

- 507 天保規例 Q326-4
写
63丁 12×17cm 和

天保より安政頃に至る間、江戸市中におけ
る諸犯罪の記録である。川村某の手控帖。

- 508 呉 訥 Q326-5
祥刑要覽
刊 天保5
37丁 26cm 和

若山拯による訓点が施されている。
刑獄のことを論じたものである。
印記：遠州月岡關口氏藏

Q 327 司法制度 訴訟手続法

- 509 座右抄 Q327-1
写
35丁 25cm 和
題簽には「古寶座右抄」とある。

御下文、御教書、起請証文等の書式に関す
る故実、文例を記したものである。
印記：遠州月岡關口氏藏 培達堂
菅譜藏印

Q 337 貨幣 通貨

- 510 草間 直方 Q337-1
三貨圖彙 序・目錄 本篇20卷
(欠卷5)
物價10卷(欠卷2, 9, 10)
題簽には「三貨図彙一價物」とある。
附録9卷(欠卷7, 8, 9)
遺考4卷
写
37冊 27cm 和

内容： 序，目録，中井竹山，山中嘯
月 塙保己一 序文 加藤竹
里 皆川淇園跋文
本篇 卷1～4，6 錢部
卷7～16 金部
卷17～20 銀部
卷1，3～8 物價
卷1～6 附録
遺考

511 近藤 守重 (正齋) Q337-2

金銀圖録附言

刊

48丁 23cm 和

512 貨幣條例 新貨條例改正 Q337-3

大阪 造幣寮 明治8

28丁 23cm 和

付録：毎年製貨試験分析定期

内容：貨幣例目

公差表

貨幣略図並品位量目表

貨幣通用制限

造幣規則

明治四年の太政官諭告，明治八年の造幣規則，その他を記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q345 租 税

513 大藏省租税局 Q345-1

大日本租税志 前篇20卷 中篇30卷

後篇6卷 雜篇14卷

東京 編所 明治15～18

30冊 26cm 和

内容：前篇1 上古～治承

1 卷1 田制總録 墾田 荒損田
易田

2 卷2 屯田 官田

卷3 口分田

3 卷4 位田 職田 功田 賜田
卷5 公田 公營田
4 卷6 神田 寺田
卷7 勅旨田 諸司田 雜種田
5 卷8 封戸 莊園 宅地 山林
卷9 質地 売買田 隱田
没官田

前篇2 養和～慶應

6 卷10 田制總録 開墾田
荒損田

卷11 勅旨田 公田 功田
給田 名田 散田 問田
免田

7 卷12 御料所 莊園 国領
卷13 領地 上

8 卷14 領地 下

9 卷15 神領 寺領

卷16 恩地 兵糧料所 封戸
宅地 山野

卷17 質地 売買地 隱地
關所

前篇3 明治元年～同13年

10 卷18 田制總録 開墾地
潰損地

卷19 宅地 社寺領 山野
免除地

卷20 売買地 質地 隱地

中篇1 上古～治承

11 卷21 田租總録 大正税
公廩稻 雜稻

12 卷22 地子 神寺税 免租

13 卷23 取納總録

卷24 納期 未進 運漕

中篇2 養和～慶應

14 卷25 田租總録 正税

卷26 定免取 檢見取

15 卷27 段高場取 口米永

卷28 地子 神寺税 雜科
免租

16 卷29 雜税總録 當業 雜種

17 卷30 海關税

卷31 取納總録 藏納

18 卷32 石代納 金納

卷33 納期 未進 運漕

- 中篇 3 明治元年～同13年
- 19 卷34 地租総録
 卷35 地券證印税 雜科
 卷36 雜稅総録
 卷37 酒類稅 醬油稅
 卷38 船稅 牛馬売買免許稅
 卷39 祿稅
- 20 卷40 蚕種並生絲稅 銃獵稅
 鋤山稅
 卷41 專売特許稅 絞油稅
 港灣碇泊稅 僕婢馬車人
 力車駕籠乘馬遊船諸稅
 卷42 證券印紙諸稅
 卷43 郵便稅
 醬麴稅 諸会社稅 車稅
 烟草稅 度量衡稅
- 21 卷45 板權免許料 訴訟用
 野紙諸稅 代言免許料
 壳藥稅 海外旅券其他免
 許手数料
 卷46 琉球藩貢納 北海道諸稅
- 22 卷47 海關稅
 卷48 地方稅
 卷49 収納総録
 卷50 納期 不納
- 後篇 1 上古～治承
- 23 卷51 調庸 免調庸
 24 卷52 調庸期限 調庸未進
 卷53 課役 雜徭 免徭役
 貢獻
- 後篇 2 養和～慶應
- 25 卷54 課役 雜役
 卷55 武家役 国役 三役
 免課役 貢獻
- 後篇 3 明治元年～同13年
- 卷56 三役 国役金 軍資金
 献上
- 雜篇 1 上古～治承
- 26 卷57 正倉 穀倉院
 動倉 不動倉 率分堂
 国儲 義倉 常平倉
 卷58 估價 出挙
- 27 卷59 度量衡
 卷60 簿書式

- 雜篇 2 養和～慶應
- 28 卷61 圍穀
 卷62 檢地法 檢見法
 卷63 估價 貸附
 卷64 度量衡
 卷65 簿書式
- 雜篇 3 明治元年～同13年
- 29 卷66 儲蓄
 卷67 檢地法 檢見法
 卷68 物價
 卷69 度量衡
- 30 卷70 簿書式

上古より明治に至るまでの税制を詳述したものである。

- 514 府縣地租改正紀要 3巻 Q345-2
 [東京] [明治7]
 3冊 27 cm

明治六年の地租改正により、各府縣地租を調査したものである。

- 515 静岡縣管内伊豆國新舊稅額差引調 Q345-3
 写 明治12
 7丁 27 cm 和
 題簽には「伊豆國新舊稅額差引調」とある。

明治十二年十月調のものである。

Q 358 人口統計

- 516 内務省總務局戶籍課 Q358-1
 日本帝國國民籍戶口表
 東京 編所 [明治20]
 255 P 29 cm

明治十九年十二月三十一日現在のものである。

Q369 社会病理 社会事業

517 童喚舊語鈔 Q369-1

写

87丁 25cm 和

内容：明曆懲忒録（亀田宗山）

後見草

浅間の記（志賀紀豊）

櫻島記

明曆大火のことを記した亀田宗山の「後見草」に添えて、浅間および櫻島噴火の記録を合綴してある。湯岱文庫の罫紙を使用している。駿陽小嶋の対岳楼主人麗鳥郷の識語あり。

印記：湯岱文庫

518 天明災異記 Q369-2

写

43丁 24cm 和

天明三年浅間山噴火のこと、その被害のことなどを記してある。本書は書名を逸しているののでしばらく「天明災異記」と題する。

Q372 教育史 事情

519 沼津兵學校 Q372-1

徳川家兵學校掟書

〔沼津〕 編所 明治1序

22丁 20cm 和

沼津における、徳川家兵学校の規則書である。表紙裏に「紙筆料二百銅」の黒印がある。

520 川上廣樹 Q372-2

足利學校事蹟考

足利町（栃木県） 和洋舎 明治13

28丁 23cm 和

下野足利学校の設立、その他事蹟の考証である。

印記：大槻文庫

Q373 教育政策 教育制度

521 獨逸國學制論 Q373-1

刊 澳國博覽會事務局

62丁 21cm 和

題簽には「獨逸學制論」とある。

明治初年におけるドイツの教育制度を紹介したものである。

Q375 学習指導 教科課程

522 王 應麟 Q375-1

標註三字經

東京 吉川半七 明治15

18丁 26cm 和

小学校教科書として編さんされたもの、埼玉県蔵版。

Q382 風俗史 民俗誌

523 伊豆風俗志 3巻 Q382-1

疋野治左衛門写 文政13
3冊 24cm 和

伊豆七島のことを記したもので、巻末に
「文政十三寅七月日 疋野治左衛門写之」
とある。

Q385 祭礼 年中行事

524 菊岡 沾涼 Q385-1

續江戸砂子温故名跡志 2巻
江戸〔編者〕享保20
36丁 23cm 和
題簽には「續江戸砂子上下」とある。
表紙には「四季集」とある。

江戸の年中行事および名産等を記してある。

525 年中行事 Q385-2

写
102丁 28cm 和
題簽には「年中行事解説」とある。

年中行事を記し、之に詳細な註釈を加えた
ものである。

526 外山 新七 Q385-3

墨水流燈會記
東京 編所 明治20
50丁 24cm 和

題簽には「墨水流燈會之記」とある。
隅田川に非業の死をとげた人の、亡魂を弔
うために催した、水燈会の記録である。
印記：遠州月岡關口氏藏

527 石川 雅望 Q385-4

都手振
江戸 青雲堂英文蔵 文化5
25丁 22cm 和
題簽には「都能手不理」とある。

江戸市中の風俗を、雅文にして記したもの
である。

印記：青葱文庫（黒印）

Q386 冠婚葬祭

528 土肥 頼時 Q386-1

服忌養實問答集
久保勝吉写 天保4
61丁 24cm 和

服忌に関する記録で、実例についての問答
を記してある。巻末に「天保癸巳年二月写
久保勝吉写 佐々木氏所持」とある。

Q392 国防史 軍事情

529 平山 子龍（潜） Q392-1

海防問答 2巻
写
2冊 26cm 和

印記：遠州月岡關口氏藏

530 平山 子龍（潜） Q392-2

海防問答 3巻
写
3冊 26cm 和

我国海防のことを問答したもので、下巻は
図式である。

印記：遠州月岡關口氏藏 西尾文庫

531 平山 子龍 (潜) Q392-3
海防問答 1 卷
写
52 丁 26 cm 和
付録：東西問答駁説 一大野武矩の「東西問答」への子龍の駁説である。

印記：遠州月岡關口氏藏
報本堂松岡氏藏書記

532 藤森 大雅 Q392-4
海防備論
写
68 丁 24 cm 和

嘉永六年米船入航について、海防制夷を論述したものである。
印記：遠州月岡關口氏藏

533 赤井 東海 Q392-5
海防論 2 卷
写
2 冊 24 cm 和

十項に分けて海防を論じたもので、駿府代官羽倉用九うの序がある。
印記：遠州月岡關口氏藏

534 古賀 焜 Q392-6
海防臆測 2 卷
東京 日高誠実 明治 13
74 丁 19 cm 和

我国の海防について論じたものである。
関口無名の朱筆あり。

Q 393 戦争 戦略 戦術

535 根岸 直利編 Q393-1
四戦紀聞 4 卷
江戸 山城屋佐兵衛 弘化 3
4 冊 26 cm 和

内容：1 江州姉川戦記
2 遠州味方原戦記
3 参州長篠戦記
4 尾州長久手戦記

姉川、三方原、長篠、長久手、四戦の記録である。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q 396 陸 軍

536 軍用蒐録口義 5 卷 Q396-1
写
5 冊 27 cm 和

537 新撰砲家必讀 11 卷 (欠卷 1) Q396-2
写
3 冊 27 cm 和

西洋砲術書の訳本である。

印記：遠州月岡關口氏藏

538 陸軍兵學寮 Q396-3
陸軍日典 内務省之部 大嶋恭次郎訳
東京 編所 明治 3
137 丁 19 cm 和

兵営内の勤務について記してある。

539 寺井 肇 Q396-4
火攻知要
刊 文政 9 跋
11 丁 26 cm 和

銃砲のことを記してある。

- 540 清水 正徳 Q396-5
火砲要録 卷3, 9
 写
 62丁 24cm 和
 題簽には「火砲要録卷三」とある。
- 541 清水 正徳 Q396-6
火砲要録 卷9
 写
 23丁 23cm 和
- 542 鐵砲初學抄 Q396-7
 写
 29丁 27cm 和
 題簽には「鉄砲初学抄」とある。
 銃砲に関する初学一般を記してある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 543 井上 正清 Q396-8
銃砲問答
 写
 54丁 26cm 和
 自問自答をもって、銃砲を戦陣に用いる場合の、利害得失を論じたものである。
 題簽には「銃砲問答」とあり。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 544 井上 正清 Q396-9
銃砲問答
 写
 135丁 24cm 和
 ほかに兵要録一部の口義および「陣具小集」を合綴してある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 545 近松 茂矩 Q396-10
鉄砲茶話 附尾問答 2卷
 写
 2冊 24cm 和
 大銃、中筒、小筒の取扱その他に関することを詳述してある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 546 近松 茂矩 Q396-11
銃訣 2卷 (欠卷下)
 写
 58丁 24cm 和
 図式を示して銃の取扱い、その他を記してある。附尾問答の図解である。銃訣とは銃の奥義という意味である。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 547 窪田 清音 Q396-12
練兵弓砲規則 卷3, 4
 写
 32丁 27cm 和
 題簽には「練兵引砲規則」とある。
 弓砲射撃のことを記してある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 548 砲術手冊 Q396-13
 写
 29丁 24cm 和
 西洋大砲の発明より、製作、使用の方法等を記してある。題簽には「砲術手冊」とある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 549 清水 正徳 Q396-14
西洋神器説圖解
 写
 85丁 26cm 和
 大砲の用法その他を記してある。
 享和3年の叙あり。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 550 火器隊之事 Q396-15
 写
 10丁 27cm 和
 題簽には「火器隊篇」とある。
 大砲、中砲、小砲の三隊に分け、火器隊の戦法を記してある。
 印記：遠州月岡關口氏藏

Q 397 海 軍

- 551 艦法一覽 Q397-1
写
34丁 24cm 和

印記：遠州月岡關口氏藏

Q 399 古 代 兵 法

- 552 楠木 正成 Q399-1
楠君遺事
写
30丁 25cm 和

著者の兵法書である。

- 553 武門要鑑抄 22卷 Q399-2
写
3冊 24cm 和

うち1冊巻3より巻11までは21cm。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 554 武門要鑑抄 卷21, 22 Q399-3
写
32丁 24cm 和

題簽には「武門要鑑抄并漫集」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 555 長沼 宗敬(澹齋) Q399-4
兵要録 22卷 統録5卷
写
6冊 27cm 和

兵要統録は宮川忍齋(尚古)著である。

宮川忍齋は、澹齋の門人である。

- 556 兵要録口義 22卷(欠巻4) Q399-5
関口隆吉写 嘉永6~安政2
14冊 24cm 和
関口隆吉手澤本

印記：遠州月岡關口氏藏

- 557 兵要録大綱 Q399-6
写
14丁 26cm 和

長沼澹齋の「兵要録」の解題書である。巻末に「元書守拙先生ノ藏ナリ。予乞テ書写ス。自安政六未年二月五日至全四月十二日卒業」とある。

- 558 兵要録類聚 Q399-7
写
28丁 27cm 和

長沼澹齋の伝記、碑誌、兵要録序、兵要録補苴を記してある。

- 559 宮川 忍齋(尚古) Q399-8
兵要續録 5卷
写
2冊 23cm 和

忍齋の口授を屯階徳が筆記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 560 宮川 忍齋(尚古) Q399-9
兵要續録 5卷
写
47丁 24cm 和

印記：遠州月岡關口氏藏

- 561 長谷川 忠雄 Q399-10
兵要録補闕 5卷
写
41丁 27cm 和

印記：艸臣源隆吉印

- 562 兵要録口占書 Q399-11
写
26丁 24cm 和
題簽には「軍語占書、兵要録別伝、并兵要録卷十二残篇」とある。
本書は、軍語に関する講義である。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 563 兵要録口占 卷11 Q399-12
写
66丁 27cm 和
題簽には「兵要録鍊銃頭篇、碎玉軒勝負合、并抄書類」とある。
鍊銃頭篇の講義で、澹齋、碎玉二先生門人録、武役教令、忍齋先生事實、碎玉軒勝負合等を集録してある。
- 564 兵要録餘情 7卷 附録2卷 Q399-13
写
3冊 24cm 和
「森川新右衛門に命じて数巻を記さしむ。草稿の上添削して一家の軍式とす。これしかしながら、兵要録の餘情なり」とある。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 565 近松 茂矩 Q399-14
兵要録附考
写
33丁 26cm 和
長沼澹齋の門人碎玉軒佐枝政之進の兵法の説を評し、これに編者の意見を加えたものである。
- 566 兵要録不審問答 3卷 附録1卷 Q399-15
写
2冊 27cm 和
近藤長令の問に対し、碎玉軒佐枝政之進の答えたものである。
- 567 佐枝手簡 Q399-16
写
27丁 24cm 和
長沼澹齋の門、碎玉軒佐枝政之進尹重が兵法について往復した書簡である。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 568 佐枝 政之進(碎玉軒) Q399-17
陣法口占書口
写
93丁 24cm 和
題簽には「陣法口占」とある。
著者七十九才(享保十七年)で病中にありながら筆をとって、陣法の講義を書いたものである。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 569 兵書類聚 Q399-18
写
88丁 24cm 和
内容：兵要録附考
練士復古巻
銃術答問
兵要録大綱
操練詞令辨解
澹齋先生行状
澹齋長沼先生傳
澹齋先生述作書目
長沼家學兵法
野試合草教法則
義総流砲術緒言
艦法一資
- 570 教旗鼓篇三家説 Q399-19
写
34丁 26cm 和
題簽には「教旗鼓三家説」とある。
澹齋門人三人の説を記したもので、兵要録中の聞書である。
印記：遠州月岡關口氏藏

- 571 近松 茂矩 Q399-20
 衆寡戦口義
 写
 48丁 24cm 和
 題簽には「近松伝輯衆寡戦口義」とある。
 近松茂矩が、師の兵要録衆寡戦の口義を集録したものである。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 572 長沼 宗敬（澹齋） Q399-21
 握奇八陣集解
 写
 20丁 26cm 和
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 573 佐枝 政之進（碎玉軒） Q399-22
 握奇集解或問 3卷
 写
 2冊 24cm 和
 題簽には「握奇或問」とある。
 澹齋の握奇集解に、或問をつけ、遺漏を補ったものである。
- 574 四箇秘術 Q399-23
 写
 43丁 25cm 和
 題簽には「四箇秘術・握奇集解口義」とある。
 合綴：握奇八陣集解
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 575 菱田 弘毅 Q399-24
 握機經集説
 写
 24丁 26cm 和
 題簽には「握奇經集説」とある。
 握機經反正正義および、同古義などを載せてある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 576 南木拾要 2卷 Q399-25
 写
 2冊 28cm 和
 城取之卷、城攻之卷、行列之卷、軍配之卷
 そのほか十数項に分けて記した兵法書である。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 577 荻生 徂徠（茂卿） Q399-26
 鈴録 20卷（欠卷9~20）
 写
 180丁 27cm 和
 一家の兵法を説いた書
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 578 荻生 徂徠（茂卿） Q399-27
 鈴録外書 6卷
 写
 80丁 24cm 和
 軍法不審の條々を説明したものである。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 579 櫻田 廼 Q399-28
 兵法新論 卷4, 5
 写
 72丁 27cm 和
 和漢洋の法を折衷した一家の兵法論である。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 580 山縣 繁多（正矩） Q399-29
 兵略答問 3卷
 写 文久2
 44丁 27cm 和
 原本には「兵畧答問」とある。

- 581 近松 茂矩 Q399-30
 一全流鍊兵傳解 4卷
 写
 2冊 24cm 和
 近松茂矩の口占を取田寄猛（後改，正潔）が筆記し，山縣正矩が補訂したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵，不息書堂之記
- 582 往復書翰 Q399-31
 写
 42丁 27cm 和
 近松茂矩の兵法に関して，往復した書簡である。
 印記：遠州月岡關口氏蔵，不息書堂之記
- 583 家傳波多野流初段兵書 Q399-32
 4卷（欠卷3）
 写
 50丁 27cm 和
 題簽には「波多野流兵学大意之卷」とある。
 はじめに，大意を記し，後百二十箇條に分けて兵法の心得を記してある。第一，二卷末に關口九八郎への伝授與書がある。
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 584 二薮 外史 Q399-33
 摺練駁説
 写
 35丁 24cm 和
 合綴：戦法蠡測 平野功述
 銃陣詳説
 兵法駁論 長沼某述
 摺練駁説は，四谷角善演武場における某侯の操練をみて，批評したものである。
 印記：關口耕堂珍藏之記
- 585 采配書 Q399-34
 写
 56丁 27cm 和
 はじめに，采配の大要を述べ，次に定戦の卷，備の卷に分け，各項をあげて詳細に兵法の心得を記したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 586 練兵筆談 2卷（欠卷2） Q399-35
 写
 74丁 24cm 和
 題簽には「練兵筆録」とある。
 練兵に関する講義である。
 印記：遠州月岡關口氏蔵 不息書堂之記
- 587 默齋叢書 Q399-36
 写
 108丁 27cm 和
 内容：対馬藩騒動
 合武三島流舟戦要法
 振旅記
 武攻吟味集
 弓具模図
 具足着川次第
- 588 平山 子龍（潜） Q399-37
 東西問答駁説
 写
 25丁 24cm 和
 題簽には「東西問答」とある。
 大野武矩の東西問答を批評したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 589 鶴飼 平矩 Q399-38
 武備睫 2卷
 写
 99丁 23cm 和
 武士の心得を記したものである。
 卷末に「嘉永五壬子年季春成功 渡辺文庫 原本，塚原氏，森田品三郎写」と朱書がある。
 印記：渡辺文庫

- 590 夜撃朝駟之術 Q399-39
写
21丁 24cm 和
印記：遠州月岡關口氏藏
- 591 佐藤 一齋 Q399-40
孫吳副註 2卷
江戸 名山閣
2冊 26cm 和
内容：1 孫子副註
2 呉子副註
印記：遠州月岡關口氏藏
- 592 田代 政嗣 Q399-41
司馬法旁註 2卷
刊 水哉亭 文久2序
20丁 26cm 和
印記：遠州月岡關口氏藏
- 593 孫子 魏武帝註 2卷 Q399-42
江戸 出雲寺萬次郎 嘉永5
35丁 26cm 和
題簽には「官板 孫子 平津館叢書本」
とある。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 594 孫子參同 Q399-43
写
70丁 24cm 和
謀攻第3のうち巻6のみ
- 595 鴻佐 Q399-44
孫子註 14巻 (欠巻9-13)
木下守約写 明治15
5冊 26cm 和
- 596 荊川 Q399-45
武編 前6巻 後6巻
刊
12冊 28cm 和
題簽には「纂輯武編」とある。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 597 戚 繼光 Q399-46
增訂 武備新書 14巻
刊 萬曆16跋 (天正16)
2冊 26cm 和
「紀効新書」と同じである。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 598 戚 繼光 Q399-47
刪定 紀効新書 14巻 附録1巻
京都 出雲寺文二郎 弘化3
6冊 27cm 和
印記：遠州月岡關口氏藏
- 599 安原 寛 Q399-48
刪定 紀効新書撮解 12巻
京都 勝村治右衛門 嘉永7
7冊 26cm 和
戚繼光の「兵書紀効新書」を刪修して和訳
したものである。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 600 戚 繼光 Q399-49
類輯 練兵諸書 18巻
写
6冊 28cm 和
印記：遠州月岡關口氏藏

- 601 伊 于皇編 Q399—50
武書大全
 刊
 20冊 26cm 和
 明版である。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 602 呉 惟順 呉 鳴球 Q399—51
兵鏡 20卷
 写
 12冊 26cm 和
 軍制以下十三項に分けて、兵法一般を記したものである。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 603 興 居中 Q399—52
噓子十三種秘書兵衛 5卷
 写
 5冊 27cm 和
 題簽には「兵衛」とある。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 604 黄 獻臣 Q399—53
武經開宗 8卷
 刊 芙蓉館 崇徳9跋(寛永13)
 合本1冊 26cm 和
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 605 沈 應明 Q399—54
 新鐫註解**武經集註** 14卷
 刊 崇禎9跋(寛永13)
 2冊 23cm 和
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 606 陳 元素 評註 Q399—55
 標題評釋**武經七書** 7卷 附録3卷
 刊
 225丁 25cm 和
 付録：武經節要，射棍法，占驗法
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 607 臧 應驥 Q399—56
 新鐫**武經標題佐議** 7卷
 刊
 2冊 26cm 和
 表紙には「武經佐議」とある。
 七書の講義である。
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 608 **武經攷註** 8卷 附録3卷 Q399—57
 刊 長庚館
 8冊 26cm 和
 付録：戦車，古水戦，拳法捷要
 印記：遠州月岡關口氏藏
- 609 高 穎 Q399—58
武經射學正宗 3卷 荻生茂脚点
 江戸 西村源六等 安永9
 3冊 26cm 和
 表紙には「射學正宗」とある。
 印記：遠州月岡關口氏藏，植木氏印
- 610 高 穎 Q399—59
武經射學正宗指迷集 5卷
 江戸 西村源六等 天明5
 2冊 26cm 和
 題簽には「射學指迷集」とある。
 印記：遠州月岡關口氏藏

Q400

自然科学

Q448 地球

- 611 佐田 介石 Q448-1
 鑛地球説略 卷3
 刊
 31丁 24cm 和

天円地方の旧説に基き、「地球説略」を評
 駁したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q449 曆学 時法

- 612 内務省地理局 Q449-1
 三正綜覧 2卷
 東京 編所 明治13
 2冊 26cm 和
 扉には明治13年12月とある。

孝元天皇元年より明治三十六年に至る間の
 日本、支那、西洋の年代および月の大小等
 を記したものである。

Q487 脊椎動物

- 613 水産局 Q487-1
 清国水産辨解 3卷
 東京 編所 明治19
 362P 24cm

付録：日清貿易事件，漢口倉庫図

清国の河海に産する魚介苔藻の製品および
 商況を知らせるため，我国農商務省におい
 て調査したものである。

印記：農商務省蔵版

Q490 医学

- 614 白土 龍峯彝 Q490-1
 今世醫家人名録 4卷
 江戸 龍峯蔵板 文政3
 4冊 18cm 和

東西南北の四巻に分け，氏名のいろは順に
 配列し各専門を記入してある。

印記：耕堂

- 615 曲直瀬 道三（正慶） Q490-2
 雖知苦菴養生物語
 京都他 出雲寺文次郎等 天保3
 23丁 26cm 和
 題簽には「道三翁養生物語」とある。

通俗な養生法を記したものである。

616 曲直瀬 道三(正慶) Q490-3

雖知苦菴養生物語

京都他 出雲寺文次郎等 天保3

23丁 26cm 和

題簽には「道三翁養生物語」とある。

617 貝原 益軒 Q490-4

養生訓 8巻 付録1巻

大阪 藤屋九兵衛 嘉永4

4冊 22cm 和

題簽には「貝原養生訓」とある。

杉本義篤の付録を添えてある。

618 權田 直助 Q490-5

くすしの一言

江戸 著者 安政4

6丁 22cm 和

医師の訓を記してある。

619 永田 徳本 Q490-6

徳本翁遺書

写

13丁 24cm 和

内容：閑雲集

神龍方

620 [平野 元良(無適道人)] Q490-7

軍陣備要 救急摘方

江戸 和泉屋金石衛門 嘉永6

45丁 18cm 和

付録：行軍備急(浅田惟常)

題簽には「軍陣備要 救急摘方」とある。

陣中における負傷者の手当を記してある。

621 ヒュヘランド Q490-8

濟生三方 3巻 ヒュヘランド著

杉田成卿訳

刊 天真楼 嘉永2

3冊 26cm 和

ドイツ医書の蘭訳されたものより、刺絡
阿片、吐薬の三方を重訳したものである。

印記：醒心居

622 醫師秘笈 卷下 Q490-9

刊

54丁 18cm 和

清版。診断および諸病の症状、薬方を記し
てある。

印記：野間氏藏書印

Q498 衛生学

623 水野 南北 Q498-1

南北相法修身録 4巻

写

2冊 24cm 和

飲食の慎むべきことを記してある。

Q500 工 学

Q510 土 木 工 学

- 624 演説書附録土木費之件 Q510-1
写 [明治10年代]
4丁 27cm 和

山口県における、明治初年の土木事業を説明している。関口県令、転任の際の引継書であろう。
山口県の罫紙を使用してある。

Q512 測 量 学

- 625 清水流規矩術本傳繪目録 Q512-1
写
27丁 19cm 和

清水流の測量法を図解したものである。

Q517 河 川 工 学

- 626 熊 三稜 Q517-1
泰西水法 5卷
写
合本1冊 23cm 和

河江の水、泉の水、雨雪の水等、数項に分けて、これを用いる場合の揚水器、その他について図解説明している。
印記：柳城文庫 関口耕堂珍藏之記

- 627 達邑 容吉 Q517-2
粗朶工
東京 著者 明治19
50P 20cm

粗朶を使用する土木工事について記してある。

Q526 各種の建築

- 628 分國城圖 2卷 Q526-1
写
2冊 27×46cm 和

日本國內各分國の城の絵図である。

- 629 紅葉山繪圖 Q526-2
写
1枚 27×38cm

江戸城内紅葉山の絵図である。
「関口控」とある。

- 630 駿府御城繪圖 Q526-3
写 [明治21]
軸1幅 120cm

この図は、安政七年三月、駿府城在番天野大助、藤原政好がみずから向き、坪数間尺等は、その父天野大膳、藤原政豊が、御破損奉行在勤のとき調べておいたものである。

631 駿河國御城圖 Q526-4
写 明治21
軸1幅 70×53cm

安政年間駿府在番天野大助、藤原政好が写し持っていたものの、写しである。

「此図者安政年間駿府城在番天野大助 藤原政好カ所写藏ノモノナリ 明治二十一年一月写之」とある。

632 城池圖譜 Q526-5
写
15丁 24cm 和

「泰西築城書」の訳本である。
印記：遠州月岡關口氏藏

Q559 兵器 軍事工学

633 新井 白石(君美) Q559-1
本朝軍器考 8卷(欠卷1~4)
懷珠堂
60丁 26cm 和

軍器の制度を考証し、沿革、利害などを述べたものである。
印記：文經武緯

634 伊勢 貞丈(安齋) Q559-2
本朝軍器考標疑
写
74丁 26cm 和

新井白石の「本朝軍器考」について疑点を述べたものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

635 伊勢 貞丈(安齋) Q559-3
本朝軍器考標疑
山下新太郎写 文化9
68丁 27cm 和

新井白石の「本朝軍器考」について疑点を述べたものである。

印記：好古藏書

Q575 燃料 発火物

636 火攻要訣 Q575-1
写
3丁 23cm 和
題簽には「火薬製量」とある。

各種の火薬の調合法を記してある。
印記：遠州月岡關口氏藏

Q600 産 業

Q601 産業政策

637 第一回 興業意見 綱領 Q601-1
刊
25丁 27cm 和

八編に分けて興業に関する意見を記述したもので、明治十七、八年頃農商務省より発行したものであろう。

Q602 産業史 事情 物産

- 638 農商務省 Q602-1
復命書摘要
東京 編所 明治21
297P 23cm (農商工公報号外)

当時各地開催の共進会、各地の産業等を視察した復命書を集めたものである。

- 639 芝區伊豆七嶋物産會社設立大旨 Q602-2
写
6丁 27cm 和

明治十四年、七島開発のために、有志が物産會社を設立しようとしたときの、趣意書である。

- 640 伊豆七島物産會社諸願届向留記 Q602-3
写
42丁 23cm 和

明治十四～十六年の物産會社諸記録である。

Q609 度量衡

- 641 度量衡検査規則 Q609-1
〔東京〕 明治8
14丁 25cm 和

度量衡器の検査方法および、その注意などを記したものである。

Q610 農業

- 642 佐藤 信淵 Q610-1
農政本論 10卷(欠5冊) 後編1卷
序目1卷
写
5冊 26cm 和

農政に関する家学の説明。薩藩の重臣猪狩央氏のために筆記提出したものである。
印記：不息書堂之記

- 643 フレッチェル, ゴーマス・シ Q610-2
泰西農學 6卷 附録2卷 ゴーマス,
シ・フレッチェル著 緒方儀一訳
東京 須原屋茂兵衛 明治4
8冊 23cm 和

印記：鴻城学校

- 644 シーボルト, アレキサンデル Q610-3
泰西農業勸奨法 2篇
東京 大蔵省 明治9
2冊 23cm 和

ウィルヘルム・ロウゼンの農業経済書その他を抄訳したもので、農業金融その他を記してある。
印記：遠州月岡關口氏蔵 勸業課印

- 645 津田 仙 Q610-4
農業三事 2卷
東京 青山清吉 明治7
2冊 22cm 和 序敬宇

オーストリアの農学者、ホイブレングの発明による方法を説いたものである。
印記：遠州月岡關口氏蔵

- 646 スターデルマン Q610-5
普國布利特隣大王農政要略
スターデルマン著 和田維四郎訳
東京 氏家楨介 明治17, 10, 24
182P 22cm

プロシアのフリードリッヒ大王時代の農政が、当時の我国の事情と類似し、我が範となるべきものであるとの見地から、訳されたものであるという。品川弥二郎から関口隆吉への寄贈のもの。

647 静岡県 Q610-6

農事説話集

静岡 編所 明治21

284 P 20 cm

静岡県が、明治二十年農商務省の船津氏を招いて開催した講演会の要録、ならびに農業者との問答を集録してある。

648 梅原 寛重 Q610-7

勸農叢書續農家年中行事

三島 飯田市右衛門 明治19

29丁 22 cm 和

栽培、肥料、品種改良、土壤、害虫等一般について記したもので、米作に関する事項を特に詳記してある。著者は伊豆の人。

649 百姓囊 5巻 Q610-8

刊 享保6序

58丁 23 cm 和

貝原益軒の「町人囊」にまねてつくったもので、農家の修養書である。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q611 農業経済

650 大藏 永常 Q611-1

老農茶話

刊 文化1序

31丁 23 cm 和

農業に関する諸事を記述してある。批評の書入、および山岡鉄舟の書入捺印がある。

印記：報本堂松岡氏藏書記

651 織田 完之 Q611-2

勸農殖産法

東京 平山省齋 明治17

9丁 19 cm 和

農家における貯蓄の方法を説き、これを奨励したものである。

652 三河國桶橋村 農家報國法基立順序 Q611-3

写

60丁 24 cm 和

愛知県桶橋村において、古橋某の主唱の下に、永遠蓄積の結約をしたときの、規約帳簿等を詳述してある。

653 高島 千畝 Q611-4

廣田之幸

東京 池田序介 明治21

70 P 23 cm

表紙には「廣田之幸」とある。

農事は大農法により、畦畔を整齊し牛馬耕、器械耕にすべきことを論じたものである。

654 新田開發之事 Q611-5

写

6丁 24 cm 和

新田開發についての方法、注意等を記してある。

655 立川 小平 Q611-6

印幡沼開發別記

写

45丁 27 cm 和

題簽には「印幡沼開發別記」とある。

合綴：大平の船歌

國史義解大意

水揚仕法

印幡沼開發の意見書である。

- 656 下総國開墾局 Q611-7
 窮民授産開墾規則 2巻
 写 明治2
 8丁 19×13cm 和
 明治維新の改革により生じた窮民救助のため、下総國の開墾をさせようとして、明治二年開墾局が規定したものである。
- 657 佐藤 信淵 Q611-8
 内洋經緯記
 東京 有隣堂 明治13
 20丁 23cm 和
 東京灣の地勢および、その開墾の方法を記したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 658 足代 弘訓 Q611-9
 おろかおひ 3巻
 写
 3冊 27cm 和
 寛永より天明までの飢饉のこと、ならびに諸藩の仁政、逸事、逸話等を記したものである。天保六年成る。
 印記：不息書堂之記
- 659 天明飢饉江戸騒動書留 Q611-10
 写
 8丁 19cm 和
 天明七年江戸における騒動の模様を記したものである。
- 660 瀧澤 馬琴 Q611-11
 兔園集抄
 [江戸] 文政9
 41丁 24cm 和
 題籤には「丙午丁未」とある。
 兔園集抄の内、天明六丙午年、翌七丁未年の災異を記したものである。
 卷末に「文政九年丙戌春二月十七日雨窓に贍写了」とある。
- 661 淺嶽砂降記 Q611-12
 写
 47丁 24cm 和
 天明三年七月、淺間山の噴火の際の附近の状況を、詳細に記述してある。
- 662 砂降以來三年日記 Q611-13
 写 慶応3
 22丁 24cm 和
 天明三年より同五年に至る三年間、淺間山噴火について記してある。
- 663 柿崎 彌左衛門 Q611-14
 天保年中已荒子孫傳 5巻
 酒井左衛門尉写
 5冊 24cm 和
 天保四巳年より同九年に至る間の飢饉、その他のことを記し、子孫のために誠めとしたものである。
- 664 天保飢饉奥羽武蔵聞書 Q611-15
 写
 13丁 24cm 和
 天保四年凶作の際における奥羽地方の状況を記したものである。
- 665 沈雲洞主人 Q611-16
 救荒孫之杖
 笠楨(越後国) 優字館 天保8
 29丁 24cm 和(複本1冊)
 本朝飢饉のこと、飢饉前兆のこと、天保四年奥羽飢饉のこと、天保五年越後飢饉のこと、救荒食物の種類、製法等を記したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵 不息書堂之記
- 666 遠州救荒小録 Q611-17
 写
 37丁 24cm 和
 静岡県引佐郡における、天保七年および天明三年の凶荒の実状を調べたものである。

- 667 整政豊年記 2巻(欠巻2) Q611-18
刊 元文1
27丁 23cm 和
凶年における美事善行を記したものである。
印記：文經武緯 不息書堂之記
- 668 西宗庵 恕伯軒 Q611-19
天下太平豊年記
写
29丁 23cm 和
整政豊年記と同じである。
- 669 且暮庵 野巢 Q611-20
濟急記聞
江戸 一具庵 天保7
37丁 26cm 和
救荒に関する逸事逸話を集録してある。
印記：不息書堂之記
- 670 鈴木 武助 Q611-21
農喻
写
30丁 23cm 和
飢饉のことを述べ、宮崎安貞の「農業全書」
を読むべきことを奨めている。
- 671 鈴木 武助 Q611-22
農民懲誡篇
写
22丁 23cm 和
災異の状況、備荒貯蓄の必要、救荒食物の
ことなどを記してある。
- 672 武井 弥三郎 Q611-23
農家心得訓
写
33丁 24cm 和
下野の老農田村吉茂が、白鳳以来の凶作飢饉
の窮状、物価等を書き記し、子孫の誠め
のため残したものを、補ったものである。
明治十三年成る。
表紙に「田村蔵書」と墨書がある。
- 673 小田切 春江編 Q611-24
凶荒圖録
名古屋 編者 明治18
30丁 23cm 和
諸書に載せられた凶年の状況を記し、救荒
および、有毒植物の一覧を添えてある。
- 674 竹内 拙三編 Q611-25
家々要川凶歳必携
東京 編者 明治19
57P 24cm
古来飢饉の状況、救荒雑話、救荒食物等の
ことを記したものである。
- 675 上原 無休 Q611-26
五穀無盡藏 2巻
写
2冊 24cm 和
養和、寛文より享保、天明に至るまでの、
凶年の諸事を記し、あわせて備荒貯蓄、窮
民賑恤の方法等を述べてある。
- 676 建部 清庵 Q611-27
民間備荒録 2巻
江戸 須原屋茂兵衛 文政7
2冊 26cm 和
備荒の方法から、凶年救急の方法までを詳
述してある。
印記：不息書堂之記
- 677 保四羅談 Q611-28
平松正慙写 天保7
90丁 24cm 和
天保四年の凶歳における米価の騰貴、救荒
の方法、救荒食物のことなどを記してある。

678 遠藤 義齋 Q611-29
救荒便覧 4巻(欠巻1)
刊 天保7序
折本 3冊 16×7cm

凶年における政治、君臣の行動、貧富の戒
愼、気候の考察、食品の種類、調理方法を
詳記してある。

679 奥山 操 Q611-30
救荒瑣論
写 明治18
21丁 24cm 和

救荒の方法を述べ、済民政略の大意を説い
ている。

680 水戸救飢録 Q611-31
写
4丁 24cm 和

天保凶年における水戸藩の救荒を記したも
のである。
印記：不息書堂之記

681 備荒諭書 Q611-32
写
6丁 24cm 和
題簽には「水戸侯芋稗の諭達」とある。

水戸烈公が、領内の凶作を憂えて、救荒食
物のことを諭したものである。

682 長谷川 猷 Q611-33
救荒新策
写
19丁 24cm 和

天保七年の凶年に百品餅を製し、飢を救っ
た。本書はその製法を記してある。

683 弘化二乙巳三月御觸書寫 Q611-34
写
5丁 24cm 和

凶年に備えるための貯穀、救荒作物の栽培
等に関するものである。

684 齋藤 正謙 Q611-35
救荒事宜
刊 積翠館 文久1
44丁 23cm 和

飢饉の兆を早く知ること、ほかに十二項救
荒に関する諸事を記してある。
印記：兜鳥氏藏

685 齋藤 正謙 Q611-36
救荒事宜
写
45丁 24cm 和

印記：遠州月岡關口氏藏 不息書堂之記

686 山中 隣 Q611-37
救荒新書
写
30丁 27cm 和

慶応元年摂政殿下の命により、救荒書類取
調のあった際、広く救荒書を集めるために
書かれた趣意書である。
印記：静岡県農商課

687 凶荒預備設立之儀二付上申 Q611-38
写
16丁 24cm 和

備荒貯蓄の方法を建言したものである。

688 和泉 利愛 Q611-39
饑饉のころへ
写
8丁 24cm 和
題簽には「御世の恵 饑饉心得」とある。

古米凶荒のことを記し、食物の貯蔵、製法を略述してある。平田鉄胤の序文がある。表紙見返しに、「此書ハ凶饑救済方ヲ記セシモノ、愛知県ノ進達スル所ニシテ三河国渥美郡東町柴田豊水ノ蔵書ヲ、明治十八年一月廿日借写」とある。

689 鎌原 石見 Q611-40

開廠賑粥法

写

12丁 24cm 和

凶年の際、小屋を作り粥を施す方法を述べたものである。

690 貯穀一件 Q611-41

写

55丁 23cm 和

合綴：周防國吉敷郡上郷仁保津村墾田記

明治三年静岡県榛原郡における備荒貯蓄のことについてを、合綴してある。

691 福澤 憲治 Q611-42

饑年要録

刊 明治7

26丁 24cm 和

飢饉の歴史、備荒貯蓄の必要、救荒食物の製法、貯蔵法等を述べたものである。天保五年成る。

印記：不息書堂之記

692 備荒儲蓄 8巻 Q611-43

写

8冊 26cm 和

内容：1 茨城県
2 栃木県
3 三重県
4 岐阜県
5 愛知県
6 静岡県

7 神奈川県

8 東京府

明治十六年関口隆吉が元老院議員であったとき、八府県下における旧藩以来の備荒儲蓄の状況、旧藩の領地、草高等を調査したものである。

元老院、各県の罫紙を使用してある。

693 黄 輔辰 Q611-44

營田輯要 2篇

刊 同治3(元治1)

133丁 27cm 和

内外二篇に分け、營田の方法につき歴代の規画を詳論し、内篇は法および弊について述べ、外篇は制田種植等のことを記している。関口隆正の奥書がある。

印記：関口隆正 外齋

694 益知新録拔萃 Q611-45

写

59丁 27cm 和

題簽には「防荒要録」とある。

防荒に関する説を集めたものである。

巻末に「十九年新嘗節夜奉家嚴命與從弟隆安対読校過夜半卒業 隆正手記」と朱書があり、静岡県の罫紙を使用してある。

695 陸 曾禹 Q611-46

欽定康濟録 4巻 小田仲卿校

和歌山 含章堂 寛政6序

6冊 25cm 和

救饑に関する事項を記してある。

696 陸 曾禹 Q611-47

欽定康濟録 4巻

刊 浙江撫署 同治3(元治1)

3冊 24cm 和

印記：関口隆正

697 董 燭 Q611-48

救荒活民書 12卷
刊 道光16 (天保7)
3冊 24cm 和

古人の救荒に処する法、自家の救荒策、諸議論等について記してある。
関口隆正の奥書がある。

698 汪 志伊編 Q611-49

荒政輯要 9卷
刊 蘇藩署 嘉慶11 (文化3)
合本1冊 26cm 和

凶歳に処するの道を説いたものである。

699 蔣 廷臯 Q611-50

荒政便覧 2卷
刊 光緒9 (明治16)
30丁 28cm 和

荒政に処する道を説いたものである。
印記：関口隆正 外齋

700 俞 汝為 Q611-51

荒政要覽 10卷 (欠卷5~10)
刊
2冊 20cm 和

詔諭、奏議、総論、平日預備の要等を記してある。
印記：不息書堂之記

701 安 璋 Q611-52

忠州救荒切要
写
24丁 25cm 和
題簽には、「救荒切要」とある。

救荒に関する諸事を記してある。
印記：文經武緯

702 徐 光啓 Q611-53

周憲王 救荒本草 14卷
京都 柳枝軒 天正11
7冊 27cm 和

救荒植物の図譜を載せ、名称、産地、形態、食法等を記したものである。日本刊
印記：杉本文伯行簡藏

703 救荒野譜 2卷 Q611-54

刊 正徳5序
73丁 27cm 和
内容：上 救荒野譜 (王磐)
下 救荒野譜補遺 (姚可成)

救荒植物の名称、産地、形状、用法等を記した図譜である。

704 救荒野譜 2卷 Q611-55

刊 正徳5序
73丁 27cm 和
内容：上 救荒野譜 (王磐)
下 救荒野譜補遺 (姚可成)

印記：不息書堂之記

705 上杉 治憲 Q611-56

○ かねて物書
佐藤祐之写 天保4
20丁 24cm 和

救饑の食料に供することのできる草木を、いろは順に列挙し、その良否、製法等を記したもの。また味噌の製法、魚鳥獣肉の乾製法も説明してある。

706 館 柳潜 Q611-57

荒年充糧志
刊 賞雨苑屋 天保4跋
12丁 18cm 和
内題には「山村充糧志」とある。

とちの実、ならの実、くずの根、わらびの根等の食法を説いたものである。
印記：不息書堂之記 目白小園

- 707 〔佐伯 義門〕 Q611-58
救饑提要
 刊 博古堂 嘉永3跋
 5丁 23cm 和 (複本1冊)
 救荒食物の製法、用法を詳説したものである。
 印記：遠州月岡關口氏蔵
- 708 羽田野 榮木 (敏雄) Q611-59
ききんのこころえ
 写
 28丁 24cm 和
 中山彌助の著した「飢饉食物大略」に、自己の見聞を加えたものである。
- 709 阪本 慎 Q611-60
救荒便覧 2巻
 写
 68丁 24cm 和
 付録：野譜便覧
 題簽には、「救荒本草便覧」とある。
 「救荒本草」および「救荒野譜」に載せる草木を挙げ、和名、形状、産地等を記したものである。享和元年成る。
- 710 建齋 Q611-61
救饑録
 写
 21丁 19cm 和
 「大和本草」「備荒録」を抄出したもので、救荒の食とすることのできる草木類を挙げ、その食法を説明し、最後に凶譜を添えてある。水戸建齋主人とある。
- 711 半井 宗玄 Q611-62
忘飢草
 写
 35丁 24cm 和
 凶年における衛生、救荒食物等のことを記してある。
 印記：太政官記録印
- 712 經濟おしへ草 Q611-63
 写
 27丁 23cm 和
 救荒食物の種類用法を記してある。天保四年、高井蘭山の序がある
- 713 京都府勸業課 Q611-64
救荒并有毒植物集説
 京都 編所 明治18
 36丁 23cm 和
 明治十八年春以来気候不順で、凶作の憂があったので、東京大学教授伊藤圭介の研究に成る本書を出版して、その準備とした。いろは順に配列し、異名、産地、形状等を詳説してある。
- 714 齋藤 正謙 Q611-65
三倉私議
 柴田慎言写 安政5
 25丁 24cm 和
 付録：社倉勸諭
 常平倉、社倉、義倉のことを記してある。天保八年成る。
 付録巻末に「此一巻者羽田野常陸子所蔵せるを偶に借得て見善勝に課せて写させ置ぬ。安政五戊午年仲冬 柴田慎言」とあり、また「私儀勸諭ハ別巻ナレドモ散失ナキ為ニ合冊トセシ也」と朱書がある。
- 715 社倉議草 Q611-66
 写
 19丁 24cm 和
 標題は社倉仕法取調書付
 付録：社倉大意
- 716 社倉勸諭 Q611-67
 写
 8丁 24cm 和
 社倉の救飢に必要なことから、貯蓄の大切なことなどを論述してある。

717 社倉法割合 Q611-68
雨森正煥写 文化14
6丁 24cm 和

社倉の趣意，利益，計算等を記したものである。

718 社倉夢由來書 Q611-69
写
28丁 24cm 和

719 明治二年己ノ秋 舊和歌山藩 社倉趣意 Q611-70
写
37丁 24cm 和

現三重県北牟婁郡における，社倉設置の趣意，規則等を記してある。

720 中井 積善 Q611-71
社倉私議
刊
24丁 26cm 和

社倉創設に関する建議書で，宋の朱子の法にならって藩主に勧告したものである。安永三年成る。拙修齋叢書のうち。

Q612 農業史 事情

721 船橋 愨信(隨菴) Q612-1
古今田制通考 10卷
写
10冊 23cm 和

田制，度量衡等の沿革を説き，各方面にわたり詳細な考証をつけてある。明治初年に成ったものである。

722 船橋 愨信(隨菴) Q612-2
田法獨合點 12卷
写 [安政3]
12冊 27cm 和

古今田制通考に重きなる部分あり。

723 船橋 愨信(隨菴) Q612-3
田法獨合點 12卷
写
12冊 27cm 和

724 横山 山清 Q612-4
舊典類纂 田制篇 10卷 附録1卷
東京 有隣堂 明治16
11冊 26cm 和

上古より近世までの田制を集録してある。

725 種粳作付飯元米處分方法 Q612-5
諮問會議日誌
写 明15
35丁 24cm 和

山口県において，旧藩時代に貸付けた種粳作付飯米の処分方法を総代会に諮問したときの議事録である。山口県の罫紙を使用してある。

Q613 農業理化学

726 耕作豊凶試拔書 Q613-1
写
41丁 24cm 和

豊凶の前兆および天明元年より文化五年まで毎年重要な日の天気を記してある。

727 佐藤 信季 Q613-2
培養秘録 5巻 補遺2巻
写
7冊 27cm 和

著者が野州足尾の旅館で病んだ時、子の信淵に口授した草木培養方の秘訣である。

728 静岡縣編 Q613-3
焼土肥料興農要録
東京 香取閣平 明治18
58丁 23cm 和

三河国豪農大垣津音藏の発明した焼土肥料の方法、各種作物の栽培法を記したものである。

729 フェスカー、マックス Q613-4
肥培論 マックス、フェスカー著
渡部朔訳
寒川村(千葉県) 房総会 明治20
37P 21cm

著者は、農商務省御雇として、我国に滞在した人で、その講演の訳書である。

Q614 農業工学

730 佐藤 信有 Q614-1
隄防溝洫志 4巻
写
4冊 27cm 和

洪水の難のある土地を視察し、川普請の善悪を批評しかつ、意見を加えて堤防の造り方を述べたものである。

Q615 作物栽培 病虫害

731 佐藤 信淵 Q615-1
草木六部耕種法 20巻 序目1巻
写
13冊 26cm 和

草木の根、幹、皮、葉、花、実の六部について、その需用、栽培播種の方法を論じたものである。

732 梅原 寛重 Q615-2
勸農叢書 田圃驅蟲實驗録
東京 有隣堂 明治19
18丁 22cm 和

害虫駆除の方法を記したものである。

Q616 食用作物

733 高野 長英 Q616-1
二物考
太観堂 天保7
20丁 23cm 和
序文には「救荒二物考」、卷末には「勸農備荒二物考」とある。

早熟蕎麥と馬れい薯の性質、効用等を論じ、栽培、貯蔵、食用の方法等を説く。

印記：報本堂松岡氏蔵書記 養間齋蔵書記
不息書堂之記 井戸文庫

734 大藏 永常 Q616-2
農家心得草
写
33丁 24cm 和

麦の栽培、社会のこと、および有毒植物の図説を載せてある。

735 貯粟法 Q616-3
写
25丁 27cm 和

貯穀の方法について往復した書類である。静岡県の罫紙を使用してある。
印記：静岡県農商課

736 酒匂 常明 Q616-4
改良 日本米作法
東京 薬品槍太郎 明治20
186P 19cm

Q617 工芸作物

737 増田 充績 Q617-1
製茶新説 2巻 小林長樹補訂
三省書屋 明治6
44丁 23cm 和

実地の経験による茶の栽培と、製造の方法
とを記したものである。
印記：遠州月岡關口氏蔵

738 上林 熊次郎・江口 高廉 Q617-2
茶業必要 2巻
著者 明治10
2冊 23cm 和

茶の栽培、製法等を記したものである。

739 胡 秉樞 Q617-3
茶務彙載
東京 内務省勸農局蔵版 明治10
59丁 23cm 和

著者は、我国に改良製茶の法を伝えた人で、
本書は、その方法を記したものである。
印記：遠州月岡關口氏蔵

740 酒井 甚四郎 Q617-4
茶業須要
〔静岡〕 太田栄彦 明治18
54P 19cm

茶の栽培、製茶の方法を記したものである。

741 静岡縣 Q617-5
茶業改良法
静岡 編所 明治21
107P 20cm

多田農務局技手の講話を速記したもので、
静岡茶の既往、現在、将来について栽培、
製茶の方法を記したものである。

742 榎實油製造方願書 Q617-6
写
3丁 23cm 和
題簽には、「榎實油製法方願書」
とある。

明治二年八月犬榎の実での製油方許可を願
出たものである。

743 木之実御取締筋取扱方願書 Q617-7
写
6丁 23cm 和
題簽には「榎之實に就き取締方願書」
とある。

油製造のため駿遠三三国における犬榎の実
の取集め、運搬等に関し、取締方を願出た
ものである。

印記：遠州月岡關口氏蔵

Q625 果樹園芸

744 西洋菓樹栽培法 Q625-1
開拓使 明治6
33丁 24cm 和

開拓使の蔵版、桜、梨、りんご、すもも、
あんず等の西洋種果樹の形状、用途を説き
栽培用具を図解し、栽培法を記したもので
ある。

印記：遠州月岡關口氏蔵

745 藤井 徹 Q625-2

菓木栽培法 4巻
東京 著者 明治9
4冊 23cm 和

果樹の栽培、製造、貯蔵等に至るまで、詳細に著者の研究その他を参酌して記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

746 椽谷 喜三郎編 Q625-3

葡萄効用論
名古屋 伊東昌見 明治17
15丁 22cm 和

ぶどうの栽培を盛んにし、ぶどう酒を製造して日本酒に代え、米穀の消費を少くしようという論である。

Q 626 蔬菜園芸

747 あした草集説 Q626-1

写
8丁 27cm 和

諸書を引用して八丈島原産あした草のことを述べたもので、本草綱目啓蒙の一部である。

Q 630 蚕糸業

748 日本生糸説 平山成一郎訳 Q630-1

刊 澳国博覧会事務局
54丁 21cm 和

内容：〔ハイメンターへ〕日本生糸ノ説
ツツピンゲル氏 日本生糸ノ評論
バビエー氏日本生糸織物鑒定書
以太利国パトワ養蚕実験規則
横浜刊行佛新聞レコジュ、ジアッポ
ン号摘訳

Q 633 栽 桑

749 穂積 均京 Q633-1

育桑小話
写
31丁 26cm 和

桑の栽培について記したもので、織田完之自筆の序がある。

印記：報本堂松岡氏藏書記

Q 635 育 蚕

750 岡部 竹次郎 Q635-1

実験新説 蠶桑秘録
気賀村 著者 明治19
38P 19cm

養蚕の方法を記したものである。

751 静岡縣 Q635-2

養蠶改良法
静岡 編所 明治21
44P 20cm

静岡縣が、佐々木長淳を招いて開催した蚕糸業改良講演会の速記録である。

Q 645 家 畜

752 龍山堂主人 Q645-1

厩馬新論
擇善居 嘉永7
38丁 26cm 和

馬の飼養、療病、厩舎、騎術等を記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏 不息書堂之記

Q 647 養 蜂

- 753 花 媒 2巻(欠巻2) Q647-1
写 文化2
103丁 23cm 和
題簽には「九笈雜記」とある。
続篇標題には「花のなかたち」とある。
蜜蜂に関する諸説を雜記したものである。
印記：新宮城書藏

Q 648 畜産製造

- 754 [森田 龍之助] Q648-1
鹽豚製造法
千葉 千葉県臘乾製造所 明治19
25P 20cm

Q 650 林 業

- 755 澳國山林法律 Q650-1
東京 續文社
58丁 21cm 和
題簽には「山林法律」とある。
合綴：マルハット氏山林制度論
山林經濟論

「澳國博覽會事務局」の罫紙を使用。

Q 651 森林經濟 經營

- 756 静岡山林事務所狀況 2巻 Q651-1
写 [明治16]
2冊 27cm 和

明治十六年関口元老院議官巡察の際、調査のもので、駿遠豆三国の官林に関する各種の記録を集めてある。太政官・農商務省静岡山林事務所・農商務省出張所等の罫紙を使用してある。

- 757 官林中 樺樹植込立木御拂下願 写 Q651-2
3丁 27cm 和

駿河司志太郡相賀村の官林へ、樺樹を植込み、栓木を製造しようとして、願出したものである。

Q 658 林産製造

- 758 アベマキ栓木製造解説書 Q658-1
写 [明治16]
5丁 27cm 和

明治十六年駿河国益津郡田中三番町(現藤枝市)今井通時より、その經營する、アベマキ樹皮栓木製造の状況を、関口元老院議官に上申したものである。

Q 661 水産經濟 經營

- 759 佐藤 信季 Q661-1
漁村維持法 2巻 佐藤信洸校
刊 明治9
2冊 23cm 和

漁村の状態を論じ、不漁の際に備えるの道を説いたものである。

印記：遠州月岡關口氏藏 不息書堂之記

Q 670 商 業

760 元和年間帳簿 Q670-1

写

4冊(箱入) 18×47cm 和

駿府茶商店の大福帳の残簡である。

Q 682 交通史 事情

761 澳國水陸通路記事 Q682-1

東京 續文社

77丁 21cm 和

付：佛国道路記事(34丁)

鐵道説(16丁)

オーストリア、フランス、ベルギーなどの交通を記したものである。

762 船橋 愨信(隨菴) Q682-2

宿驛人馬助合考

写

16丁 23cm 和

付録：明治維新當初における助郷廢止

論(大山敷太郎) (『經濟研究』

35号抜刷)

駅馬、伝馬、助郷の沿革を述べ、助郷制度の人民に及ぼす迷惑の大であることを説きその廢止を論じたのである。船橋愨信の書中には、隨庵、隨足庵などに見える。

印記：關口耕堂珍藏之記

763 船橋 愨信(隨菴) Q682-3

宿驛人馬助合考

写

16丁 23cm 和

題簽には、「宿驛人馬助合考、耕堂叢書之内」とある。

印記：關口耕堂珍藏之記

764 宿方御觸流留書 Q682-4

写

61丁 23cm 和

正徳より天保に至る、宿方御觸流を集めたものである。

Q 683 海 運

765 新井 白石(君美) Q683-1

奥羽海運記

写

20丁 27cm 和

奥羽二州より、江戸に至る海運のことを論述したものである。

766 前島 密 Q683-2

東海道中舟路之概略

写 [著者自筆] [明治2]

16丁 24cm 和

付録：前島密男爵の東海道交通計畫書

(関口泰)

表紙に「前島氏自筆。上書六字ハ先考ノ筆カ明治二年前嶋氏中泉奉行タリシ頃ノ計畫カ新村日記」と朱書がある。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q 700 芸 術

Q 721 日 本 画

767 清宮 秀堅 Q721-1

雲烟略傳 2卷

東京 玉山堂 明治7

2冊 23cm 和

巻頭、目次には「雲烟所見略傳」とある。

池野霞樵以下、十六人の画家の伝記を記し、諸家の略評を載せてある。耕堂関口正の書入れあり。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q 728 書 道

768 千坂手抄 Q728-1

写

60丁 24cm 和

題簽には、「千坂先生記録之抄、日本筆法 名家 書家世傳」とある。

前半は諸書よりの雑抄、後半は本邦書家の略伝を載せてある。

769 埜 忠實編 Q728-2

古筆名葉集 2卷

刊 安政5序

88丁 16×8cm 和

題簽「新撰古筆名葉集」

見出「増補古筆名葉集」

有名な古筆の名称、筆者を記してある。

770 鳳文館編 Q728-3

鳳文龍彩帖

東京 鳳文館 明治18

57丁 24cm 和

佩文韻府の刻が完成したことについて、これを祝い、諸家の寄せた詩文を集め、銅版にして出版したものである。

Q 756 金 工 芸

771 野田 敬明 Q756-1

江都 金工名譜

江戸 野田四良兵衛板 文化7

折本 18×7cm 和

日貫、鑄等装銀具を彫工する金工の系譜である。

772 近藤 守重 (正齋) Q756-2

劍文考

写

28丁 24cm 和

刀劔に関する名称の考証である。巻末に「文政十一戊子年三月十一日、越智直澄」とある。

773 刀槍圖 Q756-3

写

図3枚, 100×16cm

内容：本多忠勝公蜻蛉斬鎧

三條小鍛冶宗近の刀 菊一文字

774 古器便覧 Q756-4

写

19丁 図 27cm 和

古将の武器, その他各種の図説である。

775 五味 貞之 Q756-5

兵械考證 5巻

小笠原政安写 文化9

2冊 24cm 和

五味貞之の説を基とし, 他の諸家の説を参考として, 武器その他の考証をしたものである。巻末に「于時文化九年申三月五日中井尚明写右ノ写又々借り而同年六月十二日小笠原源政安写之」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

776 甲冑威之注文 Q756-6

近松茂矩写

49丁 24cm 和

合綴：甲冑難問答書, 金革問答

題簽には「甲冑注文, 同難問」とある。

「甲冑威之注文」は, 甲冑製作についての佐枝政之進の説, 「甲冑難問答書」は, 甲冑に関し, 田島政純の問に近松行茂の答えたものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

777 伊勢 貞丈 (安齋) Q756-7

鎧色談

藤原俄安写 天明6

40丁 24cm 和

付：古鎧色目

古鎧色目の中より, 平義器談に漏れた威色の名を選んで, 考証したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏 不息書堂之記

778 頬當圖鑑 Q756-8

藤林郁太郎等写 文化6

22丁 28cm 和

巻末に「此頬當図鑑者雖秘明珍家因懇望被為伝授猥不可有他見者也 津軽藩臣明珍信八郎紀宗之所藏」 「若狭公子右左起居之臣藤林郁太郎, 藤原朝臣誠敬文化己巳歳九月日写畢」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏 塾龍洞

779 器械制 Q756-9

写

36丁 24cm 和

武器についての注意を記したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

780 伊勢 貞丈 (安齋) Q756-10

器械制標疑

写

42丁 25cm 和

標題には「製」の文字を使用

「器械制」を批評したものである。巻末に

「右一卷摺備齋翁所見示之原本是正ス 安政丁政丁巳閏五月 守拙」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

781 練心膽器械制口義 2巻 Q756-11

写

2冊 24cm 和

題簽には, 「器械制口義」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q 787 釣魚 遊獵

- 782 太田 教品 Q787-1
草教制 近松茂矩校
写
38丁 24cm 和

狩獵の方法、用語等を詳細に説明したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 783 水府追鳥狩記 Q787-2
写
17丁 28cm 和

天保十一年三月、追鳥狩のことを記したものである。

印記：培達堂 菅譜藏印
遠州月岡關口氏藏

Q 789 武 道

- 784 上村 真由美 Q789-1
弓材考

写 安政2

9丁 25cm 和

「弓材六種考」と同書

卷末に「安政二乙卯年二月写之」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 785 上村 真由美 Q789-2
弓材六種考
写 安政2
8丁 24cm 和

「弓材考」と同書である。卷末に「安政二乙卯年二月写之」とある。

- 786 弓禮秘傳拔書 下 Q789-3
写

25丁 24cm 和

表紙には、「弓禮秘傳書」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

- 787 日置流射的書 Q789-4
稻生荒太郎写 天保3
18丁 24cm 和

卷末に「天保三壬辰年三月吉祥日稻生虎太郎藤原正規慎写」とある。

- 788 伊勢 貞丈（安齋） Q789-5
箴之書
関口千三郎写 文久3
19丁 26cm 和

箴の詳解図説である。

印記：遠州月岡關口氏藏 不息書堂之記

- 789 伊勢 貞丈（安齋） Q789-6
犬追物圖説 2卷
写 安永5
2冊 24cm 和

犬追物に関する故実、法式を詳解図説したものである。

印記：遠州月岡關口氏藏 石田

- 790 弓馬之故實 3卷 Q789-7
小笠原政安写 文化11
79丁 24cm 和
表紙には「弓馬故実」とある。

卷末に「文化十一年戌十一月中旬、小笠原政安誌之」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

791 弓馬之日記 Q789-8

小笠原政安写 文化11
93丁 25cm 和

卷末に「文化十一年戊三月十二日 小笠原源
政安誌之」とある。

印記：遠州月岡關口氏藏

792 上田 平藏 Q789-9

軍馬秘要 6卷
赤城病叟写
2冊 24cm 和

諸流の秘密をとり、自家のくふうを加えて
つくった馬術の書である。

印記：遠州月岡關口氏藏

793 當流馬書 Q789-10

写
28丁 25cm 和

高麗流の書で、伊勢貞丈の奥書本の写であ
る。

印記：關口耕堂珍藏之記 培達堂
菅譜藏印

Q800 語 学

Q813 辞 書

794 梅 鼎祚 Q813-1

字彙 14卷 補遺1卷
大阪 芳野屋五兵衛〔寛政年間〕
15冊 28cm 和

字画索引による漢字辞書である。簡室によ
る増註・補遺

Q900 文 学

Q910 日本文学

795 伊勢 貞丈(安齋) Q910-1

安齋小説 10卷
写
10冊 27cm 和

文学、故実等について、解説し答問したも
のを集録してある。

印記：遠州月岡關口氏藏

Q911 詩 歌

- 796 殿中良夜詩歌 Q911-1
写
67丁 24cm 和

寛政三年中秋殿中応教詩歌，松平越中守諭告，植崎九八郎意見封事十六ヶ条等を集録してある。

印記：湯岱文庫

- 797 近世八家講集卷上抄 Q911-2
写
12丁 24cm 和

下河辺長流，僧契沖の歌を記してある。

- 798 似雲 Q911-3
武者小路長學院殿口義
伊藤幸佐写 寛政6
68丁 24cm 和

歌人武者小路実陰の歌道に関する話を似雲法師の筆記したものである。

- 799 一もとれ日記 釈法輪撰編 Q911-4
江戸 辻村五兵衛 享保21
13丁 22cm 和
題簽「飛とも登乃日記」とある。

二十一代集中より武蔵野近辺に関する和歌を集録したものである。

印記：勝野家蔵

- 800 歌譜百人選 石雲居 海寿撰編 Q911-5
写 (天保12)
80丁 25cm 和

徳川吉宗以下，百人の和歌俳諧を集め，作者の小伝，作品の評釈を記したものである。巻末に「天保十二辛丑年閏正月写之一陽齋主人かねこ」とある。

印記：湯岱文庫

- 801 近藤 守重 (正齋) Q911-6
富士酒烟 2巻
写
2冊 26cm 和
下巻の題簽には「富士乃煙」とある。

徳川家康より，家宣までの詠歌を集めたものである。

印記：瀬邊茂信

- 802 正 徹 Q911-7
正徹物語 2巻
江戸 須原屋茂兵衛等 天保15
2冊 22cm 和

著者の歌学に関する物語で，自詠の歌，古歌，歌詞の注釈，歌論等を掲げてある。

- 803 得岱叢書 Q911-8
写
69丁 24cm 和

俳諧に関する諸書を集めてある。

- 804 百華庵主人 Q911-9
峽猿抄
納采写 文化3
12丁 23cm 和

宇多法皇，醍醐天皇大井川行幸の時の歌，行幸の年月に対する考証を記してある。

- 805 隨筆 Q911-10
写
47丁 23cm 和
- 806 藤原 惺窩(肅) Q911-11
惺窩先生倭調集 5卷 続1卷
刊 文化2跋
108丁 27cm 和
序文は享保14年

藤原惺窩の和歌を集めたものである。
印記：遠州月岡關口氏藏
- 807 足利 義尚編 Q911-12
新百人一首
写
12丁 24cm 和

小倉百人一首にならって選んだものである。
- 808 菅原 道眞 Q911-13
菅公百首
写
6丁 24cm 和

菅原道眞の詠んだ歌百首を集めたものである。
- 811 鈴木 正三 Q913-3
新板系人因果物語 3卷
刊
66丁 26cm 和

例をあげ、因果の理の免るべからざること
を説いた仮名草紙である。
- 812 橘 成季 Q913-4
古今著聞集抜書
写
27丁 23cm 和
内容：文学ノ部
和歌ノ部

橘成季の古今著聞集を抄録したものである。
卷末に「元祿三庚午年正月書抜」とある。
- 813 太平記 Q913-5
写
29丁 23cm 和

太平記の抜書である。

Q914 隨筆 小品

- Q913 小説 物語
- 809 太平記の詩歌連 Q913-1
写
8丁 26cm 和

太平記の中の詩歌を抜書したものである。
湯岱文庫用箋
- 810 平家物語詩歌撮鈔 Q913-2
写
11丁 26cm 和

平家物語の中より詩歌を抄録したものである。
- 814 橘 南谿(春暉) Q914-1
北窓瑣談
写
23丁 23cm 和

著者の隨筆である。本書は完本ではなく
所々を抄録したものである。他に骨董集
などの抜すいを附す。
印記：湯岱文庫
- 815 山崎 美成 Q914-2
海録 2卷 新編1卷 後編1卷
写
4冊 25cm 和

隨筆である。中に著者の自筆本がある。

816 太田 南畝編 Q914-3

南 畝 叢書 前集 3 卷

江戸小西堂 寛政 1

4 冊 24 cm 和

内容：第 1 冊 卷 1 柳巷談苑

柳原玄輔著

第 2・第 3 冊 卷 2 東海談上・下

篠崎維章著

第 4 冊 卷 3 中江藤樹年譜

817 新井 白石（君美） Q914-4

折たく柴の記 3 卷

写

3 冊 22 cm 和

自家の経歴雜感等を記した和文の自叙伝である。

Q915 日記 紀行

818 瀧澤 馬琴 Q915-1

壬戌 羈旅漫録 3 卷

東京 畏三堂 明治 18

3 冊 23 cm 和

題簽には、「羈旅漫録」とある。

著者が享和二年五月江戸を発し、東海道を上って京都より大阪に至り、帰途伊勢参宮をして江戸に帰った途中の記録である。巻末に関口隆正の奥書がある。

819 竹添 進一郎 Q915-2

棧雲峽雨日記 上卷、棧雲峽詩草

東京 奎文堂蔵 明治 12

2 冊 22 cm 和

支那紀行およびその詩文集である。

印記：遠州月岡関口氏蔵

Q917 諷刺 滑稽

820 周 滑平 Q917-1

妙々奇談 下卷

写

31 丁 18 cm 和

画家、書家、漢学者、詩人等を題材としてこれを批評した滑稽本である。

印記：伊藤実蔵書印 耕堂

Q919 日本漢詩文

821 笹 成實 Q919-1

菅神頌徳詩

江戸 此君亭蔵板 天保 3

22 丁 22 cm 和

諸家の菅神頌徳の詩を集めたものである。

印記：伊藤氏図書

822 村松 良爾 Q919-2

晩村遺稿 下 戸塚正廣 小川清齋校

静岡 廣瀬市蔵 明治 21

42 丁 22 cm 和

晩村は静岡の人、文政十年に生まれた。医を業とし著述数種がある。

823 関口 隆正 Q919-3

砲槍餘響

岳南書窟蔵 明治 28

31 丁 16 cm 和

日清戦役従軍中の詩を集めてある。

- 824 野村 文夫 (雨莊) 眞木 痴囊 Q919-4
遊毛百詩
東京 団々社 明治21
32丁 18cm 和

明治二十一年著者が、上毛地方に遊んだ時の詩である。

- 825 清宮 秀堅 Q919-5
北總詩誌
東京 玉山堂 明治10
33丁 23cm 和

一名「繹総余事」とある。
印記：郵田庶窩図書之記

Q920 中国文学

- 826 李 圭 Q920-1
思痛記
刊 光緒6 (明治13)
22丁 26cm 和

咸豐年間乱にあつて、逃れたときの思い出を記したものである。

- 827 村瀬 誨輔編 Q920-2
方正學文粹 卷3
刊
34丁 22cm 和

印記：遠州月岡關口氏藏

Q921 詩 文

- 828 觀海贈言 Q921-1
刊 光緒13 (明治20)
8丁 18cm 和

傅懋元の日本およびアメリカに赴くのを送った詩文である。巻末に「留久能山」と墨書がある。

- 829 傅 懋元 Q921-2
暮喜廬詩乘(稿)初集
刊 光緒13 (明治20)
19丁 18cm 和

著者の詩集である。巻末に「留久能山」と墨書がある。

- 830 孫 呂吉 Q921-3
千字文註
京都 天王寺屋市郎兵衛
36丁 26cm 和
題簽には「千字文集註」とある。

日本の刊本である。
印記：耕堂

Q923 小 説

- 831 鍾旭全傳 安正堂補 Q923-1
書林劉雙松梓行
80丁 25cm 和
表題には「全像唐鍾道 出身祛妖傳」とある。

支那小説である。明版
印記：關口耕堂珍藏之記 高平隆長
西尾文庫

Q928 全集 選集

832 李 忠定

Q928 - 1

宋李忠定公全集 序 目録 2 卷

首卷 4 卷 奏議選 15 卷 文集選 29 卷

(欠卷 11 . 12)

尾張 明倫堂 寛政 12

24 冊 28 cm 和

内容：第 1 冊 序 目録

第 2 冊～第 3 冊 首卷 1～4

第 4 冊～第 11 冊 奏議選卷 1～15

第 12 冊～第 25 冊 文集選卷 1～29

(欠第 17 冊)

木活字版である。

印記：遠州月岡關口氏藏 不息書堂之記

凡 例

- 1 この索引は、この目録に収録した資料の書名を、冠称を省いた書名の五十音順に、排列したものである。
- 2 この書名索引は、原則として書名の冠称、副書名を省略して記載したが、冠称、副書名等、必要であると思われるものは、冠称を書名のつぎに()に入れて記載し、副書名は書名のつぎに一〇〇〇のように記載した。
- 3 「合綴書」「附録」等は、その個々について書名分出をし、その個々の「総合書名」を、分出した書名のつぎに()に入れて記載した。
- 4 排列したものについては、書名の後に、本文中の資料番号をつけて、索引の使に供した。

【あ】

青標紙	499
握機經集説	575
握奇集解或問	573
握奇八陣集解	572
握奇八陣集解(四箇秘術に合綴)	574
赤穂義士手簡	217
赤穂義人纂書	215
赤穂雜記	213
赤穂實記	211
淺嶽砂降記	661
淺野内匠頭様御泊御宿割帳	209
淺間記(童喚舊語鈔のうち)	517
足利學校事蹟考	520
あした草集説	747
飛鳥川(落照露言抄に合綴)	223
アベマキ 桧木製造解説書	758
雨夜燈	262
アルチェル氏博物館ノ説	51
安齋小説	795
安齋叢書	52
安齋漫筆	301
安民壁書(新吉原由緒書に合綴)	257

【い】

飯倉敵討の事(新吉原由緒書に合綴)	257
井伊家覺書	365
井伊家傳記	364
井伊家略御年譜	363
井伊氏系圖	362
家忠日記増補	164
家齊公薨去之事	385
家康公御幼少物語	379
醫家人名録(今世)	614

伊賀者烈士由緒之覺	224
育桑小話	749
石井復讐記	261
醫師秘笈	622
伊豆七島全圖(増訂)	443
伊井七島物産會社諸願届向留記	640
伊豆風俗志	523
伊勢國一志郡多氣谷之圖	451
市尹書留	504
一全流鍊兵傳解	581
一即五成十化更始一	95
乙丑新聞志	189
犬追物圖説	789
夷匪犯境聞見録	305
入墨形御構場所附	505
因果物語(新板系入)	811
印幡沼開發別記	655

【う】

宇多々寝の目覺し(海防之儀論に合綴)	204
乳母局寺極樂寺御由緒之事	132
浦和及所澤近傍	431
雲烟略傳	767
雲上示正鑑(懷玉)	369

【え】

營田輯要	693
易經本義	70
益知新録拔萃	694
蝦夷志	408
江戸室鑰秘鑑	196
江戸切圖	440
江戸古繪圖(再刻)	432
江戸圖(延寶)	433
江戸圖(元禄)	434
江戸圖(正徳)	435
江戸圖(享保)	436

江戸圖(寶曆)	437
江戸砂子温故名跡志(續)	524
箴之書	788
沿海記事	203
鹽山和混合水集	101F
遠州救荒小録	666
遠駿豆輿地精細圖解	446
延文略年表	150
延命十句観音経靈驗記	106

【お】

奥羽海運記	765
奥羽武藏聞書(天保飢饉)	664
櫻花餘薫	246
押字考	153
御移替並將軍宣下	226
往復書翰	582
大坂大塩一件	243
大阪近傍圖	453
御書付類	231
岡崎物語	380
小笠原鳴要覽	413
翁物語	25
澳國山林法律	755
澳國水陸通路記事	761
落穂集	194
御觸書珉(弘化二乙己年三月)	683
折たく柴の記	817
おろかおひ	658
温知政要	474
温知政要	475
女教訓	77
御祭系譜	349
恩餘雜記	40

【か】

嶮谷叢説	44
回顧録	396
開廠賑粥法	689
會所取調方二付會所役人共差出候書付	276
開拓使事業報告	489
外蕃通略	155
海防臆測	534
海防之儀論	204
海防備論	532
海防明誨論	220
海防問答	529
海防問答	530
海防問答	531
海防論	533
會餘録	394
海録	815
嘉永戊記	185
嘉永二年五月海防之儀奉申上候(時弊論に合綴)	235
歌譜百人選	800
鑑草(福鎌堂叢書のうち)	159
火器隊之事	550
岳飛本傳	372
鹿兒島外史(校正)	293
鹿兒島戦争記事	207
甲子新聞志	188
甲冑之注文	776
甲冑難問答書(甲冑威之注文に合綴)	776
かて物書	705
家傳波多野流初段兵書	583
香取新誌	94
花媒	753
貨幣條例一新貨條例改正	512
火砲要録	540
火砲要録	541
菓木栽培法	745
鎌倉史	165

神風小名寄	421
神路の山鳥	422
榎實油製造方願書	742
嘉陵腹議	160
寛永舊儀	264
寛永小説	337
元延日記書抜	179
觀海贈言	828
菅公百首	808
菅神頌德詩	821
寛政御鹿狩記(福鎌堂叢書のうち)	159
菅像辨	373
關東輿圖	429
勸農殖産法	651
艦法一貫	551
寛明日記抄書	180
官林中櫟樹植立立木御拂下願	757
官祿規則	487

【き】

器械制	779
器械制標疑	780
きき書	39
規矩術本傳繪目錄(清水流)	625
饑饉のころへ	688
ききんのころえ	708
紀効新書(刪定)	598
紀効新書撮解(刪定)	599
豈好辯	62
義士觀跡志	214
義士の文	216
擬対論(時幣論に合綴)	235
北野大茶湯之事	34
己丑漫録	181
饑年要録	691
木の實御取締筋取扱方願書	743
岐阜縣笠松郡代所演説書	296
岐阜縣高山町ヨリ關口議官へ差出シタル書 類	495

救餓録	710
救饑提要	707
救急摘方(軍陣備要)	620
救荒活民書	697
救荒瓊論	679
救荒事宜	684
救荒事宜	685
救荒新策	682
救荒新書	686
救荒并有毒植物集説	713
救荒便覽	678
救荒便覽	709
救荒本草(周憲王)	702
救荒孫之杖	665
救荒野譜	703
救荒野譜	704
弓材考	784
弓材六種考	785
九州地方実況	483
舊諸藩貸上金凡調	280
旧跡志	411
鳩巢語類	58
鳩巢小説	338
廐馬新論	752
弓馬之故實	790
弓馬之日記	791
休明光記	407
窮民授産開墾規則	656
弓禮秘傳拔書	786
舊和歌山藩社倉趣意(明治二年己ノ秋)	719
峽猿抄	804
教旗鼓篇三家説	570
恐惶神論	259
凶荒圖録	673
凶荒預備設立之儀ニ付上申	687
凶歳必携(家々要用)	674
京都御役鑑	331
享和武鑑(新板改正)	325
極論時事封事	252
漁村維持法	759
清康公御舊記	393
清康様御葬式等之譯書	123
吉良上野介様御下向御休御宿割帳	208
巖旅漫録(壬戌)	818

金銀圖録附言	511
金工名譜(江都)	771
近世奇蹟考	33
近世奇談(三つの談のうち)	237
近世雑話物語	35
近世叢語	222
近世八家譯集卷上抄	797
近代正説碎玉話	162
近代正説續碎玉話	163
金壇縣志	458
欽定康濟録	695
欽定康濟録	696

【く】

空々叢書	32
空中齋草鈔	320
公家衆両山參詣(新吉原由緒書に合綴)	257
公事雑書	265
くすしの一言	618
久能文庫設立趣意書	1
群書合冊	43
群書集	50
群書類從	54
群書類聚書抜	53
君則	232
軍馬秘要	792
薰風雑話	29
薰風雑話	30
郡名考	402
軍用蒐録口義	536
群類一覽	48

【け】

藝王姓氏録	322
經濟おしへ草	712
慶長覺書	178
慶長勅版考	8
慶長日記	177
啓發録	59
華陽院殿一照院殿御由緒書	108
元人來寇考(福鎌堂叢書のうち)	159
源姓淺野氏系譜	361
元和年間帳簿	760
元服書抜書(義輝公御元服記抄に合綴)	303
劍文考	772
鈴録	577
鈴録外書	578

【こ】

公儀御尋並答書留	135
興業意見(第一回)(綱領)	637
皇国沿海里程全図	454 a
好古雑記	133
耕作豊凶試抜書	726
荒政輯要	698
航西日乗	460
荒政便覽	699
荒政要覽	700
皇朝恒例行事略	302
盍微問答(十字解に合綴)	472
廣田久幸	653
荒年充糧志	706
興農要録(燒土肥料)	728
高野山聞書	134
高野山事略(福鎌堂叢書のうち)	159
廣輿記(増訂)	457
古雅録(河内國)	138
古器便覽	774
國語定本(春秋外傳)	306
告志篇	61
國朝舊章録	45
國朝舊章録	46
國朝舊章録	47
呉郡圖經續記	455
御軍令御印並旗本惣印	370

御系圖	354
御系譜	355
御系略(補正)	357
五穀無盡藏	675
古今雜纂	27
古今治平略	311
古今著聞集抜書	812
古今田制通考	721
古今都細見之圖	452
御實記	229
御寫本譜	7
御朱印記	258
御書翰	463
五事略	31
御進發御用掛御供奉御役人附	323
御代々御裏方並御連枝方御法号附	343
御代代文事表	5, 6
古談記(三つの談のうち)	237
吳地記	456
御註法華品釋	99
御當家系圖	358
御當家御式目	501
故唐律疏議	310
御年譜	378
古筆名葉集	769
五武器談	154
御善請所堰橋其外御尋ニ付書上帳	294
護法論(鰲頭)	97
護法論國字疏	98
御本日記續録	4
御本日記附註	3
虛無僧掟之事	136
古文書写	144
肥培論	729
後陽成院八ノ宮様御由緒	368
御用留	462
古老雜話(福鎌堂叢書のうち)	159
古老曼辭	295

【さ】

濟生三方	621
采配書	585

采覽異言	397
佐枝手簡	567
相模國東南部	444
相模國風土記(新編)	415
櫻島記(童喚舊語鈔のうち)	517
貞丈雜記	297
雜書	141
雜抄	37
薩長戦記	206
雜要律令	506
雜録	395
佐渡事略	416
寒風澤湊積立御用留	286
茶務僉載	739
座右抄	509
棧雲峽雨日記	819
三貨圖彙	510
斬奸趣意書辨	249
斬奸趣意書辨	250
簪喜廬詩藁初集	829
三字經(標註)	522
三州粟ヶ谷村廣忠寺御由緒	130
三州高月院古記録	131
三正綜覽	612
三倉私議	714
蠶桑祕録(實驗新説)	750
三忠傳附考	318
參陽全圖	450
山陵志	367
摺練駁説	584

【し】

字彙	794
鹽豚製造法	754
地方凡例録	277
四季草	299
舳艫訓	300
至公訓	72
巳荒子孫傳(天保年中)	663
四箇秘術	574

四書補註備旨(新訂)	67	小學存是詳註	68
使清辨理始末	291	鍾道全傳	831
静岡縣掛川警察署管内事情	496	祥刑要覽	508
静岡県管内伊豆國新舊稅額差引調	515	省儼錄	41
静岡縣立葵文庫和漢圖書目錄	17	乘槎筆記(清本繙刻)	398
静岡山林事務所状況	756	常山紀談	161
静岡真誌	351	松氏啓運記	382
四戰紀聞	535	小子獨言	78
士族ノ景況	482	上書	473
詞訟代人規則制定ノ儀上申	490	上書三種	234
七經圖題略	66	上書評論	271
思痛記	826	城池圖譜	632
實政錄	477	正徹物語	802
地頭名義考(墨水鈔 卷2, 3のうち)	140	淨土宗諸法度	122
品川及横濱近傍	442	昇平夜話	263
芝區伊豆七嶋物産會社設立大旨	639	正名緒言	146
司馬法旁註	592	常野戰爭誌畧	254
時弊論	235	諸家固系圖	356
下野國圖	430	諸家人物誌(日本)	346
下総國演說書寫	494	諸家人物誌(續)	347
社倉勸諭	716	職員錄	333
社倉議草	715	書籍目錄作者寄	9
社倉私議	720	處蕃趣旨書(内閣秘本)	478
社倉法割合	717	時樂軒物語	260
社倉麥山來書	718	神祇雜考(墨水鈔 卷6, 7のうち)	140
拾芥抄	18	慎機論	236
衆寡戰口義	571	神君御婦實能宇都志	81
銃訣	546	神卷談苑(南畝叢書 卷1のうち)	816
十事解	472	清國水産辨解	613
拾集雜記(圖書)	156	新政談	469
銃陣詳説(搦練駁説に合綴)	584	新政談	470
脩身新語	76	新撰年表	151
秋帆高島先生年譜	377	新田開發之事	654
銃砲問答	543	神道秘傳集	92
銃砲問答	544	信德錄	83
宗門御改帳	251	新百人一首	807
宿驛人馬助合考	762	陣法口占書口義	568
宿驛人馬助合考	763	新吉原由緒書	257
朱子詩傳膏肓	60		
巡回紀行	484		
巡廻紀行(第二回)	485		
舜舊記	182		
巡察復命書	480		

【す】

雖知苦菴養生物語	615
雖知苦菴養生物語	616
隨筆	805
水府追鳥狩記	783
水府公獻策	221
水府老公御密書(海防明誨論 附録)	220
隨聞雜録	238
崇廟祭名録	350
杉山社神壽歌(墨水鈔 卷1のうち)	140
豆州志稿(増訂)	420
砂降以来三年日記	662
駿河國御城圖	631
駿河國華陽院山緒書	107
駿河國輿地全圖(改正)	445
駿河國誌(明治新撰)	454
駿臺雜話抜書	21
駿藩各所分配姓名録	330
駿府御城繪圖	630
駿府廣益	197
駿府古繪圖	447
駿府政事録	198
駿府風土記	419
駿府名勝一覽圖	448

【せ】

政廈謝德鑒	441
惺窩先生倭詞集	806
正氣堂集	304
濟急記聞	669
正齋先生藏書目録	11
西山遺事	384
西山夜話	102
整政豐年記	667
税則三ツ五分之答(度筆六尺一分之考に合綴)	281
政談	468
製茶新説	737
精忠義士實説物語	218
西殿其外宴事記	240
青楓雜記	142

西遊旅譚	406
西洋菓樹栽培法	744
西洋紀聞	461
西洋神器説圖解	549
關ヶ原以前御日記写	210
關口議官視察特別書類	481
関口家資料	371 a, 371 b
關口隆正氏履歴並著述目録	375
關口隆吉氏履歴書	374
関の秋風(老人雜話に合綴)	24
雪操覺書	317
責而者艸	192
仙石騷動外雜事留(天保七年)	241
先師濟齋長沼君行狀集成定本	387
先師濟齋長沼君行狀集成定本	386
千字文註	830
潜中紀事	256
潜中紀略	255
先哲叢談	63
先哲叢談	64
先哲叢談	65
戦法蠡測(挿練駁説に合綴)	584
先民傳	345
撰要類集(嘉永)	267
戦略	312

【そ】

桑華蒙求	88
宗閑寺山緒書(華陽院末寺豆州山中村)	109
草教制	782
壯士概言	248
草賊前記 草賊後記(落照露言抄に合綴)	223
草茅危言	466
草木六部耕種法	731
遭厄日本記事	201
掃葉山房書目	10
宋李忠定公全集	832
続農家年中行事(觀農叢書)	648
粗糞工	627
孫呉副詮	591
孫子	593
孫子參同	594
孫子詮	595

【た】

大越史記全書	315
大君言行録	383
大樹寺御陣並御貫木御由緒拔書	120
泰西水法	626
泰西農學	643
泰西農業勸獎法	644
大日本國郡輿地路程全圖(增訂)	427
大日本國全圖	428
大日本租稅志	513
大日本輿地便覽	426
太平記	813
太平記之詩歌連	809
泰平年表	147
泰平年表(武家必覽 續)	148
泰平年表(武家必覽 續)	149
高山仲繩遺墨	376
多紀家藏書目錄	12
たとへ草(新吉原由緒書に合綴)	257
種粃作付飯元米處分方法諮問會議日誌	725
たまつばき	38
談海(續)	191

【ち】

畜徳録(官板)	56
千坂手抄	768
地誌目錄	401
地方官會議聞書	491
茶業改良法	741
茶業須要	740
茶業必要	738
中亜細亞紀事	459
忠孝一聞録	239

忠州救荒切要	701
朝鮮御進發之人數帳(秀吉公御檢地帳に合綴)	174
朝鮮人殺害一件(新吉原由緒書に合綴)	257
帳中教語	82
貯穀一件	690
貯粟法	735
千代田問答	49

【つ】

錕地球説略	611
-------	-----

【て】

帝室財産意見	371
隄防溝洫志	730
鉄炮改帳	278
鉄炮茶話	545
鐵砲初學抄	542
鉄炮持主名前書上帳	279
天弘記事	184
田制篇(舊典類纂)	724
殿中年中行事	275
殿中良夜詩歌	796
田法獨合點	722
田法獨合點	723
天保嘉永書留	266
天保規例	507
田圃驅蟲實驗録(勸農叢書)	732
天保甲辰録	183
天保八丁酉年大坂表騒動留	244
天明飢饉江戸騒動書留	659
天明災異記	518
田禄出納常平議	270

【と】

獨逸國開化戰記	316
獨逸國學制論	521
東海談(南畝叢書 卷2のうち)	816
東海道中舟路之概略	766
唐鑑(東葉先生音註)	307
童喚舊語鈔	517
東西問答駁説	588
東照宮御遺訓	80
東照公譜(日光山御文庫)	381
東遷成基	195
刀槍圖	773
唐國問合覺書	308
東曜婦德辨	342
登攀行狀略記	121
道愆点(新吉原山緒書に合綴)	257
當流馬書	793
兔園集抄	660
遠江官林全圖	449
遠江國市街地表面録	283
遠江國表面録	282
遠江國報徳遠讓社之條々	75
徳川記	169
徳川記	170
徳川家兵學校掟書	519
徳川氏前記	167
得岱叢書	803
徳本翁遺書	619
徳本上人言葉能素術	100
栃木縣諸調査	493
殿居裏(武家秘冊)	500
土木費之件(演説書附録)	624
圖民録	476
虎之間百首(落照露言抄に合綴)	223
鳥居家中興譜	339
度量衡検査規則	641
不問談	26

【な】

内洋經緯記	657
中江藤樹年譜(南畝叢書卷三のうち)	816
長崎縣地理小誌(改正)	424
長崎入港魯西亜江應接(嘉永六葵丑年)	202
長親公御山緒記	391
中野圓心書付(井伊家覺書に合綴)	365
中山東下記	230
浪速戰記大全	175
楠君遺事	552
南木拾要	576
南北相法修身録	623
南畝叢書	816

【に】

日光山東照宮文庫儲書調	13
日本生糸説	748
日本鑛泉誌	404
日本水土考	403
日本惣國風土記	414
日本帝國民籍戸口表	516
日本米作法(改良)	736
二物考	733

【ね】

年貢米金皆濟期日	285
年中行事	525

【の】

農家心得草	734
農家心得訓	672
農家報國法基立順序(三河國稻橋村)	652
農家三事	645
農事説話集	647
農政本論	642
農民懲誡篇	671
農喻	670
後見草(童喚舊語鈔のうち)	517
信忠公御由緒記	392

【は】

梅園叢書	36
榛原郡上長尾村年貢割付	290
榛原郡千頭村年貢割付	287
榛原郡千頭村年貢割付	288
榛原郡水川村年貢割付	289
培養秘録	727
度竿六尺一分之考	281
白石奏議	269
幕府柞胤傳	359
婆心録	86
長谷寺古銅塔銘(墨水鈔卷五のうち)	140
林崎文庫藏書目録	16
藩翰譜	335
反隅筆記	28
萬國全圖(新訂)	400
萬國通鑑(訂正)	399
萬國年鑑	139
晩村遺稿	822
萬寶全書(増補)	55

【ひ】

日置流射的書	787
備荒儲蓄	692
備荒諭書	681
火攻知要	539
火攻要訣	636
備前孝子傳	89
常陸帶	233
帔垂衣考	140
秀郷事實考	158
秀吉公御檢地帳	174
人の鏡(赤穂義士)	212
一もとひ日記	799
備藩典刑	502
百姓裏	649
評判記(當世名家)	348

【ふ】

武鑑	326
武鑑	328
武鑑(大名衆國分)	324
武經開宗	604
武經攷註	608
武經七書(標題評釋)	606
武經射學正宗	609
武經射學正宗指迷集	610
武經集註(新鐫註解)	605
武經標題佐議(新鐫)	607
服忌養實問答集	528
福鎌堂叢書	159
復命書摘要	638
武家七徳	334
府縣地租改正紀要	514
武江披砂	410
富士廻烟	801

武書大全	601
婦人鑑	85
物價論	271
佛鬼軍	103
葡萄効用論	746
船橋文書(墨水鈔卷四のうち)	140
武野俗談	344
武備睫	589
武備新書(増訂)	597
武編	596
武邊咄聞書	173
武門故實百箇條細註	298
武門要鑑抄	553
武門要鑑抄	554
布利特隣大王農政要略(善國)	646
分間江戸大繪圖	438
分間江戸大繪圖	439
文久新聞志	187
文久壬戌雜記	186
分國城圖	628
文政武鑑(新板改正)	327
文武涇渭辨	73

〔ハ〕

丙寅新聞志	190
兵械考證	775
兵鏡	602
平家物語詩歌撮鈔	810
兵書類聚	569
兵法新論	579
兵法駁論(抄練駁説に含綴)	584
兵法武蔵傳記(寶藏院世譜略に含綴)	321
兵要續録	559
兵要續録	560
兵要録	555
兵要録口義	556
兵要録口占書	562
兵要録口占	563
兵要録大綱	557
兵要録附考	556
兵要録不審問答	566

兵要録補闕	561
兵要録餘情	564
兵要録類聚	558
兵略答問	580
關邪小言	57
別段風説書(嘉永六寅七月)	479
秘魯國マリヤルツ船一件	292
ヘーン氏復命書	488
辯妄	137

【ほ】

頬當圖鑑	778
防海紀略	314
防海備覽	313
駭家必讀(新撰)	537
忘飢草	711
砲術手冊	548
方正學文粹	827
寶藏院世譜略	321
疱瘡禁誡十六條(三つの談に合綴)	237
疱瘡養生談(三つの談のうち)	237
砲槍餘響	823
寶臺院殿御由緒書	110
報徳記	74
豊年記(天下太平)	668
鳳文龍彩帖	770
墨水鈔	140
墨水流燈會記	526
北窓瑣談	814
北總詩誌	825
北總匝埜郡野手邑内裏塚建碑私祭之記	157
保四羅談	677
星野藤兵衛事歴	390
戊戌夢物語(愼機論に含綴)	236
戊戌夢物語	242
本佐録	268
本朝軍器考	633
本朝軍器考標疑	634
本朝軍器考標疑	635
本邦續々史記抜書	199

【ま】

松島図志抄(西遊旅譚に合綴)	406
松平越中守諭告	272
松平御系圖参考書(三河)	353
松平御年譜	352
松平崇宗開運録	171
漫筆	20

【み】

みかけあふぎ	273
三河軍記	172
三河國信光明寺御修復願由緒書	124
三河國信光明寺傳記	126
三河國信光明寺棟札寫	125
三河國隨念寺善徳院舊記	129
三河國大樹寺開山行狀略記	116
三河國大樹寺御寺領之事	118
三河國大樹寺御廟所御取調覺	119
三河國大樹寺古文書	166
三河國大樹寺御由緒書	117
三河國大樹寺草創略記	115
三河國二村山法藏寺御由緒書	112
三河國額田郡諸寺寶物帳	128
三河國額田郡諸寺明細帳	127
三河國法藏寺開運靈驗記	111
三河國法藏寺御廟御靈牌等之記録	113
三河國法藏寺御寶物之記	114
三河國六所明神造營奉加軸寫	93
三河物語	168
三島神社古文書	145
水鏡註目無草	105
水鏡目無草	104
道忒早筭用道中記(東海道中仙道)	405
三つの談	237

水戸救飢録	680
水戸景山老公御密書	219
水戸黃門光圀公家訓	84
美濃奇觀	417
都のそら	329
都手振	527
妙々奇談	820
民間省要	467
民間備荒録	676
明清闘記	309

【む】

夢界叢書	23
昔咄	336
武藏野地名考	412
武者小路長學院殿口義	798
陸奥出羽按察使權中納言藤原光親卿 舊蹟攷證	389

【め】

明訓一班抄	90
明訓一班抄	91
明治初期名士書簡集(關口縣令記念)	486
明良洪範	193
明曆懲忒録(童喚舊語鈔のうち)	517

【も】

蒙求啓發	71
黙齋雜記	19
黙齋叢書	587
紅葉山繪圖	629
楓山文庫書目	15

守重書簡 228

【や】

夜鶴集 87
 矢口新田神君碑 388
 野常紀聞 253
 宿方御觸流留書 764
 弊れ家のつくり話 471
 山形縣大區會々議日誌 492
 山形縣地誌提要 409
 山口久庵話 225
 山口縣郡治一覽概表 498
 山口縣大小區村名書 423
 山口縣治一覽表 497
 山田家資料 371c
 山田長政実記(會餘録のうち) 394

【ゆ】

遊後樂園記 42
 有司集覽(公武) 332
 右文故事附録 2
 遊毛百詩 824
 雪の朝 247
 喻子十三種秘書兵衛 603
 夢物語批評(戊戌夢物語に合綴) 242
 夢々物語(愼機論に合綴) 236
 夢々物語(戊戌夢物語に合綴) 242

【よ】

要篋辨志年中行事 274
 養蠶改良法 751
 養生訓 617

夜擊朝駟之術 590
 養老泉志 418
 義輝公御元服記抄 303
 鎧色談 777
 四大奇書 143

【ら】

落照露言抄 223

【り】

陸軍日典 538
 立正安國論 96
 律令要略 503
 柳營以貴小傳 360
 柳營秘鑑 340
 柳營秘説 227
 柳營婦女傳系 341
 琉球國郷帳 284
 琉球小志並補遺附説略 425
 尚域人数考(日本水土考附録) 403
 林家祖先手澤本目録 14

【れ】

歴年雜誌 176
 練心膽器械制口義 781
 練兵弓砲規則 547
 練兵諸書(類輯) 600

練兵筆談	586
聯邦志略	465

【ろ】

老人雜話	24
老農茶話	650
魯西亞崎陽上陸附出帆記(魯西亞人貢記 下卷のうち).....	200
魯西亞船入津一件(魯西亞人貢記 上卷の うち)	200
魯西亞人貢記	200

魯使應接始末	205
魯地全書	464
論語	69

【わ】

和解女四書	79
倭漢三才圖會拔(書)	22
和漢年契	152
わすれ篋	245
渡邊氏系譜	366
倭論語	319

付 録

— 目 次 —

緒 言	1
久能文庫設立趣意書	3
關口隆吉氏略年譜	5
故静岡縣知事從三位關口君碑銘	7
關口隆正氏略年譜	11
關口隆正氏著述目録	13
「關口家文書追贈の記」 序文	14

「關口家文書追贈の記」序文

祖先が学問好きであつても子孫が無学であると、せっかく苦心して集めた書物を売り払つて生活の資にしてしまい、このようにして貴重な書物が行くえ知らずになつてしまうことが少くない——これは伯父関口隆正がその養父、私には祖父である関口隆吉の蔵書の未だに記した文の一節である。しかも祖父が親しく見聞したのは、子孫が無学の故に散り散りになるに止まるものではなかつた。仕えていた徳川幕府が滅びると、個人の蔵書のみでなく幕府の重要な文書までも散亡してゆく無惨さであつたのである。晩年、苦心して集めた幕府時代の法制軍事から備荒等に至るまでの数多い書物を、久能文庫を作つてこれに収め、一括して永存しようと計画したのも、みづから見聞した右の事実を踏まえたものであつたと思う。

しかし久能文庫に収むべく用意した書物の外にも、祖父にあてた諸家からの手紙や揮毫、祖父自身のメモの類など、いくばくかのものが、わが家に残されていた。そしてその一つだけを見ても大した意味は感ぜられないが、それを一括して見ると、間違いなく幕末維新という激しい時代の空気が伝わってくるし、その激しい時代を克服しようとした古人の努力のあとまでも浮かび上がつて来る。そこで私は、これは全部を一まとめにして保管すべきであり、分散させてはならないと考え、その方法をいろいろ考えた末、現在は静岡県立中央図書館にはいつている久能文庫に追贈するのが一番ふさわしいという結論に達した。ここに於いてその交渉を近藤さんをお願いしたところ快く引き受けられ、爾来、三回にわたる寄贈をなして、そのすべてが所を得ることになつた。それだけでなく、『關口隆吉傳』まで、旧本の体裁のままに覆刻することができたのである。数年来、私の心にかかつていた大きな問題の一つは、これで解決したといつてよい。そこでさらに右の経緯を記録として残しておきたいと思ひ、その執筆の労をまた近藤さんをお願いしたことであつた。

私はこの記録を、このたびのことで一方ならぬお世話になつた方々に、お礼の印とさせていただけると念じている。同時にわが關口一族の人々に、祖父隆吉が久能文庫に寄せた心を永く忘れぬためのよすがになるならばと願つてゐる。

八十翁

關 口 隆 克

昭和五十九年九月一日

關口隆正氏著述目錄

- 立志塾時代
阪東遊記。溫故叢書(印行)。牛山復讐錄(印行)。
- 上海時代
集古十種漢譯。續滄海一粟。清國公文一班(印行)。杭蘇日記(燒失)。東洋年表(燒失)。
- 静岡時代
山田長政傳(印行)。同事蹟考(新聞)。筑山御殿事蹟考(新聞)。聖諭訓義(印行)。勅語字訓(印行)。國文淵源(印行)。静岡三世譚(印行)代作。備荒小錄(印行)。先人行實。晴耕雨讀(雜誌)。
- 旅順時代
砲槍餘響(印行)。金州半島調查報告書。清音字典。
- 臺中時代
臺灣歷史歌(印行)。臺中沿革史(雜誌)。臺中兵話(新聞)。
- 初度京都時代
日本形勝叢談(印行)。大和引路(印行)代作。
- 伏見時代
遼東語類(印行)。朝鮮歷史歌(印行)。
- 從軍時代
蓋平調查事項。安東縣調查事項。
- 再度京都時代
兒玉大將傳(印行)。南滿鐵路行(印行)。支那時文談論(印行)。
- 大連時代
南滿鐵道名所案内(新聞)。滿州物產字引(印行)。
- 臺北時代
夢界叢書(印行)。飯坂と湯野(印行)。續砲槍餘響(印行)。夢界兩婦傳(印行)。大石內藏之助妻(新聞)。

- 明治三十七年五月 (四十九歳) 陸軍通譯となり滿洲に赴く
- 明治三十九年一月 (五十一歳) 辭職歸朝
- 明治四十年八月 (五十二歳) 南滿洲鐵道會社員となり大連に赴く
- 明治四十二年 (五十四歳) 明治四十四年まで再び臺灣に渡り銀行及印刷會社創立の業に従ふ
- 大正元年七月 (五十七歳) 御大喪以後夢界と號し世事を抛つ
- 大正二年 (五十八歳) 九州を巡遊す
- 大正三年 (五十九歳) 福建省福州に赴く
- 大正四年 (六十歳) 福島縣湯野村に寓す
- 大正六年 (六十二歳) 旅順高等學堂教師となり支那人學生に漢文を教ゆ
- 大正八年 (六十四歳) 辭職京都學林町に寓す
- 大正十一年十二月 (六十七歳) 泰歐州より歸朝まで赤穂華岳寺住職を助けて義士の事蹟を調査編纂せしむ
- 大正十二年四月 (六十八歳) 東京に移り九月大震に遇ひ更に静岡に移る
- 大正十四年三月 (七十歳) 新居成り東京市外大井町に移る
- 大正十五年一月 (七十一歳) 疾に罹り四月二十六日歿す。静岡市外臨濟寺に葬る、諦觀院夢界正慶居士

從四位。十五年十二月。叙勳三等。十七年九月。任靜岡縣令。縣廳卑陬。人以為不可居。君曰。所期縣治美耳。廳于何有。公退有暇。輒致力於救荒書。曰吾以備他日也。十九年七月。任靜岡縣知事。叙勅任官二等。十一月。叙正四位。君政績之美。不可勝數。而尤不欲擾入民。常以休養生息為務。君之所以為良二千石。而其名被重於朝野。以此也。二十二年四月。愛知縣施行招魂祭。請君來會。乃坐土工瀛車。既過阿倍川。與東行瀛車相觸。君左足負傷。時十一日午時也。事聞四方。親王大臣。貴族故舊。或遣使慰問。或遣醫視者。陸續不絕。十八日特旨敘從三位。五月十七日遂薨。享年五十又四。葬于駿河國安倍郡安東村臨濟寺。遠近會葬者五千人。是日。勅賜白絹二匹。金二千圓。君為人沈毅寡言。天性忠孝。最智略。寬厚剛直。所欲成不避禍福。強記博洽。精於本朝典故。傍及外國。又能鑑別刀劍鼎彝。自奉薄而施人厚。親戚故舊。有貧者。周卹甚至。居官清廉。任才使能。不擇親疎。不念舊惡。故人樂為之用。配稻生氏先歿。繼娶山田氏。生一男四女。男曰壯吉。養清水氏子隆正為嗣。妻以長女。隆正讓家壯吉。山田氏歿。娶大塚氏。生

及馬腹。馬驚逸而免。後安房守寄書。署曰鐙齋先生。明治元年。將軍納旌鉞。天子親政。將有王師東下之舉。江戶騷擾。人心鼎沸。二月。前將軍入上野大樹院。恭謹待詔。輪王寺命駕西上。表將軍無他意。君等與有力焉。四月。大總督將入江戶城。君爲精銳隊頭。取兼町奉行支配調役。君務鎮壓暴徒。既而有詔。封德川氏駿河。君爲公用人。拮据其間。苦慮非一。五年正月。任三瀨縣權參事。十二月。轉置賜縣參事。叙從六位。未赴任。更轉山形縣參事。八年十二月。任山口縣令。九年一月。叙從五位。先是前原一誠辭職歸鄉。將有所爲。暴徒潛伏。物議騷然。君處置暴徒。寬嚴得中。於是萩城之亂。官軍大捷。一誠就縛于嶋根縣。尋處斬。殘黨四散。不出數日。賊徒悉平。十年二月。鹿兒島亂作。前原殘黨將復據萩城爲之應援。君先機處置。不使得其志。君之功居多矣。九月。鹿兒島亂亦平。蓋山口縣爲中國九州之咽喉。自熊本萩城之役。馴致鹿兒島之亂。四海沸騰。人情反覆。不知所底止。君處身其間。遣兵餽糧。未嘗安居。功名顯著。世稱賢縣令。亂平之後。君益以休養民力爲念。或勸君脩治道路。君但笑而不答。十四年。任元老院議官。叙

故靜岡縣知事從三位關口君碑銘

君諱隆吉。字良輔。號默齋。關口氏。其先出六孫王經基。經基廿世孫氏廣。稱關口刑部少輔。爲今川義元妹夫。義元養其女。配東照公。所謂築山夫人也。今川氏亡。氏廣孫胃母。姓曰飯泉左內。爲僧居武藏駒籠村。建一寺。曰德源院。是爲中興祖。左內後數世。爲大草氏臣。至君祖壽仙。任水野美濃守。配關口氏。生女。養隆船君爲女婿。後爲幕府御持弓與力。卽君之考也。天保七年。九月十七日。生君子本所相生街。君幼敏慧。有奇童稱。受句讀於木村金平。筆法於松嶋故山。年十三。出就齋藤篤信齋。學擊劍。最潛心。長沼流兵法。就大橋訥菴治經義。十七。父老。襲其職。是時。米艦來浦賀。天下漸將多事。君益激勵。講戰陣事。博交天下名士。每有義舉。君不惜資力。周旋其間。屢上書論時事。流涕長大息不啻也。旣而一橋公襲將軍職。是時志士異說。開鎖紛紛。未有所歸。君過九段坂。逢勝安房守跨馬來。君謂安房守。唱開港說。誤國者也。拔刀擊之。誤中其鏡。刀鋒

同 十二月二十八日 (同)

明治十五年十二月七日 (四十七歳)

明治十六年四月十二日 (四十八歳)

明治十七年二月十三日 (四十九歳)

同 九月二十七日 (同)

明治十九年七月十九日 (五十一歳)

明治二十一年五月十五日 (五十三歳)

明治二十二年二月四日 (五十四歳)

同 四月十八日 (同)

同 五月十七日 (同)

同 五月二十一日

山口縣下小揖小學校資本として金拾圓差出したるに依り木杯一個下賜せらる

勳三等に叙せられ旭日中授章を賜ふ

地方巡察仰付らる

高等法院陪席裁判官仰付らる

静岡縣令に任せらる

静岡縣知事に任せられ勅任官二等に叙せられ上級俸を賜ふ

別格官幣社東照宮、國幣小社神部神社淺間神社大歳御祖神社へ告祭勅使として參向仰付らる

憲法發布並皇室典範御治定に付奉告のため静岡縣管内官國幣社勅使として參向仰付らる

特旨を以て位一級を進められ從三位に叙せらる

薨去せらる

葬送に付勅使として静岡縣書記官伊志田友方參向白纏緋二足下賜せらる

祭資金千圓下賜せらる

(静岡縣知事官房所藏の同氏履歴書より抄録す)

關 口 隆 吉 氏 略 年 譜

(諱隆吉、字良輔、號默齋)

天保七年十二月 武藏國葛飾郡本所相生町一丁目に生る(墓銘には九月十七日生るとあり)

明治五年一月四日 (三十七歲)

三瀨縣參事に任せらる

同 十一月二日 (同)

置賜縣參事に任せらる

同 十一月十日 (同)

從六位に叙せらる

同 十一月二十三日 (同)

山形縣參事に任せらる

明治六年十二月二十七日 (三十八歲)

山形縣權令に任せらる

明治七年二月十八日 (三十九歲)

正六位に叙せらる

明治八年六月十二日 (四十歲)

五等判事に兼任

同 十二月二十七日 (同)

山口縣令に任せらる

明治九年一月二十五日 (四十一歲)

從五位に叙せらる

明治十年六月十四日 (四十二歲)

學校資本として金五拾圓差出したるに依り木杯一個下賜せらる

同 七月 (同)

山口縣逆徒暴動に會し勵精盡力したるに依り慰勞の爲め酒肴料金拾五圓下賜せらる

同 十二月十八日 (同)

鹿兒島逆徒暴動の際盡力不尠に依り勳四等に叙せられ金五百圓を下賜せらる

明治十二年二月四日 (四十四歲)

静岡縣下學校修繕費として金拾七圓差出したるに依り木杯一個下賜せらる

明治十四年二月十二日 (四十六歲)

議官に任せられる

同 三月二十五日 (同)

從四位に叙せらる

同 八月六日 (同)

山形縣權令奉職中地租改正事務勉勵に付其賞として白縮緬二疋下賜せらる

第五條

寄附書籍ノ目錄及所藏者ノ姓名豫メ報告アルヘシ
但シ文庫寄附書籍細目規則來ル廿年一月實施ノ日更ニ一本ヲ郵送スヘシ

久 靜
岡 山

久能文庫假事務所

久能文庫建設目論見現況

一發起者 故靜岡縣知事關口從三位

一目的 舊幕府時代ノ書類ヲ始メ汎ク古今ノ文書ヲ集輯保存スルモノトス

一位置 駿河國有渡郡久能村久能山東照宮境内之五層塔ノ址

一構造 千鳥破風多門造二階建、土瓦葺、桁行五間梁間三間軒高十六尺正面壹間庇

一經費 但廿二年十一月起工廿三年三月落成ノ見込、此建築費見積高金七百圓宮司伯爵柳澤保申寄附ノ約定

一保存費 東照宮社入金第二部ノ内ヨリ一ケ年金拾圓ヲ出シ之ニ充ツ、殘餘ハ保存金トシテ積立ルモノトス

一書籍 有志者ノ寄附金ヲ蓄積スルモノトス

一保管者 故靜岡縣知事關口從三位既納

一保管者 東照宮神職

右文庫設立ニ付關口家ノ依囑ニ依リ評議者知左

柳 澤 保 中 相 原 安 次 郎 近 藤 弘
蜂 屋 定 憲 大 井 重 古 宇 都 野 正 武
以 上

明治廿二年十一月十五日

(右ハ故關口隆吉氏ノ次子ナル京都帝國大學圖書館長文學博士新村出氏所藏ノ原本ニヨル)

久能文庫設立趣意書

久能文庫建設ノ廣告

新ヲ競ヒ奇ヲ鬪ハシ精ヲ比ヘ巧ヲ爭ヒ、西、歐ヲ摹倣シ、南、米ヲ折衷シ駁々翹々日ニ就リ月ニ將ミ國家開明文運旺盛ノ時ニ際シ所謂久能文庫ヲ建設スルヤ世態ニ違背シ事勢ニ忤戾スル如シト雖トモ、然レトモ是ノ舉素ヨリ發議者好古ノ一癖ニ出ルニ過キスシテ他アルニ非ルナリ。按スルニ昔者北條氏ノ金澤文庫足利文庫〇〇氏ノ林崎文庫徳川氏ノ駿河文庫富士見文庫楓山文庫ニ於ケル多ク年所ヲ歷書庫ト共ニ廢頽シ其縷々絶セサルモノ、獨リ伊勢ノ林崎下野ノ足利二庫アルノミ。然リ而シテ偶々現存スル所ノ書ヲ見ルニ概ネ皆宋明古版ノ經史ニ止マリ、我歴史地理等ニ關係スル者アル鮮シ。故ニ今久能文庫ハ專ラ歴史地理統計法律沿革諸科ニ供用スルノ古書舊籍ニ在リテ、版本寫本斷簡折昏ヲ論スル無ク凡ソ我靜岡地方ニ因由緣故アルモノヲ搜羅蒐聚スルヲ先務ト爲シ、經典子史ノ如キハ乃チ其次トス、亦敢テ拒ムニ非サルナリ。抑モ歐米諸學士ノ一筆ヲ論シ一件ヲ説クヤ遠ク希臘羅馬等ノ舊國古史ヲ溯查シ其書ヲ尊重スルコト金玉ノ如シト聞ケリ、然ンハ則發議者平生ノ一癖他年博雅ノ學士史氏東遊西行地理沿革等ノ編集著作アルニ當テ是レ此ノ文庫未タ必スシモ小補無シト謂フ可カラス。江湖同好ノ君子其珍藏スル所ヲ愛マシ陸續寄附セラレンコトヲ懇望ス。

明治十九年十一月

發議者
關口隆吉
擔當者

寄附書籍ノ要則

- 第一條 久能文庫ハ〇〇郡久能山上ニ創立ス但シ當分神庫ヲ代用スルコト
- 第二條 寄附ノ書籍ハ目錄ヲ編成シ寄附者ノ姓名ヲ詳記シ專ラ永遠ニ保存スルヲ要ス
- 第三條 一切ノ費用ハ都テ發議者ノ擔當ニ係リ寄附金等ヲ要セス、若シ寄附スル者アルトキハ書籍ノ保存費ニ充ツ
- 第四條 舊家傳來ノ書ニシテ門外ニ出スヲ許サ、ルモノハ其寫本ヲ寄附スヘシ、或ハ文庫主任者ヨリ原本ヲ借寫シ後チ返還スルコトアルヘシ

るが又同時に、維新前後より明治廿年頃までの我國の中央政治及地方政治に關する好資料たることは申すまでもないのである。惟ふに封建政治廢止せられて中央集權の王政復興して之を完成せんには中央地方共に行政の衝に當る先輩の苦心は今日吾等の想像以上の難事であつたのである。能く之を成就して明治政府の基礎定まり、明治二十三年立憲政體確立するまでには内憂外患も尠くはなかつたが、大體に於て明治の大改革も順調に進行して今日あるを致したのは上御一人の稜威と、我國體の然らしむるものがあつたのではあるが、爲政者の人々の施設經營宜ろしきを得たる功績は遺るべからざるものがある。是等の事情を具體的に物語る所の志料を含める此蒐書を整理して學界の參考に供するは頗る意義あることと信するので、特に簡單なる解題を附して參考に供することとした。斯る蒐書に解題を附するには相當に苦心と注意とを要することは申すまでもないが、尙ほ幾多の粗漏なきを免れないのである。看る人幸に之を寛恕せられ之が批正につき勞を惜まれざらんことを切望する。

此蒐書は故關口隆吉氏自から蒐められたるもの多きを占むるも、養嗣子隆正氏が蒐集に筆寫に其事業を輔けられたのである。或るものは隆正氏自からの秘藏書も散見するのである。氏は支那學に造詣深く、清國著名の學者と交はり厚く、加ふるに詩文に長じたるので斯る蒐書の成れるのも偶然でないのである。

本書に隆吉氏の年譜に添ゆるに隆正氏の年譜を以てしたのは之が爲めである。讀者之を諒せられんことを。

本書を本文庫にて編纂するに當りて隆吉氏二男 京都帝國大學教授、文學博士新村出氏及隆正氏の嗣子東京朝日新聞社員法學士關口泰氏の助力を受けたること尠くないのである。茲に之を記して謹んで兩氏に謝意を表す。

昭和三年三月

静岡縣立葵文庫長 貞松修藏

緒言

久能文庫は本文庫の特別蒐書で、本縣令故關口隆吉氏の所藏せられたものであつた。同氏本縣在任中に之を基本として本縣下久能山に圖書館を設立して之を公開せんとすの計劃（別項同館計劃書參照）を進めて居たのであるが、明治二十二年三月不慮の出來事で負傷し同年五月薨去せられたので其意を果さず、其儘久能山社務所に保管してあつたものである。

大正十年本文庫設立の議決定するや直に當時濱松高等工業學校長であつた長子關口壯吉氏は此蒐書の全部二千餘冊を厚意を以て寄贈すべき旨本縣知事道岡秀彦氏に申出でられたので、知事は之を受納して本文庫に藏むることとなつたのである。以來既に七年餘を経過したるが、本文庫は創設及開館事務に忙はしく之を整理するの機會を得なかつたが、夫等の事務も稍々片付いたので茲に之が目錄を編成して解題を附し斯道の參考に資することとなつたのである。

關口隆吉氏は別項其墓碑銘等にも見へるが如く幕末の志士で後明治政府に仕へては福岡、山形、山口縣等に權參事、參事、縣令に歴任して維新草創の地方行政に當りて功績を擧げ、尋いで元老院議員に任せられ中央政治に參畫し、明治十七年九月本縣令に任せられ明治二十二年五月薨去せらるまで、其任にあつたのである。其間本縣政に拮据勲勵して殘せる功績は決して尠くないのである。維新創業時代のこととて其苦心は尋常一様でなかつたのである。

現縣廳舎の新築の如きも同氏計劃になるものであるが、就中産業、社會事業方面に盡せる功績は没すべからざるものがある。我が縣は社會施設及産業等に於て他府縣に比して一等地を抜く所以のものは風土人情の宜ろしきと地の利を得たるによること多しと雖も、氏の任にある間に其の指導誘掖宜ろしきを得て其基礎を作つたことは疑ふ餘地はないのである。

此蒐書中にある圖書、記録は是等行政の參考資料が多いのを見ても其間の事情を推知することが出来るのである。實に此蒐書は同氏の一生を如實に展開せりと言ふも過言でないやうである。

右に述ぶるが如く此蒐書は關口氏が任に中央に地方にある間に集めたるもので、志士とし行政官として同氏の傳記を物語るものであ

静岡県立中央図書館 久能文庫目録 増補改訂

平成元年10月1日 発行

編集発行 静岡県立中央図書館
静岡市谷田 620 番地 (〒 422)
電話 (0542) 62-1241

印刷 黒船印刷株式会社
静岡市登呂 2 丁目 4-25 (〒 422)
電話 (0542) 86-0236